研　究　集　録

第 28 集

（第２分冊）

（その２）

昭和60年度

中学校 創立40
高等学校 創立30 周年を記念して

――本校における中・高一貫教育――

（行事等における中・高一貫教育の実践と課題）

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校
大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎

研　究　集　録

第 28 集

(第2分冊)

(その2)

昭和60年度

中学校 創立40
高等学校 創立30 周年を記念して

——本校における中・高一貫教育——

(行事等における中・高一貫教育の実践と課題)

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校
大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎

目　　次

行事等における中・高一貫教育の実践と課題

［文化活動］

§１　文化活動の教育的意義……1

　１　本校の文化活動のねらい……1

　２　本校の文化活動……1

§２　中学校における文化活動……1

　１　学芸会・鑑賞会・講演会……1

　２　自由研究……6

　３　文化クラブ発表会・展示会……12

§３　高等学校における文化活動……17

　１　芸能鑑賞……17

　２　博物館見学……18

　３　講演……18

§４　図書館活動……20

　１　蔵書数の変化と利用状況の変化……20

　２　校内読書感想文コンクール……22

　３　図書委員会の活動……22

　４　図書館活動の課題……23

§５　今後の課題……24

［保健体育活動］

§１　保健行事……26

　１　保健行事の目標と概観……26

　２　スポーツテスト……30

§２　体育的行事……32

　１　体育大会……32

　２　臨海訓練……47

　３　耐寒訓練・マラソン大会……58

　４　遠足……66

　５　富士登山……68

　６　スキー訓練……73

［合宿訓練・修学旅行］

§１　合宿訓練……82
　１　中１合宿訓練……82
　２　高１合宿訓練……92
　３　附高ふるさと村……100
§２　修学旅行……104
　１　中３修学旅行……104
　２　高Ⅲ修学旅行……111
　３　今後の課題……118

［生徒会・自治会］

§１　生徒会……119
　１　生徒議会……119
　２　三附中・交歓会……125
§２　自治会……129
　１　附高祭……129
　２　百粁徒歩……138
　３　音楽祭……149

［クラブ活動］

§１　本校クラブ活動のねらい……153
　１　クラブ活動のねらい……153
　２　クラブ活動……153
§２　中学校におけるクラブ活動……154
　１　クラブ活動参加状況の移り変わり……154
　２　クラブ活動の現状……156
§３　高校におけるクラブ活動……159
　１　クラブ活動参加状況の移り変わり……159
　２　クラブ活動実態調査……161
　３　クラブ活動の研究発表……163

文　化　活　動

§１　文化活動の教育的意義

１　本校の文化活動のねらい

教科活動・教科外活動のいずれに関連するものであっても，その文化活動を通して豊かな充実した学校生活を経験させ，自律的，自主的な生活態度を養うと共に，民主的な社会及び国家の形成者として必要な資質の基礎を育てるためのものである。

このため，次の諸点を目標とする。

① 文化活動の中から，文化の担い手，文化の創造者としての基礎的な資質を養い，協力して共同生活の充実発展に尽くす態度を養う。

② 文化的遺産に触れ，文化的活動に参加することによって実践的に文化を認識し，広く公正に考え，判断し，かつ自発的・積極的に参加，実践してゆく能力の伸長を図る。

③ 交化活動に参加することによって共通の問題を知り，相互理解を深めてゆく中から個性を伸長すると共に，集団の規律を遵守し，人間としての望ましい生き方を自覚させ，将来の生活において自己を表現する能力を育てる。

④ 文化活動において平素の学習活動の成果を生かし，健全な趣味や豊かな情操を育て，余暇を有意義に生かす精神や態度の確立を図る。（「研究集録　第18条」より）

２　本校の文化活動

本校の文化活動は，大別次の２つの場合がある。

① 各教科・科目の活動に関連するもの

② 各教科以外の教育活動に関連するもの

①は各教科独自の活動であるが，②と有機的に関連していることが多い。②は，学校行事，生徒会及び自治会活動として行われる。

中学校では，自由研究発表会，学芸会，文化クラブ発表会，鑑賞会（音楽，演劇，映画，狂言等）があり，高校では，鑑賞会（演劇，能，歌舞伎，文楽，博物館見学等），講演，附高祭，音楽祭がある。更に，図書館の利用も文化活動の大きな柱である。

中・高一貫しての文化活動という面からみると，中学校における学校行事としての学芸会，文化クラブ発表会，音楽会は，高校においては自治会活動の一環として附高祭，音楽祭に継承されている。

§２　中学校における文化活動

１　学芸会・鑑賞会・講演会

(1) 学芸会

学芸会，鑑賞会（映画鑑賞，観劇，音楽鑑賞会，講演会などを含む）は，中学校の文化活動の主要なものである。学芸会は，昭和23年２月14日(土)に芸能祭という名で事実上発足した。附中新聞第２号は，その様子を，次のように伝えている。「私達の盛り上がる熱と意気で開かれたはれの附中芸能祭は，２月14日，小人数ながら無事りっぱにすみました。附中開校第１回目の芸能祭，考えるとあまりにも不安が大き過ぎたという感じがふと，心の中に起こるのでした。決して見劣りのせぬりっぱなもの，と評してよいと思います。これというのも私達が組の為，否！附中の向上の為を思う心のたまものと言ってよいでしょう。しかし，私達は今もって反省しなければなりません。来年の芸能祭をより立派に，否！この附中をますます名に恥じない学校としてゆくために―。」そこには，新しい学校が行事を作り上げていく際にみられる創造の喜びがみなぎっていた。

学芸会という名で行事化されたのは，昭和25年３月19日の第３回からである。生徒会主催で，実際の運営は生徒会文化部が行っている。３月実施ということもあって，卒業生との送別会の意味も加えられていた。内容は劇を中心として，バレーなどが上演され，PTAや教官の有志が出演している。昭和26年度の学芸会からは，開催の時期が２学期となり，附高創立後は，附高生が賛助出演したり，卒業生で音楽界に進んだ者が出演したりしている。昭和32年度からは，各クラス毎の劇が，各学年１つにまとめられ，新しく各学年の音楽発表を行うようになった。更に，昭和40年度からは，自由研究の発表も加えられた。

このような形での学芸会は，昭和43年度まで続いたが，昭和44年度には，全国的に起こった学園紛争によって，大学本部が封鎖され，大学講堂の使用が不可能になったので，会場を小講堂に移し，劇も今までの各学年１つから，各クラス単位で行われることになった。その後，学級増に伴う会場の手狭さや，配分時間の短縮などの理由から，昭和49年度からは自由研究の発表を，学芸会より分離させることになった。

ここ10年間の学芸会の歩みを振り返ってみると，昭和51年度からは，有志企画も廃止され，現在，行われているような各クラスによる演劇の競演のような形となった。各クラスの上演時間は，１，２年20分，３年30分で，生徒たちは，ホーム・ルームの時間や放課後を利用して，話し合いを通して計画をたて，各クラスの特色を出した劇づくりに取り組んでいる。生徒たちにとって，学芸会は，またとない企画力や行動力を発揮する場でもある。それだけに生徒の意気込みもさかんで，他の行事にみられない創意や工夫が，随所にうかがわれる。

次に，最近10年間の学芸会で，生徒によって，上演された劇の一覧表を掲げる。この表からも，うかがわれるように，生徒が取り上げた劇の内容は，名作古典的なもの

から，SFもの，社会問題を取り上げているもの，更には，生徒自身による創作ものなど多方面にわたっている。そこには，社会の動きに対する生徒たちの意識が敏感に反映していることをうかがうことが出来る。

学芸会が，生徒の人間形成の上で，どのような役割を果たしているかについては，

学年 年度	1　　年	2　　年	3　　年
51	ペロ出しチヨンマ ベニスの商人 改心 処刑	青い鳥 夜明け 新二十四の瞳 ひげの天使	屋上の狂人 愛と死との戯れ 春琴抄 友情
52	チョコレート戦争 白雪姫 オズの魔法使い マッチ売りの少女	夕鶴 おらたちにや口はねえだに 野菊の墓 思響の彼方に	十二夜 シンデレラ 三年寝太郎 たけくらべ
53	貧乏神と福の神 桃島金太郎 ベニスの商人 無人島見聞録	グリーンスナイパー 父帰る 水戸黄門ー古寺の一件ー ガンバの冒険	吉備津の釜 さぶ 絶唱 サイラス・マーナー
54	真夏の夜の夢 くらがり峠 貧乏神と福の神 だれかがよこした小さな手紙	赤いろうそくと人魚 野菊の墓 お月さんもも色 たけくらべ	シラノ・ド・ベルジュラック 石の微笑 おとうと HAMLET
55	いとしき友よ ほっぺん先生の日曜日 きれいな手 ベニスの商人	警察官と讃美歌 ジーナと五つの青いつぼ トムじいやの小屋 最後の一葉	人形の家 和解 なつかしのハイデルベルグ 春琴抄
56	ひずみ リア王 水戸黄門 竹取物語	車輪の下 小僧の神様 街の灯 真夏の夜の夢	ウエストサイド物語 未亡人 検察側の証人 誤解
57	地下47階 武士になった魚屋 靴 スペースモンキー	招かれざる客 判決 ～12人の怒れる男より～ そして誰もいなくなった 最後の一葉	初恋 果樹園のセレナーデ ひまわり 余波

学年 年度	1　　年	2　　年	3　　年
58	赤ずきん 赤ずきん 赤ずきん 赤ずきん	黄色いアイリス 検察側の証人 友情 卒業	異邦人 人形の家 春琴抄 武器よさらば
59	ベニスの商人 不思議の国のアリス 走れメロス ジーナと五つの青いつぼ	素直な戦士たち ロミオとジュリエット 首飾り 賢者の贈り物	明日に向って撃て 海と毒薬 悲しみよ，こんにちは ラスト・クリスマス
60	わたしだけの時間 ―中学生日記より― 二十年後 船乗りプクプクの冒険 未来版桃太郎	0にはもどれない 改心 空白の時間 父帰る	十二夜 レモン・ドロップ・キッド 私は貝になりたい THE KID

学芸会後に開かれる各学級の話し合いなどからも，知ることが出来る。また，数多くの生徒が卒業時に発行される文集や，学年修了後に作られた学年文集などで学芸会をテーマに取り上げる生徒が多い。それらにみられる幾つかを挙げてみると「学芸会のために，クラス全員が全力を尽くした。一生懸命に台本を書き，大道具を作り，小道具を工夫し衣装を考案した。そして，舞台を作り，照明，音響も加えて場面を作った。だが，やはりこの全員の努力が実るか実らないかは，私たちの舞台の上での演技で決まるだろうと思った。たった８人で果たしてどうやったら劇が成功するか，不安だった。が，今となっては，自分では大成功だと思っている。声の強弱，手の動き，場所も意見を出し合い，１人をかこんで，両方から手を引っぱって動作を教え合うこともあり，手のひらの向きを上にするか下にするかで，討論したこともあるほど，皆，懸命に考えた末，出来た劇だったからだ。私たちは，助け合いながら，一つの“劇”を完成させた。この中で，クラス全員には，強い団結力が出来たと思う。」また，ある生徒は，「私も，これほど伸び伸びと，みんなを信頼して演技出来たことは，かつてない。これも，みんなが自分の受け持ちの仕事に，それぞれ真剣に，本当に真剣に取り組んで来た成果であろう。劇が終わったとき，私は満足感でいっぱいになった。精一杯がんばった喜び。みんなで力を合わせ，一つのものを作り上げた喜び。学芸会は，私に素晴らしい思い出をくれたのだ。」そこには，ものごとを創造した喜び，そして，ものごとが完成成就した時の喜びが満ちあふれているのを感ずることが出来る。また，上級生の下級生に対する無言の指導と励ましもみられる。１年生は３年生の演技をみて「ほとんどの人がその人物になりきっているので，テレビなんかで見るような芝居ぐらいうまいものばかりだった。あれだけの演技をするには，沢山の打ち合わせや練習が必要だし，それからあれだけのセリフを覚えるのは，相当なものだと思う。おそらく，学芸会に必死になっている人でなければ決して出来ないと思う。自分たちも来年は気をひきしめて学芸会に臨もうと思う。」と文集に記している。

生徒の演技力については，ここ数年間で著しい向上がみられる。また，音響や照明

効果の面でも，創意工夫がみられる。しかし，その反面，劇のつっこみ方が弱くなっているという声もあり，今後の活躍が期待されている。

(2) 鑑賞会・講演会

本校においては，生徒の豊かな情操と人間形成の上で役立つことを願って，機会を設けて，鑑賞会を実施している。中学校卒業時には，講師を招聘し，人生の節目である高校進学に当たって，新しい決意と覚悟を持たせるようにしている。過去10年間に実施したものを下に記録としてとどめておく。

昭和51年５月４日　観劇「タルチュフ」
昭和51年７月12日　映画鑑賞「抵抗の詩」
昭和51年３月７日　卒業記念講演　保田喬氏「スポーツと私」
昭和52年７月11日　映画鑑賞「八甲田山死の彷徨」
昭和52年12月16日　狂言鑑賞「萩大名」「鬼清水」
昭和53年３月13日　卒業記念講演　原田輝雄氏「魚に魅せられて四半世紀」
昭和53年10月31日　観劇「おさよとカッパ」
昭和54年２月15日　映画鑑賞「白き氷河の果てに」
昭和54年３月６日　卒業記念講演　安田博氏「未来への挑戦」
昭和54年９月７日　音楽鑑賞　京都市交響楽団
昭和54年10月29日　観劇「おろちの里」
昭和55年２月15日　映画鑑賞「天平の甍」
昭和55年３月５日　卒業記念講演　田子浦親方「私の青春」
昭和55年10月24日　映画鑑賞「太陽の子」
昭和55年10月30日　観劇「リア王」
昭和56年３月９日　卒業記念講演　釜本邦茂氏「サッカーにうちこんだ青春」
昭和57年２月15日　映画鑑賞「長江」
昭和57年３月８日　卒業記念講演　小島考治氏「バレーボールと私」
昭和58年２月15日　映画鑑賞「マタギ」
昭和58年３月７日　卒業記念講演　坂田好弘氏「私のラクビー人生」
昭和58年４月18日　観劇「頼　山陽」
昭和59年２月15日　映画鑑賞「ロングウエイ・ホーム」
昭和59年３月５日　卒業記念講演　森　浩一氏「私の考古学人生」
昭和59年12月17日　音楽鑑賞　邦楽
昭和60年２月15日　映画鑑賞「ロンリーウエイ」
昭和60年３月６日　卒業記念講演　梶谷信之氏「私の体操人生」
昭和60年７月９日　映画鑑賞「ウォター・シップ・ダウンのうさぎたち」
昭和60年11月15日　民話教室　沼田曜一氏
昭和60年12月12日　講演　南　正文氏「私のおいたち」
（身障者の方々について考える）
昭和61年２月15日　音楽鑑賞「わたぼうしコンサート」

昭和61年３月11日　卒業記念講演　平林克敏氏

2　自由研究

夏休みにおける自由研究に対する取り組みは，附中創立以来の伝統的な企画として，今では，確たるものとなっている。１学期の中頃になれば，生徒・教師の間でテーマの選択についての話題が出て来る。しかし，例年のことながら，テーマの決定には生徒はもちろん教師にとっても頭の痛いところである。

テーマの決定と指導については，次のようになっている。

① １年生は担任の指導でテーマを決定し，研究する。

② ２年生は担任の指導でテーマと指導教官を決定し，指導教官の指導で研究する。

③ ３年生は担任の指導でテーマを決定し，研究する。
（指導教官を選び指導を受けることも出来る。）

特に２年生については，６月下旬の数日，放課後に教科別に一斉指導日を設けて全教官が待機して相談を受けている。しかし最近の傾向として，あらかじめ自分のやりたいテーマを持って指導に臨むというより，その場で担当教官に白紙の状態で何をやればよいのかという生徒も，少なからず見受けられる。また，中学生のレベルではなし得ないようなテーマを掲げて我々教官を驚かせる生徒もいる。附中新聞第185号（昭和51年７月19日発行）の「有意義に送ろう40日」と題する記事の中に，「(前略)―何といっても夏休み最大の課題は自由研究である。―(後略)」とあり，教官からのアドバイスとして，「自由研究のテーマとしてふさわしいのは，日常生活において，ふと疑問に思ったこと，感激したことについて，深く知りたいことがらでよいと思う。決して，大人の研究のまねごとをするのが優れた研究ではない。中学生の目を通してやりたいことをやるのが一番よいのではないだろうか。テーマが浮かんでこなかった人は，自分の生活のあり方を再検討すべき点が多いのではないだろうか。―(後略)」とある。また，附中新聞第199号（昭和54年８月10日発行）には，自由研究担当教官の「楽しい自由研究を！」と題する記事の中に「自由研究テーマ一覧表が配られたとき，教官室で次のような感想があった。『このテーマ一覧を見ていると，まるで大学の卒業論文のテーマ一覧表のようだなあ。』この感想には私もまったく同感である。―(後略)」とある。

生徒の選んだテーマの例については，次にその一部を挙げておく。

〔自由研究テーマ一覧（昭和59年度）より)〕

1　　A（38期生）

石原常仁	富田林寺内町について
伊藤浩史	四天王寺のめだたない所について
井上雅仁	電波
植田昌宏	基礎体力について
上村　治	夏の気象と夜の寝室の涼しさについて
畦田昌宏	すいみん時間と学習の効果

梅本大介	天気予報について
大西孝司	金閣寺と銀閣寺
尾上　誉	大阪名物について
加藤進一郎	恩智の史跡について
神前幸造	ダンゴムシの観察
川上貴由	自分の町の歴史
川端　匡	京阪間における輸送力戦争
木村俊仁	「城」について
黒石匡昭	国鉄環状線について
澤井宏和	シダ植物について
芝田豊通	人々の選ぶ自動車の色，形，特色，内容
段野光紹	いろいろな池のプランクトンについて
服部洋平	泉北ニュータウン対千里ニュータウン
尾藤基行	滝畑ダム
松尾　哲	枚方の遺跡
眞鍋晃篤	〝なんば〟について
最上太郎	小山荘園付近の地図
森實裕基	防音効果について
山鳥忠宏	城について
吉田昌宏	うなぎについて
太田香織	大阪府盲人福祉センター
梶原以知子	藤井寺の古墳
菊地直子	天神祭り
小谷法子	植物の観察
巽　裕子	奈良の伝統工業について
谷川麻夕子	童謡について
林　靖子	庭に植えられた植物の調査
東尾聡子	藤井寺の古墳
古川富美子	自然による天気予報
松浦晃子	手話の研究
松田和美	絵馬について
村田真由美	非行について
与那嶺ユキ	百人一首の世界
和東栄美	運動と体のはたらき

3　A（36期生）

浅野　豊	夏を涼しく過ごすために
飯田一哲	アイスクリームPART－Ⅱ
池田雅弘	ラジカセでのThe Best Sound
井場拓哉	ローラースケートの技術

今村方哉	Faces－顔について－
上田嘉紀	筋力UP／トレーニング
貴田昭臣	アイスクリーム
木下裕文	ローラースケートの技術
久保達也	大阪の鳥
甲野純正	Track and Field
駒谷剛志	ハングルと漢字
竹中敬一	音楽（作音）
武樋孝明	文字
竹本剛司	調和のとれた旋律とハーモニー
田中宏和	大阪の鳥
田村忠宣	筋力UP／トレーニング
冨永大介	近代オリンピックの意義
仲　剛司	S. M. C. 最終目的に向けて
中井幹晴	海岸の変革
野崎　潤	作音（Digital Sound）
萩原史郎	From the New World of Computer Music
濱田吉之輔	ローラースケートの技術
藤木　淳	数学の王道
古川善郎	大阪の鳥
村上勝人	サイクリング～ロングツーリング編～
村山宣義	大阪の鳥
乾　真有美	救急車
菊地真理	盲導犬
木村麻子	怪奇現象
小西由華	セル画を描く
小林千恵	守口市と東大阪市の公共施設
関口千恵	中学校，高等学校の教育
田中香織	怪奇現象
辻　知里	人間の心理
中岡千聡	外来語
長谷川千晃	人間の心理
藤田美際	世の中の色について
三木千奈津	怪奇現象
安田真穂	人間の心理
山野文子	盲導犬

ところで，自由研究の取り組みについては先輩の意見も大いに参考にしようというところもある。附中新聞第194号（昭和53年８月17日発行）に，『自由研究をやりぬこう』と題して，附高生７名を迎えての座談会を載せている。その中である１人の発言に「や

ってしまってから結果が出ないということがあるので，テーマ決定の時からよほど慎重にしないとだめだと思います。そして，テーマを決める時に本当に面白そうなテーマは成功しやすいけれども，難しそうなテーマは失敗することが多いと思います。それとテーマは決定よりもかなり前から日常生活の中で捜しておいた方がよいと思います。」とある。また，座談会のまとめとして，「自由研究―とかく受け身になりがちな授業から離れる夏休みに，自分から進んで一つのことにアタックしてみようというのが本来の意義といえよう。この行事も学校創立以来の伝統行事の一つであるが，32年を経た今，かすかな変貌を遂げつつあるように思われる。一つ言えることに，熱意のうすれが挙げられる。無論，全員を指していうわけではない。特に，２・３年生にこの傾向が時としてあらわれる。１年生は新しいことへの興味のためか，まだ生真面目さがある。２・３年の人達，少し昔を振り返ってみよう。確かに，つまらないテーマの追求に終わった人，計画性に無理があったなど，失敗は多かったかも知れない。しかし，やる気というものは少なからずあったはずだ。冒険にあこがれるだけの純粋さはあったはずだ。今，テーマ決定時の雰囲気にも“ダレ”が感じられる。―後略」と記している。

自由研究の中間発表は，昭和54年度から８月10日の登校日に行われている。それまでは８月17日に行われていたが，この時期はお盆による帰省の延長として在阪しない生徒が多く，クラスによっては数名の欠席者が出ることもあった。このようなことから，できるだけ支障の少ない時期，しかも夏休みの中間的な時期として検討した結果，８月10日に定着した。しかしこの時期についてもいろいろな弊害も指摘されている。例えば，多くの体育系クラブは７月末まで活動を行うので，十分な研究も行わないまま中間発表に臨んでしまう等である。実際，生徒の発表を聞いても，いわゆる中間発表になっていない者も多く見受けられる。１人の発表に与えられている時間は，約２～３分である。

２学期初めの２日間の午前中，計８時間を使って，クラス単位で発表会を開いている。発表時間は１人約10分である。これを踏まえて，各クラスから投票によって代表２名を選出し，学年全体で小講堂において全体発表会を開いている（学年によって少しの違いはある）。全体発表会の作品には，各クラスの代表だけあって，かなり内容のあるレベルの高いものもある。人の発表を聞き，その内容や発表の仕方から次年度に向けての参考になるものが多くあるようだ。

以上のような学年発表会に選出された者を考慮に入れ，研究に用いた各生徒のノートを各担任が読んだ上で，各学年から３～５名を選んで「自由研究」と題する冊子を作成している。中には発表方法のまずさから生徒達の注目を引かなかったものの，内容としては立派なものや，実験や調査のデーターが豊富で考察も優れたものを中心に学年を担当する教官全員の話し合いにより，この冊子の代表者を決定している。この試みは，昭和51年度より始められた。「自由研究　第１集」の「創刊の辞」の中に，「―（前略），ここに収録した論文の他にもそれに劣らず優秀な研究があり，審査の先生方を困らせた程であっ

て，研究の層の厚さを感じさせられた。収録論文を熟読することにより，自由研究への意欲を燃やし，またそれらの研究を積み上げ，更に乗り越えていってもらいたいと望んでいる。」とあるように，附中生の自由研究への取り組みは，個人的差はあるにせよ，かなりレベルの高いものになって来ている。なお，この冊子は折に触れて他校へも配布しているが，中学生の自由研究としては大変立派なものであるとして，高い評価を受けている。なお，この冊子の巻末に，その年度の全校生のテーマ一覧も載せている。

〔自由研究第１集（昭和51年度）目次〕

目　　次

		頁
①古墳について……	吉川浩三郎（30期生）…	4
②赤膚焼の歴史……	世耕弘成（29期生）…	8
③名　ま　え……	森田啓子（29期生）…	12
④五万分の一地図について……	田中一二三（28期生） 林　憲一（28期生）…	16
⑤大阪の“サカ”はいつ“坂”から“阪”に変わったか……	上嶋　誠（28期生） 山崎邦夫（28期生）…	21
⑥吉野山の植物……	菊岡範一（30期生）…	24
⑦蚊取り線香について……	藤本宏隆（30期生）…	27
⑧塩について……	藤沢正信（30期生）…	31
⑨記憶能力について……	山中伸弥（29期生）…	35
⑩クモの巣のはり方……	柏渕順子（28期生）…	38
⑪アリはどのようにしてエサを見つけるか	岸本匡司（30期生）…	42
○自由研究一覧……		46

次の表は，昭和51年から昭和60年までの10年間の自由研究のテーマを教科別に分類して，各年度における３学年全体の割合を示したものである。

〔教科別にみた自由研究のテーマの流れ（単位％）〕

	国話	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
昭和51年	7.3	33.6	1.9	36.7	1.1	0.7	14.5	3.1	1.1
昭和52年	7.2	45.1	1.2	34.3	0.3	0.3	7.2	3.6	0.8
昭和53年	6.5	49.7	2.2	29.9	0.3	1.1	6.5	3.8	0
昭和54年	11.0	44.3	1.3	28.2	0.8	1.3	6.3	5.1	1.7
昭和55年	9.7	37.7	0.8	30.6	5.1	1.7	6.4	7.6	0.4
昭和56年	9.6	37.3	1.3	24.2	2.9	1.7	11.7	9.6	1.7
昭和57年	11.0	36.9	0.8	23.8	2.5	3.0	11.0	10.2	0.8
昭和58年	11.7	32.2	1.7	24.7	3.3	1.7	18.0	5.4	1.3
昭和59年	10.7	42.0	1.2	20.9	3.7	1.6	11.7	6.6	1.6
昭和60年	11.5	40.4	1.6	23.0	3.7	0.8	9.1	9.1	0.8

この表をみると，やはり，社会や理科的な内容が多く，この２分野で全体の６割～８割を占めている。分野別にみると，国語，音楽，保健体育，技術家庭的な内容が徐々に増える傾向にあるように思える。逆に，理科的内容が年と共に減少の傾向にあるようだ。この現象をどのように分析すればよいのか難しいところではあるが，一つ言えることは，最近の傾向として生徒達の興味の対象が多様化しているということではないだろうか。この傾向は生徒の個性が発揮されて来たということで，むしろ我々指導者として大切にしなければならないようにも考えられる。また，この教科別分類の作業を通して感じたことは，特に最近の傾向として，単にテーマ別をみる限りにおいて，単純に教科的分類が出来にくいということである。昭和55年頃までは，テーマをみてはっきりとこれはどの教科に関係したものであるという判断が簡単についた。この傾向も先に述べたように，生徒達の個性の発揮という見方はできないであろうか。また，このような傾向は今後ますます増えるようにも思える。興味の深いところである。(P.54〔自由研究テーマ一覧（昭和59年度）より〕を参照)

また，次の表は，36期生が１年・２年・３年へと学年が進むにつれてテーマが教科別にどのように変遷するかを示したものである。この表をみても，学年が進むにつれて生徒達の興味の対象が多様化していることがうかがえる。

〔36期生の３年間のテーマの流れ　(単位％)〕

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
１年	12.5	46.1	1.3	20.0	0	2.5	7.6	8.7	1.3
２年	16.4	20.0	5.0	20.0	3.8	2.5	15.0	15.0	2.5
３年	11.3	35.4	1.3	15.2	7.6	3.8	12.7	10.2	2.5

夏休みよりずっと以前から準備に取りかかり，40日以上も費やして行う自由研究を通して，生徒達は教科の学習だけからは得られない何かを体験しているものと思われる。附中創立以来継続されているこの伝統ある自由研究を，今後共，生徒と教官の協力によってますます発展させていくことを期待したい。

3　文化クラブ発表会・展示会

(1)　文化クラブ発表会・展示会

昭和41年３月11日(金)に，中学校で，文化クラブ発表会という名で発足した。文化クラブの活動の活性化をねらって，文化クラブの一年間の成果の発表の場を設けたのである。そして，文化クラブは，それぞれ，一年間，この発表に向けて，年間計画を立て，日々活動して来ている。

ところで，昭和44年度までは，全員が体育系クラブに加入し，一つだけ文化系クラブを選択することが出来ていたが，昭和45年度からは，一人一クラブ制になった。

そこで，昭和46年度からは，午前中発表会をし，午後，音楽会をすることになり，その間を展示会としていた。それが，昭和52年度まで続いた。この後，生徒の負担等から分離した。昭和54年度だけは，前年度から，発表会と展示会に分けたことから，音楽会を同じ日にした。

なお，期日を２月20日頃においているのは，卒業後の北館４階の高Ⅲ教室を展示会場にするためである。そのため，前日，展示会の準備が出来たし，当日，休み時間や放課後に，見学することが出来た。ところが，一度だけ，冬休みの活動のあと，発表会にすることで，活動もしやすいだろうと，昭和58年度は１月に実施した。その時，各クラブの展示会場も活動場所ですることになった。その後，展示の都合で，各活動場所で行っている。

〔展示会・発表会の移り変わり〕

昭和40年度	41.３.11(金),12(土)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和41年度	42.３.11(土)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和42年度	43.２.６(火),７(水)	文化クラブ展示会	３.９(土) 発表会
昭和43年度	44.２.22(土),24(月)	文化クラブ展示会	３.９(土) 発表会
昭和44年度	45.２.24(火),25(水)	文化クラブ展示会	３.７(土) 発表会
昭和45年度	46.２.23(火),24(水)	文化クラブ展示会	３.６(土) 発表会
昭和46年度	47.２.19(土)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和47年度	48.２.２(金)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和48年度	49.２.22(金)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和49年度	50.２.22(土)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和50年度	51.２.23(月)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和51年度	52.２.22(火)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和52年度	53.３.11(土)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和53年度	54.２.19(月)	文化クラブ展示会	２.21(水) 発表会
昭和54年度	55.２.20(水)	文化クラブ展示会	２.19(火) 発表会
昭和55年度	56.２.17(火),18(水)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和56年度	57.２.19(金)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和57年度	58.２.18(金)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和58年度	59.１.21(土)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和59年度	60.２.19(火)	文化クラブ発表会・展示会	
昭和60年度	61.２.19(水)	文化クラブ発表会・展示会	

文化クラブ発表会・展示会の実施の概略は，次の昭和59年度のものと変わらない。

〔文化クラブ発表会・展示会実施要項（昭和59年度）〕

昭和59年度　文化クラブ発表会・展示会

- 文化クラブの活動の一年間の成果を発表する。
- 発表や展示を，聞いたり鑑賞することにより，文化クラブを理解する。

日時…昭和60年２月19日（火）

◉発表会（大学講堂）

9：00　文化委員長あいさつ

9：05　社会科クラブ　35分

—大阪について—

1)大阪の苗字について

2)泉北ニュータウンの事故

3)今年一年の活動報告

（スライド　ＯＨＰ　スクリーン）

9：40　英語クラブ　20分

劇「ねむり姫」（英語版）　（照明，大道具）

＜休憩＞　10分

10：10　科学クラブ　40分

1)岩石中の金属について（化学班）

2)ベタについて（生物班）

3)冬の星座（地学班）

（スライド　ＯＨＰ　スクリーン）

10：50　音楽クラブ　30分

1)愛のファンタジー

2)夢想花

3)INVICTA序曲

4)バージンブルー（アンコール曲）

11：20　講評　風間先生　10分

11：30　あとかたづけ，移動

〈　昼　食　〉

◉展示会　（各展示室）　1：00～3：30

社会科クラブ　「知ってますか大阪」　視聴覚室

英語クラブ　1)タイプライターによる作品　特別室

2)英語の本（生徒自身で制作）

科学クラブ（化学）個人研究・実験発表，
（生物）ベタ，土壌生物について　（化学実験室
（地学）火成岩の特徴，性質　生物実験室
冬の星座
技術クラブ　1)アマチュア無線，マイコン　（技術第1教室
2)鉄道模型　技術第2教室
美術クラブ　個人作品発表会　美術室

・見学は個人単位で行い，絶対に展示物をいためないように。

⊙終礼，清掃　3：30～
（あとかたづけは，その後各クラブで行う。）

⊙下校　5：00

※準備
2月18日（月）放課後会場準備とリハーサルを行う。
リハーサルの順序の確認，準備物等は各クラブで責任をもって行うこと。

また展示会会場の準備は，展示するクラブ員全員が当たり，発表会の準備については，次の表のように，生徒の係も決め，生徒全員で作り上げる行事になるようにしている。講評については，その年度の生徒指導部部長が当たっている。

〔文化クラブ発表会・展示会分掌（昭和59年度）〕

分　掌	教　官	生　徒
会　長	下村	
総　務	中田，西田，風間	生徒会会長，副会長
会　計	辻，場本	生徒会会計，当該クラブ会計
書　記	中村(英)	生徒会書記，当該クラブ書記
進行・招集	藤村，國方，平田	文化委員長，文化委員
会　場	冨田，中西，高橋	テニス部，サッカー部
舞　台	西濱，柳本	柔道部，卓球部
規　律	乾	規律委員長，規律委員
放　送	中村(潔)，岡	放送委員長，放送委員
照　明	大仲，武田	技術部
生徒指揮	金井	
救　護	成田	厚生委員長，厚生委員
講　評……風間先生		

(2)発表会・展示会のテーマ

発表会・展示会における各クラブのテーマを見ると，そのクラブの活動についての概略がうかがえる。

次に，過去10年間のテーマを挙げておく。

〔文化クラブ発表会テーマ一覧〕

空欄は発表なし，代わりに展示を行った。

年度	社会科クラブ	科学クラブ	英語クラブ	音楽クラブ	数学クラブ	技術クラブ
50	大阪の古い建築について	一年間のまとめ	英語劇「赤ずきん」	演奏と合唱	統計	
51	和泉地方の歴史と地誌	化学→水素の発生 生物→ミミズ 地学→大阪の天気	劇 「二十年後」 発表「海外アンケートの結果」	ボンセ・デ・レオン 「風と雲と虹と」のテーマ イエスタディー		
52		化学→青写真 生物→ミミズの再生 地学→緯度と気温	英クラこの一年 空港訪問記 劇「真夏の夜の夢」	演奏	落体運動 その他	
53		地学→テーマ不明	テーマ不明 英語劇他	演奏	テーマ不明	
54		「神経系」 ～8mm映画～ 劇「それでも地球は動く」	英語劇 「あかづきちゃん」 空港訪問記	演奏		
55	「はぶらし」一大阪地場産業として 「京都の地形」	化学→石けんと洗剤 地学→いくつかの星座	人形劇 「THREE BEARS」 1年間の活動報告	ヘイジュード We are all alone 銀河鉄道 999メインテーマ		
56	「淀川」 「生駒山付近の古墳」	科学部とはどんな所か。	人形劇 「SNOW DROP」	バラの謝肉祭 MY WAY		
57	人物キャラクター史 大阪と 第2次世界大戦 活動報告	化学→ 生物→土壌動物について 地学→彗星について	ヘンゼルとグレーテル 活動報告	エンドレスラブ レット・イット・ビー オデッセイ		
58	デパートについて 考古学の現状	ミミズとイモリ		フォールリバー序曲 イエスタデーワンスモア ウイアーオールアロン		アマチュア無線 マイコンについて
59	大阪について 大阪の苗字について 泉北ニュータウンの事故 今年一年の活動報告	化学→岩石中の金属について 生物→ベタ・土壌生物について 地学→冬の星座	劇「ねむり姫」 （英語版）	愛のファンタジー 夢想花 INVICTA序曲 バージンブルー （アンコール曲）		
60	社会科クラブの活動について 大阪と戦争 関西新空港	イオンの移動 ペグマタイトについて こうぼ菌について スペクトルの撮影	OHPを使った英語劇 『Belling the Cat』 『注文の多い料理店』	インテルメッツオ No. 1 マイウェイ バンドのための民話 アンコール曲		

〔文化クラブ展示会テーマ一覧〕

空欄は，展示をしないで発表に目標をおいて活動した年である。

年度	社会科クラブ	科学クラブ	技術クラブ	美術クラブ	英語クラブ	数学クラブ	書道クラブ
50		一年間のまとめ	作品の展示	作品の展示			作品展示
51		グループの発表	音響製品とエレクトロニクス工作及びアマチュア無線関係	作品展示他		統計と確立実験	作品展示他
52	ため池の研究	一年間のまとめ	アマチュア無線 作品展示	作品展示	海外アンケート		作品展示
53	テーマ不明	一年間のまとめ	アマチュア無線 作品展示	作品展示	海外アンケート		作品展示
54	上町台地	身近な科学 一年の総まとめ	アマチュア無線 作品展示 鉄道模型 エレクトロニクス	作品展示	海外アンケート タイプ etc.		
55		化学→個人研究発表，実験 地学→天体写真 惑星について	アマチュア無線 鉄道模型 エレクトロニクス 他	油絵，水彩画，クレパス画，デッサン他	海外アンケート 紙しばい 絵本他		
56	個人活動内容について	各班が活動してきた内容	アマチュア無線 鉄道模型 エレクトロニクス	油彩，水彩， 七宝焼 デッサン	タイプライター 紙しばい 海外アンケート		
57	個人研究発表 土器・写真その他の展示	化学→石・書写真他 生物→土壌動物について 地学→ピンホール＝プラネタリウム コンピューター＝プラネタリウム　他	マイコン アマチュア無線 鉄道模型　他	個人活動発表展示 七宝焼の方法他	創作絵本の教本 紙芝居 海外アンケート 記録　他		
58	古代の大阪 地名について	化学→個人研究 生物→ミミズとイモリ 地学→プラネタリウム 個人活動	マイコン アマチュア無線 電子工作 鉄道模型	水彩 七宝焼 個人作品	空港インタビュー 個人活動		
59	知っていますか大阪	化学→個人研究・実験発表 生物→ベタ・土壌生物について 地学→火成岩の特徴性質，冬の星座	アマチュア無線 マイコン 鉄道模型	個人作品発表	タイプライターによる作品 英語の本，(生徒自身で製作)		
60		イオンの移動 ベグマタイトについて こうば菌について スペクトルの撮影	展示(個人の制作) アマチュア無線の実演 マイコン占い 鉄道模型実演	水彩画，油絵，パステル画，鉛筆画，切り絵，七宝焼，木炭画，趣味のもの各自一点ずつ	アートタイピング 空港インタビューのまとめ 本(英訳)学校内の地図など(個人で制作したもの)		

(注)，昭和54年度から，数学クラブ，書道クラブは休部している。

(3)文化クラブ発表会・展示会の反省会を踏まえて

昭和55年度の反省会では，見学の時間を取ったことは，クラブ員の自覚のためにも，生徒達の興味の喚起のためにも有効であったということが挙げられている。この年は，午後1時から3時まで展示鑑賞時間を設けた。各学年毎に，見学順路を設定し，会場の流れはスムーズであったが，1年生では，もっとゆっくり見たいという意見もあった。

期日については，色々と反省会の都度，次年度に生かしている。昭和58年度の1月実施は，冬休みに集中してやったことが発表・展示会へ向けてやれるということでやった。ところが，耐寒訓練と重なり，健康面，早朝クラブで問題があるということで，また，2月にもどった。

昭和58年度から発表会で張り出し舞台を設けた。そのため，発表の舞台が広くなり，やりやすいとのことであった。特に，音楽クラブにとって良かった。

準備時間不足を解決するために，前日に時間を設けたりしているが，今，なおかつ直前でないと展示会場が作れないために，各クラブで，その時点になると追われている。そのため会場での展示方法にも限界があるようである。

以上のようなことが，反省会の都度挙げられ，次年度に生かしている。

§3　高等学校における文化活動

1　芸能鑑賞

高等学校では，文化行事の一環として，図書部主催による観劇を昭和51年度から，定期的に行ってきた。この行事は演劇だけにこだわらず，音楽鑑賞会を考えてみたこともあったが，これまでのところ，生徒が日ごろ触れる機会の少ない，我が国の古典芸能（能，狂言，歌舞伎，文楽）が中心となっている。

昭和51年度から昭和60年度までの演目は次の通りである。

51．5．4　「タルチュフ」（関西芸術座・大阪府青少年会館文化ホール）
ただしこれは，言わゆる「観劇」の行事としてではなく，附中30周年，附高20周年創立記念行事の中で行われたものである。

51．9．25　「江戸城総攻」（新制作座・毎日ホール）

52．6．29　歌舞伎鑑賞教室「葛の花」（関西歌舞伎グループ・厚生年金会館）

52．11．22　歌舞伎一般公演「仮名手本忠臣蔵」（関西歌舞伎グループ・中座）

53．6．9　文楽教室「曽根崎心中」（朝日座）

54．6．11　歌舞伎鑑賞教室「俊寛」（関西歌舞伎グループ・厚生年金会館）

55．6．20　狂言教室「末広がり」「棒しばり」（茂山狂言会・本学講堂）

56．6．18　文楽教室「新口村」（厚生年金会館）

57．6．30　学生能楽鑑賞会・狂言「魚説経」，仕舞「大江山」，能楽「巴」（大阪能楽会館）

58．6．8　歌舞伎鑑賞教室「双蝶々曲輪日記・引窓の段」（関西歌舞伎グループ・厚生年金会館）

59．6．13　狂言教室「萩大名」「棒しばり」（茂山狂言会・本学講堂）

60．6．12　文楽教室「新口村」（国立文楽劇場）

古典芸能は，生徒にとってさまざまな面で難解であるだけでなく，ややもすれば退屈しがちなため，国語科が中心となって，授業時間内に事前指導を行い，鑑賞の助けとしている。

この行事は，今後も継続して行れることと思うが，演劇や古典芸能だけではなく，音楽や舞踊など，ふさわしいものがあれば，どんどん取り上げていき，博物館見学と合わせて，生徒の芸術的関心を高め，視野を広げ，多くの楽しみを持たせるようにしたいものである，

2　博物館見学

菊薫る秋の一日，生徒個人では平素あまり体験できない博物館などについて，文化的素養を求めて，見学を実施している。この行事は昭和53年度以来８回を数えるにいたった。生徒は各年度毎に定められた複数の博物館の中から，自由に選んで見学することになっている。今日までに見学の対象となった博物館と，その時どきの特別展示などの主要な内容は次の通りである（順序不同）。なお数字は見学を実施した年度を示す。

国立民族学博物館（53，54，55，56，57，58，59，60）
京都国立博物館（53涅槃図の名作と刀装，54パリ・ギメ博物館東洋美術の秘宝と高津コレクション，55，57）
奈良国立博物館（53織物とその技術，54，55）
奈良県立民俗博物館（53，54寺院と年中行事，55寺院と年中行事）
天理大学附属天理参考館（53，54，55）
大阪市立美術館（57北京故宮博物院展，60シルクロードの遺宝展）
京都市美術館（59ウィーン美術史美術館展，60富岡鉄斎展）
神戸市立南蛮美術館（55）
兵庫県立近代美術館（55ボナール展）
大和文華館（55）
平城宮跡資料館（55）
神戸市立博物館（57海のシルクロード・東山魁夷展）
大阪市立東洋陶磁美術館（57）
大阪城博物館（58秦兵馬俑展など）
逸翁美術館（58）
伝統工芸京都博覧会（59）
みさき公園（56中国恐竜展）

3　講演

本校において行われる講演には，研究部主催の教官対象の講演，教育研究会での各教科の講演，PTA学年集会等での保護者対象の講演，中学校３年生対象の卒業講演，附高祭での講演など定期・不定期の講演があるが，ここでは，昭和57年度入学生からの教育課程で高校３年に学年タイム（金曜日，５・６時限）が新設され，その中で実施された講演について述べる。

(1)　昭和59年度（高27期生対象）の学年タイムにおける講演

①　昭和59年５月18日　「一臨床医としての日々」

講師　岩垣博巳氏（岡山大学医学部第一外科研究生，高14期）

臨床医の立場からは，肉体は精神のあやつり人形である。50代に癌にかかったとき，20代，30代に愛の対象を喪失したことによるといわれている。また，大学へは自分から望んで行くものである。親やまわりの期待の投映であっては大学へは進学出来ず，wantの精神がいる。生徒はしばらくwantという言葉をよく口にした。

② 昭和59年６月22日　「雪の結晶の研究あれこれ」

講師　山下　晃氏（大阪教育大学教授，気象学）

大学における基礎研究は，一つのことを突破すれば，あとは道が開けるものであり，未知のことは無限にあると語り，ちょっとしたアイデアから雪の結晶を作ることが出来た。また，大学の基礎研究には優れた人に来て欲しいということで，基礎学力（英語・理科・数学），行動力（熱意・体力・議論），着想力（好奇心・アイデア）を要求し，生徒は何が大学で求められているかを知ったようである。

③ 昭和59年９月28日　「高校生　心の健康・体の健康」

講師　吉田　脩二氏（大阪府立中宮病院医師，思春期精神衛生医学）

思春期外来医の立場よりの話。子どもが母親から離れるのは３才～４才。その頃，父親が自覚され，母親と違って権力がある。父母と子どもの間に三角関係が生ずる。父親を乗り越えられないという現象もみられる。子どもの自立の時期は，父親は，45才から55才で，仕事熱心であり，社会的地位も得られる。一方，母親は，容姿の衰えに気付く頃であり，家庭での曲り角に当たる。子どもは，同一性の獲得の時期であり，全能感にあふれている。この全能感を高めるためには，規制は八分目にし，逃げ道を作ること。そして，愛と信頼を持つことが大切である。生徒は人間というものを考えるようになった。

④ 昭和59年10月19日　「大学，職業，人生」

講師　織田　稔氏（大阪教育大学教授，英語学）

人生を振り返ると，人生の軌跡には，表面構造と深層構造がある。同期生は，同じ様な人生を送っているものである。人生の本質とは何かを考え，心のつながりを大切にしたい。しみじみとした味わい深い話に，生徒は感銘を受けていた。

⑤ 昭和59年11月30日　「Why Japan Needs Enhlish？」

講師　Miss. Julie Thuras　（附中英語科講師）

英語による講演。ミネソタで生まれ，カリフォルニアで学んだ。スウェーデン系。生いたち，学生時代，日本での生活などの話。生徒は，講演後，英語で質問した。生徒に分かる英語での話しぶりであった。

(2) 昭和60年度（高28期生対象）の学年タイムにおける講演

① 昭和60年７月21日　「新聞記者として生きて」

講師　吉井秀一氏（毎日新聞社堺支局長，高７期）

早稲田大学時代に入会した「早稲田精神昂場会」における活動と経験が人間形成に大いに影響した。例えば，危機状態の森林に植林に行った時の地域と人々との触れ合い，また米俵を背負って自炊と野宿の旅に出かけた時の体験等は一生忘れることの出来ないものである。新聞記者としては，家庭問題，特に離婚問題についての取材を通して，女性が自立という意識をきちんと持ち始めていることが分かり，ま

た，二度と戦争を起こさないよう，特集記事等により読者に訴えている。

② 昭和60年11月15日 「文学的関心とは」

講師 谷本愼介氏（神戸大学講師，高11期）

私の高校時代の家庭環境の変化が自分の精神形成に大きな影響を与えた。すなわち，懐疑精神がこの時に芽生えたようである。この懐疑精神は一生を通じての基本精神になり，今，ニーチェの研究をしている。人は単なる軽薄な理想主義に落ち入らず，今現実にある自分を社会との関係において見つめなおし，疑わなければならない。この様な懐疑精神があればこそ未来への発展へとつながると思う。この様な過程で精神的危機に出会うかもしれない。これを乗り越えるのに文学は大きな助けとなってくれるであろう。

高校３年の学年タイムにおける講演は始まって２年目であるが，意義深いものであり，それだけに人選に苦労するが，各界で活躍している卒業生などを招くことにより，今後も継続されるものと思われる。

§４ 図書館の活動

学校施設において「学校図書館は重要なものである」という認識は，学校創設以来一貫して変わっていない。学校図書館の位置付けも，学校の歴史と共にその重さを増してきている。我が校の掲げる“個人を育てる教育”の目標に沿い，生徒の自主的・自発的態度の育成，よりよい学習生活と読書生活の形成，学習の個別化と個性の伸長，発達段階に応じた資料・情報の提供とその利用の指導，視聴覚教育の推進，一般的教養の育成などをねらいとし，多くの先輩教官の努力により，図書館の活動の継続・発展がなされて来たのである。

現在の図書館（南館２階）は，昭和43年にスタートしたものである。蔵書数の増加と共に発展して来た。昭和36年に図書部が独立し，図書館の活動を推進して来た。現在においても図書部が中心となり，司書２名の指導を得て運営している。また，国語科の助力に負うところも大きい。

１ 蔵書数の変化と利用状況の変化

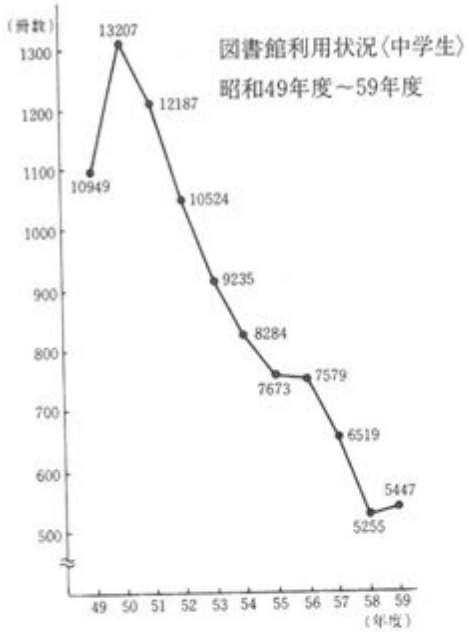
(1)蔵書数の変化

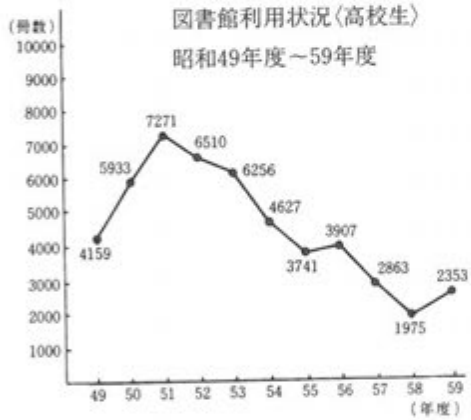
年度		38	46	52	59	基準	
蔵書数（冊）		6,701	12,739	19,123	24,361	中学校	高校
分類（蔵書比率%）	0．総記	9	6	6	7	7	8
	1．哲学・宗教	8	5	6	5	3	5
	2．歴史・地理	15	15	16	16	14	13
	3．社会科学	11	10	7	9	10	10
	4．自然科学	12	14	15	14	15	15
	5．工学・工業	3	4	3	4	5	5
	6．産業	3	2	2	2	5	5
	7．芸術・スポーツ	5	8	8	8	7	7
	8．語学	4	4	3	3	6	7
	9．文学	30	32	34	32	28	25

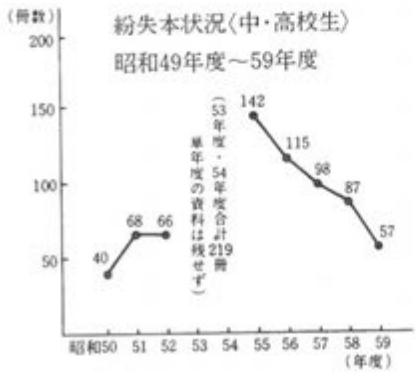
(2)利用状況の変化

図書館は，単に書物を提供する場としてあるだけでなく，活動の一環として読書指導や図書館そのものの利用の仕方の指導なども行う。また，近年はカセットデッキ等も図書館に設置され，「耳で聴く」文学作品の紹介及び利用法のPRも同時に行っている。中学校1年生では，4月当初の国語の授業を図書館で行っている。「図書館ガイド」を配布したあと，利用の仕方を指導したり，図書委員の仕事の説明をしたり，生徒に自由に書物を選ばせて読書をさせ，図書館に親しませるという指導を行って来ている。また，その後も国語の授業を図書館で行うこともあり，「生徒が図書館に親しむように」ということをねらいとして実施している。高等学校においても，折に触れて利用指導を行うが，附高図書委員会が作成する高校生用「図書館ガイド」が高校生に対する図書館ガイダンスとなっており，この冊子の役割は大きい。毎年1冊，発行され，四月当初配布されている。

最近の中学生，高校生は本を読まなくなっている。このことは附中生，附高生についても言える。附中生は昭和50年をピークに，附高生は昭和51年をピークに，図書館の本の貸出冊数が激減している。ここ2，3年が底と考えられるが，果たしてこの冊数が今後上昇していくのであろうか。もちろん「文庫本時代」に突入している現在，生徒達は，本を借りずに「買って読んでいる」のかもしれない。その冊数についてのデータはないのであるが，おそらくその冊数を加算したとしても，過去の附中







生，附高生の方が，読書量が多かったと考えられる。高校生が，なぜ本を読まなくなったか…。この一因は，おそらく「共通一次」の実施にあると考えられる。「共通一次テスト」というものが，高校生の読書生活を低下させたということが上記の利用状況の推移から予想出来る。また，時代が視聴覚化の流れにあり，「ゆっくり読書する」というムードが失われつつあるようにも思われる。これらの状況の中で，図書館利用の指導及び読書指導は今後いかにあるべきか，本校の大きな課題の一つなのである。

次に，紛失本について。現代の子供は物を大切にしなくなったと言われているが，本校の紛失本の調査記録は統計表から分かるように，昭和53年ごろから昭和57年までは年間100冊を超えるか，それに近い。しかし，昭和59年は57冊という数に減り昭和50年ごろにもどったと考えられる。しかし，昭和50年ごろの貸出冊数を考えると，現在の紛失率は高く，やはり「物を大切にしていない」ということが言える。貸出冊数が増え，紛失本が減るという状態を，学校図書館の理想だと仮定するならば，この10年の歴史は悲しむべき事実を物語っている。この歴史を繰り返さないために教官全員で努力していきたい。

2　校内読書感想文コンクール

読書感想文の指導は，日常は国語科で行うものであるが，夏休みを利用して図書部と国語科が協力し「校内読書感想文コンクール」を行ってきた。これは，主に中学校が中心で，「青少年読書感想文全国コンクール」（主催　全国学校図書館協議会・毎日新聞社）に参加することを前提として行われるものである。近年は，大阪府代表に選ばれることも多くなり，全国大会において優秀な賞を授与される生徒も出ている　（昭和58年度・全国図書館協議会会長賞など）。高等学校では，400字詰原稿用紙５枚以内という制限など，指導上幾つかの問題を感じ，参加希望者を募る程度にとどめている。

3　図書委員会の活動

中学校生徒会・高等学校自治会の活動の一つとして各クラスより男女各１名の図書委員が選出され，中学校図書委員会・高等学校図書委員会を構成している。この構成はここ10年変わっていない。中学，高校の縦のつながりは十分とはいえないが，協力し合い，それぞれにその特色を出して活動している。

中学校図書委員会の日常活動には，図書の貸出しと中学生への広報活動がある。前者の仕事は図書委員全員が交替でこの任に当たっている。後者については，週１回の図書委員会を話し合いの場とし，広報方法の工夫など検討しつつ活動している。例えば，図書委員会新聞の記事として，図書委員が推薦する本の紹介や感想文を載せたりしている。また，クラス別読書量調査や学級文庫の整理・拡充にも力を入れている。地味ではあるが，価値ある活動といえるだろう。

高等学校図書委員会では，日常の活動として新着図書の紹介，各クラスの委員が交替で書物を選び，その内容・読後感をまとめた図書紹介を印刷配布し，読書・鑑賞を広く勧めている。

年間を通じての活動としては，「附高図書新聞」と冊子「歳星」の発行がある。図書新聞は年間２回発行されていたが現在は年１回程度になっている。昭和44年７月19日発

行の創刊号から数えて現在18号になっている。

近年は「歳星」の発行が活発で，約10年間で47号出している。

以上のような日常活動，年間活動に加えて高校生用「図書館ガイド」を作り，新年度，新1年生に配布されている。手作りの冊子と言えるもので，約60ページのガリ版本である。昭和48年2月に創刊され，毎年新しい「図書館ガイド」が作られている。これは，図書館を有効かつ正しく利用出来るようにという意図で作られているもので，図書館を利用する者にとって便利な冊子である。

第1号以来，改良が加えられ，ページ数も増えた。図書委員会の大切な仕事の一つとして，自発的・意欲的に取り組まれており，他校からも高く評価されている。

高等学校図書委員会は，以上のような活動を通じて附高生の読書環境の向上と共に読書内容，読書量の向上を目指しているのである。

4　図書館活動の課題

学校図書館の教育に果たす役割は重大であり，本校図書館も蔵書数など増加しつつ，改善拡張されて来た。しかし，問題点も多い。落ちついてじっくり読もうとしない生徒の増加，ものごとをゆっくり味わおうとしない時代背景，深

〔「図書館ガイド」目次〕

もくじ　（1985年4月9日発行）

1. はじめに……1
2. 図書館の案内……4
　平面図，時間，蔵書数など
3. 図書館利用規則……7
　図書館のマナー，貸し出し・返却のシステムなど
4. 特別図書と復刻版……11
5. 分類・目録……15
　各分野についての紹介，説明
6. Ⅰ文庫……31
7. 中学生用図書・大型図書・文庫・新書・辞書……35
8. カセット利用法……45
9. 談話室・整理室……49
10. 日本十進分類表……55
11. 図書館の資料……57
12. 近効図書館紹介……59
13. おわりに……61

く考えるということをしなくなっている生徒群など，図書館活動の本質的な問題点をかかえている現在である。附中生，附高生が，10年前も今も読む比率が高い分野は2（歴史・地理）・4（自然科学）・9（文学）である。本校の傾向は大きく変わっていないと言える。だが，10年前ごろにおいては「哲学書」を読む生徒が多くはいなかったにしろ，何人かはいたのである。現在はそういう本は誰も借り出していないようである。（貸し出しカードの日付より考えられる。）また，文学書においても，いわゆる「文学全集」に載る小説はあまり読まれずに，マスコミによって話題にされる本が多く読まれている。こうした現状の中で「中学生日記」だけは10年前も今も附中生のベストセラー的な本であり続けている。「見る本」が増加しつつある時代の流れの中で，いかに「活字」に親しませ，その大切さを見失わないように生徒を指導していくか，これは図書館活動にとっても大きな課題であるという認識を共通理解として研究し努力しなければならないと思うのである。

なお，この10年間に，学校への寄贈が何点かあった。その中で，附中30期・附高24期の八木健造君の御遺族，附中34期の伊東絹代さんの御遺族など，在学中に不幸にして亡くなられた生徒の御遺族からの寄贈は図書館の設備，蔵書などに活用させていただいている。八木君の御遺族からの寄贈はLL設備となり，生徒がいつでも利用出来るようになっている。また伊東さんの御遺族からの寄贈は「I文庫」という図書館内に特設コーナーを作り，「生きる」というテーマを中心とした本が並べられている。「I」は「あい」と発音され，伊東さんの姓から名付けられたものである。なお，「I文庫」の図書は現在も図書委員会と教官とが協力して選定し加えられていっている。

§5　今後の課題

文化活動の全般を通して感ぜられることは，図書館の書物の利用状況の低下にみられるごとく，生徒にどれだけの文化意識，知的好奇心があるかということである。

中学校の自由研究，文化クラブ発表会・展示会，学芸会などの生徒の実践活動において，一部の生徒の文化創造レベルは高いものの，総体としてはレベルは下降気味である。これら中学校での経験の質的発展として，高校では自治会主催の附高祭，音楽祭における生徒の自主的な文化の創造へ継承される。いわゆる附高文化の創造である。近年は，TV等マスメディアの影響により，その模倣あるいは手間と暇をかけない大衆うけする安易なものになりさがっている。しかし，時間と労力をかけた文化の創造は一部ではなされている。むしろ，大半は，自分達は文化活動をしている，文化を創造しているという意識はなく，ただ与えられたものを消化するだけであり，その一方では皆にうけるものをということだけになってしまっている。

質の高い文化活動なり文化の創造を生徒に求め，実践させるには，本ものの文化に触れさせることにより，生徒の知的好奇心をかきたてる必要がある。鑑賞，講演等を中・高六年間の見通しの上で，各教科等の協力を得て，積極的に進める必要がある。とくに鑑賞では鑑賞の手引きなどの事前指導を行い，無目的に時間つぶしの鑑賞にならないよう，生徒が目的を持って鑑賞するようにしむけることが重要である。また，鑑賞を通して，生徒の

生き方，文化への関心，文化の創造などがどう変わったかを考察する研究姿勢もいるであろう。生徒が真の文化に接することにより，知的好奇心はかきたてられ，そのことは図書の利用の活性化にもかかわるものと考えられる。

大仲　政憲
中村　英治
中村　　潔
西田　光男
奥　　啓一
西谷　　泉
濱谷　　巌
東元　邦夫
平林　宏朗
本間　俊宏
和田垣　究

保　健　体　育　活　動

§1　保健行事

1　保健行事の目標と概観

(1)　目標

保健行事は，生徒の健康・学校の環境状態を正確に把握し，疾病の早期発見と迅速な処置と疾病予病を行い，生徒の健康の保持増進を図るための保健指導，環境保健を充実させて，教育活動が円滑に行われるよう実施するものである。

(2)　概観

①　定期健康診断

健康診断を疾病異常の早期発見や疾病予病の手段としてだけでなく，健康増進の基盤となる情報収集の手段としても位置付けている。そこで，健康管理上，必要と考えられる検査はより多く実施し，適正な診断結果から総合判定まで短期間で行い，保健者に生徒の健康についての正しい認識と協力を求め，生徒自らも健康管理出来る能力を養わせている。

昭和40年ごろでは珍しかった尿検査や心電図検査も法令の制定よりも早く定期健康診断に取り入れ，また，昭和57年の結核検診の法令改定も不充分と考え独自の検診形態を実施している。

②　臨時健康診断

行事を実施する前に行い，生徒・保護者に健康上の問題を正しく認識させ，問題解決のための手段を講じ，生徒自ら進んでその手段を全う出来るよう支援し，学校行事の適正な運営を図っている。

③　予防接種

昭和52年度の予防接種法改正により従来の予防接種を厚生省の指導の下に次のように改めた。

ア　日本脳炎予防接種　中学１年生の希望者に接種し他学年の接種を廃止した。

イ　風疹予防接種　昭和52年度から中学３年生の女子の希望者に接種することになった。

ウ　インフルエンザ予防接種　52年12月の流行で学級閉鎖をしたため53年度から希望者に接種することになった。

④　環境衛生

校舎内外を清潔に保ち，換気，採光，照明，体温を適切に行い，飲料水・ごみの処理・便所を衛生的に管理し，学習能率を向上させ，豊かな情操を育成している。

⑤　スポーツテスト

各自が自分の体力に関心を持ち，また特徴を理解し，体力向上と運動生活の改善を図るよう努力させている。

⑥　安全

校外での安全指導として自転車・単車等の通学を禁止し，校内では施設・設備用具等の定期的な点検を行い，適正な安全管理能力の育成を図っている。

昭和57年には運動生活の向上と安全のため，運動場の大改修が行われ，外傷者が減ったが，一方，わずかな外圧でも骨折する生徒が一般化し，学校健康会の受給者が同年から増え始めている。

⑦　生徒の傷病状況・健康状態

50年度から59年度までの10年間の生徒の傷病状況・健康状態について表にまとめた。

（ア）保健室年間利用者数

保健室を利用する生徒の数は，56年度まで増える一方であった。特に運動場での外傷が同年度頭初から急に増加したため，安全対策として，57年度の夏期休暇中に附属運動場の大改修工事が行われた。改修後は外傷者が減っている。

年度	人数＼校種・性別	中学校 男	中学校 女	高校 男	高校 女
50	総数	1,050	1,281	1,032	595
	1日当り	4.5	5.5	4.4	2.5
51	総数	1,223	1,124	1,184	780
	1日当り	5.3	4.8	5.1	3.3
52	総数	1,160	886	1,145	924
	1日当り	5.4	4.1	5.0	4.0
53	総数	1,258	976	964	785
	1日当り	5.6	4.4	4.2	3.4
54	総数	1,405	965	1,069	1,019
	1日当り	6.3	4.3	4.6	4.4
55	総数	1,440	1,075	939	609
	1日当り	6.4	4.8	4.0	2.6
56	総数	1,157	1,001	994	661
	1日当り	5.1	4.4	4.2	2.8
57	総数	899	771	979	599
	1日当り	4.1	3.5	4.2	2.6
58	総数	1,046	681	765	534
	1日当り	5.1	3.3	3.6	2.5
59	総数	818	861	543	468
	1日当り	3.6	3.8	2.3	2.0

（イ）学校安全会（57年7月に学校健康会と改称される）

学校安全会が発足して間もないころ，重症を負うほどの傷病者もなく，学校安全会に申請する件数もごくわずかであった。ところが，53年ごろからわずかな外圧でも骨折する生徒や，簡単に負傷する生徒が増えだし，学校安全会の申請件数も急に増えだしている。

年度＼校種・性別・件数	中学生 男子 件数	中学生 男子 発生率	中学生 女子 件数	中学生 女子 発生率	高校島 男子 件数	高校島 男子 発生率	高校島 女子 件数	高校島 女子 発生率	
38	3	1.0	0	0	2	0.6	0	0	治療費が500円以上要した傷病者に給付された。
39	1	0.3	0	0	1	0.3	0	0	
40	2	0.7	0	0	3	0.8	0	0	
41	6	2.1	0	0	16	4.3	1	0.7	41年度から高校が1学級ずつ増える。
42	5	1.8	0	0	13	3.3	1	0.6	
43	2	0.7	5	3.4	13	3.3	3	1.8	

校種	中学生				高校生				
性別	男子		女子		男子		女子		
年度 数	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	件数	発生率	
44	9	3.4	3	2.0	10	2.6	0	0	
45	20	7.9	1	0.6	31	8.3	9	4.8	
46	35	18.5	4	2.7	47	12.7	7	3.6	
47	31	12.3	12	8.5	37	10.1	4	2.1	
48	27	10.2	8	5.0	64	17.7	1	0.5	48年度から中学校が1学級ずつ増える。
49	16	18.1	6	3.3	32	9.0	5	2.7	
50	29	10.3	8	4.0	33	9.2	11	6.0	
51	27	9.4	8	4.3	38	10.8	4	2.0	
52	24	8.0	2	1.1	42	12.3	8	3.8	
53	40	12.9	12	6.9	41	12.3	11	5.1	
54	20	6.5	4	2.3	34	10.0	5	2.4	
55	19	6.1	3	1.8	32	9.2	5	2.4	
56	20	6.4	6	3.6	24	6.8	2	1.0	2,500円以上の治療費を要した傷病者に給付されるようになった。
57	24	7.8	3	7.8	40	11.3	6	3.0	
58	38	12.3	15	8.9	37	10.3	3	1.5	
59	41	13.0	13	7.7	51	14.2	12	6.1	

(ウ) 発育状況

中学校に入学したころの体格と高校3年生の時の体格を表にした。

本校生徒の特徴は，足が長く，ほっそりした体格である。附中34期生（56年度時）附高27期生（59年度時）は，身長・胸囲ともに全国平均値を下回る体格であったが，他の期は全国平均値よりも高い。

校種	中学1年生平均値								高校3年生平均値							
項目	身長		体重		胸囲		座高		身長		体重		胸囲		座高	
性別 / 年度	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
50	152.1	152.5	42.6	43.3	73.4	74.9	79.8	81.6	172.3	158.2	58.5	48.9	83.2	78.5	87.9	83.4
51	153.1	152.8	40.8	42.9	73.4	75.0	80.6	81.6	169.7	158.0	59.4	50.8	85.2	79.7	88.6	83.5
52	152.3	152.4	42.7	43.4	71.4	72.5	79.8	80.9	170.3	157.9	62.9	50.9	83.3	80.7	89.7	84.0
53	151.1	153.2	42.8	43.8	70.2	74.4	79.8	79.8	170.8	158.6	62.2	52.4	85.8	81.4	90.5	84.6
54	150.0	152.4	42.1	43.7	73.7	74.2	76.5	79.4	170.0	158.6	61.4	52.5	86.5	82.5	89.2	83.8
55	145.2	153.5	42.6	44.6	70.2	75.1	78.3	82.0	175.8	158.6	61.0	51.2	82.8	80.8	88.1	83.5
56	144.9	151.2	43.7	42.7	71.5	76.0	61.2	80.6	170.8	159.1	60.8	53.1	84.8	80.6	88.5	84.8
57	153.3	151.5	43.8	42.4	72.9	73.5	80.2	80.8	171.5	158.0	62.2	49.7	84.5	79.2	89.5	83.8
58	144.9	153.1	42.4	45.4	71.3	75.9	76.9	81.7	170.5	159.9	61.1	51.0	84.0	81.3	96.2	86.0
59	147.7	153.9	42.1	45.5	71.7	75.5	78.2	81.8	169.1	159.2	62.0	53.4	83.7	81.5	89.8	84.5
60	152.0	153.7	43.5	43.7	69.8	74.6	79.7	82.3	171.4	159.3	62.6	52.5	82.7	79.6	90.3	85.2

(エ) 健康状態

本校の生徒の健康状態は，他の学校と批較すると結核・心疾患・腎疾患・その他の内科的疾患のり患者が少なく，う歯・近視・鼻炎のり患者が多い。特に近視者の被患率は全国の被患率よりも高く，近視予防対策の指導を行っている。視力0.9以下の生徒と鼻炎のり患者について10年間をまとめた。

年度	科目	視力 0.9以下				鼻炎			
	校種	中学		高校		中学		高校	
	数 性別	男	女	男	女	男	女	男	女
50	り患者数	152	76	224	95	23	10	28	4
	被患率	54.2	38.3	63.0	52.1	8.2	5.0	7.8	2.1
51	り患者数	154	111	213	116	7	7	8	8
	被患率	54.0	60.0	61.0	60.0	2.4	3.7	2.2	4.1
52	り患者数	173	105	223	121	15	7	12	5
	被患率	58.0	59.0	66.0	58.0	5.0	4	3.5	2.4
53	り患者数	163	99	227	139	14	4	15	1
	被患率	54.0	61.0	68.1	64.0	4.5	2.3	4.5	0.4
54	り患者数	141	82	227	151	19	4	16	4
	被患率	46.0	48.0	68.0	73.0	6.1	2.3	4.7	1.9
55	り患者数	145	77	233	120	38	21	8	4
	被患率	47.0	46.0	67.0	59.7	12.3	12.7	2.3	1.9
56	り患者数	152	82	216	114	20	5	3	0
	被患率	50.1	50.0	61.3	57.8	6.4	2.3	0.8	0
57	り患者数	167	113	185	117	10	5	10	3
	被患率	54.7	68.0	52.5	59.6	3.2	3.0	2.8	1.5
58	り患者数	158	90	184	112	16	3	4	0
	被患率	51.2	53.5	51.2	58.0	5.1	1.7	1.1	0
59	り患者数	143	96	220	109	58	17	0	0
	被患率	45.5	57.1	61.6	56.4	18.4	10.1	0	0
60	り患者数	163	93	212	119	18	3	3	0
	被患率	51.4	55.4	58.8	62.3	5.7	1.7	0.8	0

2　スポーツテスト

(1)　スポーツテストの目的

①　各自の体力に関する関心を高め，その向上に努力させる。

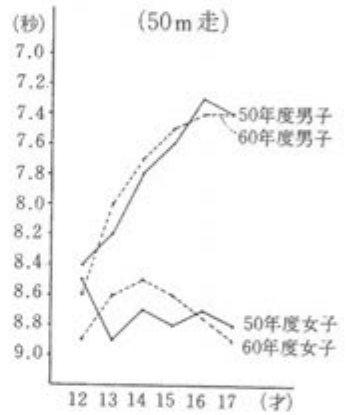
②　各自の体力の特徴を知って、運動生活の改善を図るよう努力させる。

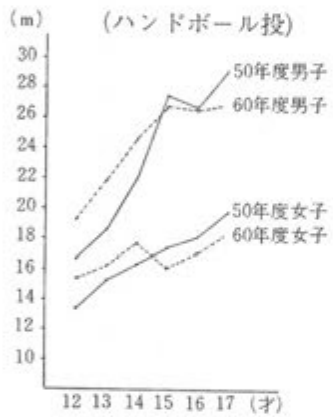
以上のような目的で，毎年４月下旬及び５月上旬に時期を一定にして測定を実施している。そして，その結果を一人一人の生徒に自己診断出来るように個人表を作成し自分の劣っている運動能力，体力について理解させ，今後の１年間の努力目標とさせている。

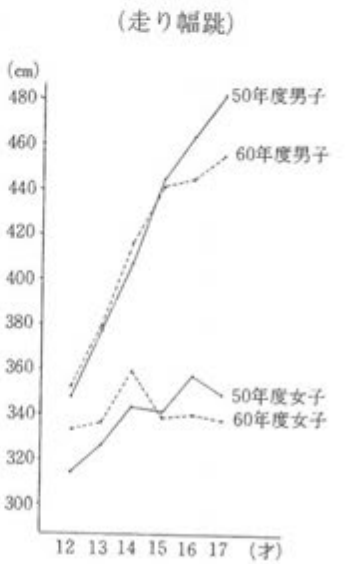
(2)　昭和50年度と昭和60年度のスポーツテストの比較

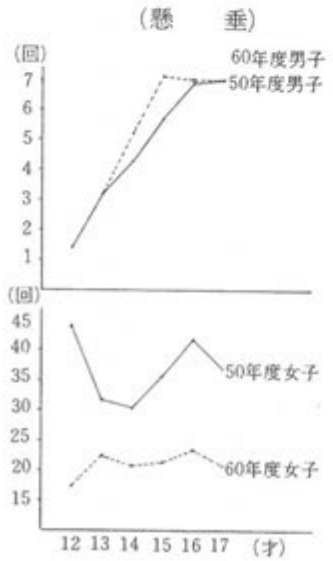
昭和50年度と60年度のスポーツテストの結果を，年令別（学年別），男女別に集計し平均値を算出し，グラフにしたのが以下の表である。

〔運動能力テスト〕



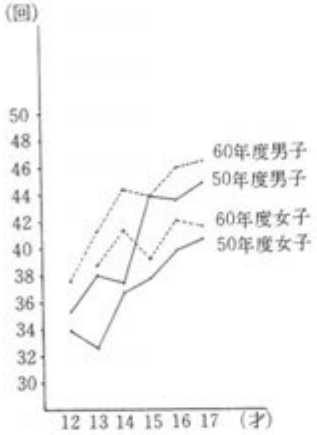




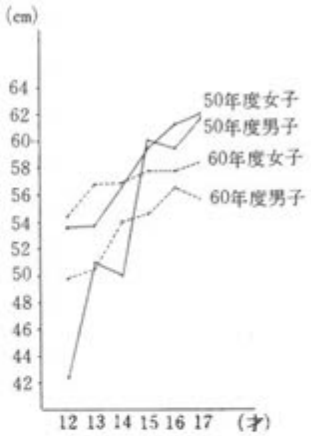


〔体力診断テスト〕

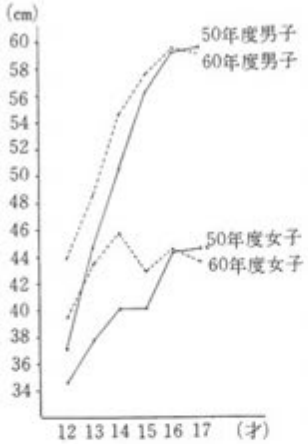
(反復横とび)



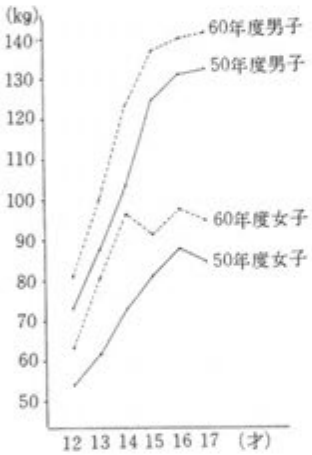
(伏臥上体そらし)



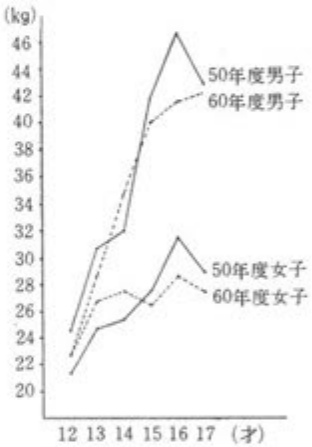
(垂直とび)



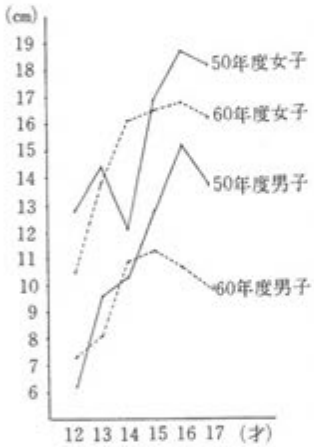
(背 筋 力)



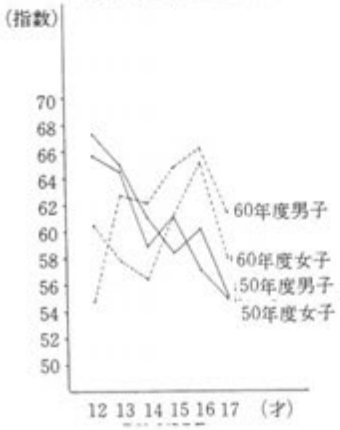
(握　　力)



(立位体前屈)



(踏み台昇降運動)



§2　体育的行事

体育的行事は，本校における教育活動の重要な柱であって，生徒の心身の健全な発達を企図し，学校生活の充実と発展を目指し，加えて楽しく，豊かな潤いのある生活を形成するため，創立以来，今日まで活発に行ってきた。いろいろな体育活動の推進と実行による成果として，質実剛健な気風の涵養，運動生活，運動経験の拡大充実，教師と生徒，生徒相互の人間関係の向上がみられたことは当然のことであり，伝統と校風を形成するための核として，原動力としての役割りを果たしている。各行事の概観を次に示す。

1　体育大会

○目　標　1．日ごろの体育の成果を発表し，心身の健全な発達を図り運動する楽しさを味わわせる。

2．集団行動を通じて自主性，企画性，協調性を養い，フェアプレイの精神を高めると共に各個人に最善の努力をさせる。

3．学校教育に対する家庭の理解と認識を高める。

(1)　春季体育大会実施記録（中学）

年度	実施年月日	会場	内容	備考
昭和26年度	昭和26年5月18日	中百舌鳥総合競技場	球技大会（学年別、学級対抗試合） 実施種目：野球（28年よりソフトボール）1年 2年 3年／バスケットボール 2年 3年／バレー・ボール 2年 3年／ドッチ・ボール 1年／テニス 1年 2年 3年 体育クラブ別校内試合 実施クラブ名：陸上競技クラブ／野球クラブ／バスケットボールクラブ／バレーボールクラブ／サッカークラブ／テニスクラブ／バドミントンクラブ／柔道クラブ／剣道クラブ／体操クラブ（36年より）	
27	27．6．11	〃		・28年より 800m リレーを追加
28	28．6．5	〃		・32年大会…創立10周年記念大会
29	29．5．27	〃		・中学校全生徒がいずれかの体育クラブに加入することが原則となり，クラブ活動奨励の意味で球技大会を廃止し，クラブ活動を主体とした大会に改める。
30	30．5．26	〃		・34年～39年高校との合同大会（高校は球技大会）
31	31．5．24木	〃		・36年より，体操クラブ誕生
32	32．6．21金	〃		・38年より，野球クラブ・バドミントンクラブ解散
33	33．6．20金	〃		・中学校生徒の体育クラブへの加入は自由参加となり，体育クラブに加入していない者もあるため，クラブ活動を主体とすることが出来ず元の球技大会の形式にもどる。
34	34．6．17水	〃		・40年より中・高校の大会を分離，高校は大阪府立体育館にて球技大会を実施。
35	35．6．14火	〃		・テニス部員の増加により，42年度よりテニスを行うようになった。
36	36．6．19月	大学運動場 中高校運動場	総力リレー 球技大会（学年別、学級対抗試合） 実施種目：ソフトボール 1年 2年 3年／バスケットボール 2年 3年／バレーボール 2年 3年／ドッチボール 1年／柔道 2年 3年	・48年度より，クラブ員以外は参加しにくいという理由によりテニスをなくすことになった。
37	37．5．24木	〃		・50年度より，春に三附中交歓会，春季体育大会が重複し，生徒の疲労等を考慮した結果，行事の精選をする必要性に迫られ，中止ということになり現在に至っている。
38	38．5．24金	〃		
39	39．5．22金	〃		
40	40．　金	〃		
41	41．6．3金	〃		
42	42．6．9金	大学附属運動場体育館	実施種目：ソフトボール 1年／バスケットボール 2年 3年／バレーボール 1年 2年 3年／ドッチボール 1年／サッカー 2年 3年／テニス 2年 3年／柔道 2年 3年 48年度より，1年生のソフトボールを廃止し，ポートボールを実施する。また，2，3年生のテニスを廃止することになった。	
43	43．6．7金	〃		
44	44．5．16金	〃		
45	45．5．15金	〃		
46	46．　金	〃		
47	47．5．12金	〃		
48	48．5．11金	〃		
49	49．5．10金	〃		

(2) 秋季体育大会（中学）

〔中・高合同大会の実施記録〕

年度	回数	実施年月日	会場	内容		備考
昭和24	1	昭和24年10月30日(日)	大学運動場	合同体操,徒競走(学年別学級対抗)		・開学記念大会
25	2	25. 10. 30（日）	附中新運動場	主な実施種目		・校舎，運動場落成記念大会
26	3	26. 10. 21（日）	附中運動場	入場行進	柔道，仮装行列 徒手体操（1年） 卒業生演技追加	
27	4	27. 10. 12（日）	附中運動場	合同体操		・入場行進午後の初めに実施
28	5	28. 10. 11（日）	附中運動場		柔道廃止	
29	6	29. 10. 3（日）	附中運動場		校外班別リレー追加	
30	7	30. 10. 9（日）	大学運動場	スタンツ（2年）		
31	8	31. 10. 14（日）	大学運動場	ダンス（女子）	校外班別リレー 招待リレー廃止	・高等学校設立にともない，中学校・高校合同体育大会となる。（31年～39年）
32	9	32. 10. 13（日）	大学運動場	職員演技	模範演技廃止	
33	10	33. 10. 5（日）	大学運動場	P・T・A演技	仮装行列廃止職員演技，PTA演技合併	
34	11	34. 10. 4（日）	大学運動場	模範演技(大学生)		
35	12	35. 10. 2（日）	大学運動場	招待リレー		
36	13	36. 10. 8（日）	大学運動場		中・高連絡クラス対抗紅白リレー追加	
37	14	37. 10. 7（日）	大学運動場		球技（バレーボール・バスケットボール）追加 レクリエーション演技廃止	・球技種目追加のため中・高会場を分ける中学校，午前球技，午後徒競走，団体演技，高校午前徒競走，団体演技，午後球技
38	15	38. 10. 6（日）	大学運動場			
39	16	39. 10. 4（日）	大学運動場			・中・高会場合併
40	17	40. 10. 3（日）	大学運動場		体育クラブ演技・器械運動（3年）追加 レクリエーション演技復活球技廃止	・中学校，高等学校の大会を分離，高等学校の大阪市立長居陸上競技場で陸上競技大会実施 ・中学校単独の大会となる。
41	18	41. 9. 25予定〈日〉 41. 10. 9実施〈日〉	大学運動場			

〔中学校単独大会後の実施記録〕

年度	回数	実施年月日	会場	主な実施種目	備考
昭和41	18	昭和41年10月9日(日)	大学運動場	団体演技	中学校単独大会となる。
42	19	42. 10. 1（日）	大学運動場	大行進	
43	20	43. 10. 29（日）	大学運動場	合同体操	50m走廃止
44	21	44. 10. 5（日）	大学運動場	ダンス	
45	22	45. 10. 4（日）	大学運動場	スタンス	80mハードル追加
46	23	46. 10. 3（日）	大学運動場	学年自由演技	
47	24	47. 10. 1（日）	大学運動場	クラブ演技	スタンス中止　クラブ演技廃止
48	25	48. 10. 10（日）	大学運動場	生徒会企画	ダンス中止，ABC対抗リレー中止 生徒会企画追加，応援合戦
49	26	49. 10. 6（日）	大学運動場	フォークダンス	生徒会企画　応援合戦
50	27	50. 10. 10（日）	大学運動場	徒競走	ダンス再開，ABCD対抗リレー再開 生徒会企画フォークダンス
51	28	51. 10. 3（日）	大学運動場	100m	
52	29	52. 10. 2（日）	大学運動場	200m	
53	30	53. 10. 1（日）	大学運動場	400m	
54	31	54. 10. 7（日）	大学運動場	80mハードル	生徒会企画　風船わり
55	32	55. 10. 5（日）	大学運動場	1500m	生徒会企画　玉入れ
56	33	56. 10. 4（日）	大学運動場	500mリレー	
57	34	57. 10. 3（日）	大学運動場	総力リレー	
58	35	58. 10. 2（日）	大学運動場	ABC，ABCDリレー	
59	36	59. 10. 7（日）	大学運動場	50m	
60	37	60. 10. 6（日）	大学運動場	その他	ダンス廃止，生徒会企画なし
				PTA演技	生徒会企画なし
					フォークダンス，生徒会企画廃止

〔新記録（中学単独大会以後）〕

種目	50m		
性別	女		
年度＼学年	3	2	1
41	7秒6 江口江美子（S29）		
42	7秒6 江口江美子		•

種目	100m						200m					
性別	男			女			男			女		
年度＼学年	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1
41	12秒5 西本　博美 （S33）	12秒8 藤井　清美	13秒4 吉田儀三郎 （S40	15秒2 上村美佐子 （S36）	15秒4 池内　陽子	14秒8 野村登志子	26秒1 矢倉　義久 （S39	28秒7 細屋　俊彦	29秒8 小藤　喜嗣	24秒3 赤崎　容子	34秒1 天野由美子	34秒0 鈴木　憲子
42		•	•	•	14秒8 野村登志子				27秒5 中西　節夫		31秒5 吉川　晃代	
43	12秒1 池上　博雅	•	•	•	•	14秒4 竹村　佳子	•	27秒7 高井　和信	•	31秒0 野村登志子	•	31秒4 島　美智子
44	•	•	•	•	14秒6 藤原　千里	•	•	26秒8 辻　康之	•	•	30秒7 島　美智子	•
45	•	•	•	14秒6 藤原　千里	14秒5 北川　晴代	•	26秒1 辻　康之 矢倉　義久	•	27秒2 西　信一	29秒9 島　美智子	•	•
46	•	•	•	14秒2 北川　晴代	14秒1 山本佳以子	•	•	•	•	•	30秒5 佐藤　一恵	•
47	•	12秒7 白川　正道	•	13秒7 山本佳以子	•	•	•	•	•	•	•	•
48	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	29秒7 金田　知子
49	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	29秒4 金田　知子	•
50	•	•	•	•	•	•	26秒0 天野　陽介	•	•	29秒3 金田　知子		•
51	•	•	•	•	•	14秒4 竹村　佳子 岩井万希子	•	26秒8 辻　康之 辻岡　克一	•	•	•	•
52	•	•	•	•	•	•	•	26秒0 正田　丈裕	•	•	•	•
53	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
54	•	•	•	•	•	•	25秒5 小林　亮	•	•	•	•	•
55	•	•	•	•	•	14秒4 竹村　佳子 岩井万希子 岡村加奈子	•	•	•	•	•	•
56	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
57	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
58	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
59	•		13秒4 吉田儀三郎 鶴谷　尚信	•	•	•	•	•	•	•	•	•
60		12秒4 鶴谷　尚信	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•

種目	400m			1500m			80 m H			
性別	男			男			男		女	
学年 / 年度	3	2	1	3	2	1	3	2	3	2
41	60秒0 塩浜　寿男 (S36)	63秒0 飯田　潤	64秒8 川崎　俊弘	4分53秒3 佐野川谷成之 (S35)	5分15秒0 吉田悌三郎	5分38秒0 猪本　匡慶				
42			〃							
43	58秒9 川井　優	61秒4 京井　充	〃	4分53秒2 北　克則	4分56秒7 関本　宏	5分25秒0 西野　精治				
44	58秒0 京井　充	〃	〃	4分52.6 関本　宏	〃	〃				
45	〃	〃	〃	4分51秒6 高浦　宏郎	4分50秒8 富田　大介	5分22秒4 堀井　克規	13秒2 新田　豪 山口　英之	13秒0 東　彰雅 岡村　哲也	14秒6 竹村　佳子	16秒4 藤田　マリ
46	〃	〃	〃	〃	〃	〃	12秒4 岡村　哲也	〃	〃	15秒8 近藤　綾子
47	〃	〃	〃	〃	〃	5分14秒5 上敷領正俊	〃	〃	〃	〃
48	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
49	〃	〃	〃	〃	〃	5分9秒2 笹井　教夫	〃	〃	〃	14秒6 磯上千恵子
50	〃	〃	〃	〃	4分49秒8 笹井　教夫	〃	〃	〃	14秒1 磯上千恵子	〃
51	〃	〃	〃	4分48秒6 笹井　教夫	〃	〃	〃	〃	〃	〃
52	〃	〃	〃	4分48秒4 泉岡　利雄	〃	〃	〃	〃	〃	〃
53	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
54	〃	〃		〃	〃	〃	〃	12秒8 岡本　達也	〃	〃
55	〃	60秒2 安東　茂悦		4分47秒6 坂口　元一	〃	〃	12秒3 岡本　達哉	〃	〃	〃
56	〃	〃		4分46秒9 沢田　直之	〃	〃	12秒3 岡本　達也 竹中　健	〃	〃	〃
57	〃	〃		〃	4分45秒5 井本　貴之	5分6秒3 甲野　純正	〃	12秒5 高橋　太二	〃	46秒6 磯上千恵子 津田圭以子
58	〃	〃		4分36秒6 井本　貴之	〃	〃	〃	〃	〃	〃
59	〃	〃		〃	〃	〃	〃	〃	14秒4 鎌田　裕子	〃
60	〃	〃		〃	〃	〃				

種目	500m R					
性別	男			女		
学年 / 年度	3	2	1	3	2	1
60	64秒8 木村　康雄 岡田　良平 小野　隆文 土居下充洋	67秒9 松倉　功治 高木　啓輔 眞鍋　晃篤 鶴谷　尚信	74秒5 渕側　友晴 桑名　智寛 岡　慎也 川口　健	78秒2 岐保　博子 宮川さおり 吉川恵美子 濱田　有紀	79秒2 山根　雅美 大川　玲子 岡田　珠恵 深江　麻起	79秒1 上林真理子 志賀　美苗 高橋　朋子 研橋　玲子

種目 / 年度	ＡＢＣＤ対抗Ｒ
60	１分49秒２ 河田　淑子　　上田　美里　　中森　美和 西浦　　学　　津村　和寿　　長澤　大輔

昭和60年度　秋季体育大会準備日程

月	日	曜日	行事名	内容
9	3	火	教官会議	準備日程案　特別練習日程決定 演技計画決定 教官事務分掌決定 プログラム決定
	7	土	体育委員会	演技計画発表　生徒事務分掌案作成・決定
	11	水	生徒議会	指導教官発表　大会査員選出
	13	金	体育大会各係長任命	任命式（生徒集会）
	14	土	体育査員会	各係員選出打ち合わせ 大会準備進行打ち合わせ
			選手名簿用紙配布	
	21	土	選手名簿提出 各係別打ち合わせ会	体育委員がまとめて係教官に提出 指導教官と係生徒打ち合わせ
	27	金	特別練習（第１回）	会場整備・徒競走・大行進・体操（午後）
10	30	月	特別練習（第２回）	大行進・学年演技練習・総力リレー・体操（午後）
	3	木	特別練習（予備日）	
	4	金	体育委員会	大会準備最終打ち合わせ
			各係別打ち合せ会	大会当日の細部打ち合わせ
	5	土	大会準備	準備完了
	6	日	体育大会	当日
	10	木	予備日	

（表紙のデザインは生徒の作品である。）

昭和60年度　秋季体育大会演技計画

種目		参加者（数字は各クラスの人数） 男子 3年	男子 2年	男子 1年	女子 3年	女子 2年	女子 1年	備考
団体演技	大行進	全			全			学年・学級別　4列縦隊　女子前　3・2・1年の順
団体演技	合同体操	全			全			ラジオ体操　第2
団体演技	学年企画	全			全			学級対抗の場合総得点50点を配分　演技15分以内
徒競走	100m走	8	8	10	6	6	8	1.徒競走には，1人1種目に必らず出場しなければならない。 2.2種目出場する場合はリレーを兼ねる。 3.競技は学年別に行ない順位を決定する。 4.1500m走は，全員同時にスタートするが順位は学年別とする。 5.リレーは各クラス2チーム（1チーム4名）とする 6.2・3年男女の障害走は，ハードル走とする。 7.得点 個人レース　1位8点　2位7点……8位1点 但し1500m走　1位8点　2位7点　3位6点　4・5位5点 6・7位4点　8・9位3点　10・11位2点　12位1点 リレー　1位　16点　2位14点……8位2点 8.総力リレー　各クラス2チーム1周を3人で走る。 得点　1位24点　2位21点……8位3点。 9.ABCD対抗リレー　チームの編成は学年通しのクラス別とする 各学年男女1名6人とする。 得点　1位12点　2位9点……4位3点
徒競走	200m走	6	6	6	2	2	4	
徒競走	400m走	2	2	4				
徒競走	1500m走	3	3	3				
徒競走	80mハードル走	4	4		4	4		
徒競走	500mリレー	8	8	8	8	8	8	
徒競走	総力リレー	全	全	全	全	全	全	
徒競走	ABCD対抗リレー	1	1	1	1	1	1	
PTA	PTA演技							
全体	フォークダンス							

日　　時……昭和60年10月6日（日）午前9時15分～3時45分
雨天の場合10月10日（木）

場　　所……大学運動場

競技方法……学年別・学級対抗，学年通しの学級対抗とする。

表　　彰……各学年別1位，全学年クラス別総合1位，新記録樹立者を表彰する。

服　　装……特別の指示を受けた者を除き，教科体育時に使用しているものを着用する。

クラスカラー…A組（赤）B組（白）C組（青）D組（黄）

注　　意……○生徒は必ず規定の種目に出場すること。もし，病気その他の理由により出場出来ない場合は、担当教官に届け，指示を受けること。
○練習や準備を行う場合は，必ず担当教官の許可を受け安全に気を付けて行うこと，また用具の整理に心掛け，登下校の時間は厳守すること。

備　　考

開会式
1．開会のことば
2．校歌斉唱
3．学校長挨拶
4．生徒代表宣誓

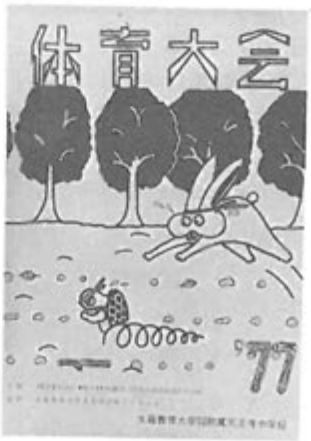
大行進
1．大行進
2．学長挨拶
3．PTA会長挨拶
4．応援歌斉唱

閉会式
1．成績発表
2．表　　彰
3．講　　評
4．万才三唱
5．閉会のことば

昭和60年度　秋季体育大会　プログラム

午前の部					午後の部				
	No.	演技種目	出場者	時間		No.	演技種目	出場者	時間
開会式		1．開会のことば　2．校歌斉唱　3．学校長挨拶　4．生徒代表宣誓		9：15	大行進		大行進　1．学長挨拶　2．ＰＴＡ会長挨拶　3．応援歌斉唱		13：00
演技	1	合同体操	全学年男女	9：25	演技				
	2	100ｍ競走	全学年男女選手	9：40		10	ＡＢＣＤ対抗リレー	全学年男女選手	13：25
	3	１年団体演技	１年男女	10：00		11	２年団体演技	２年男女	13：35
	4	２年総力リレー	２年男女	10：20		12	１年総力リレー	１年男女	13：50
	5	400ｍ競走	全学年男選手	10：35		13	３年総力リレー	３年男女	14：05
	6	1500ｍ競走	全学年女選手	10：50		14	ＰＴＡ演技	保護者、職員	14：20
	7	３年団体演技	３年男女	11：10		15	500ｍリレー	全学年男女選手	14：40
	8	200ｍ競走	全学年男女選手	11：25		16	全体企画 フォークダンス	全員	15：00
	9	ハードル競走	２・３年男女選手	11：45					
休憩		昼食		12：00	閉会式		1．成績発表　2．表彰　3．講評　4．万歳三唱　5．閉会のことば		15：30

中体育大会プログラム表紙（デザインは生徒の作品である。）



中体育大会プログラム表紙

(3) 春季体育大会（高校）

回	年度	実施月日	場所	主な内容	備考
1	31	5月24日	学校内	○ソフトボール ○バレーボール ○バスケットボール	※昭和34年度～昭和39年度までは、中学校と合同開催
2	32	6月21日	同上		
3	33	6月20日	同上		
4	34	6月17日	中モズ競技場		
5	35	6月14日	同上		
6	36	6月19日	学校内		
7	37	5月24日	同上		
8	38	5月24日	同上上		
9	39	5月22日	同上上		
10	40	5月6日	府立体育館	○バレーボール ○バスケットボール ○柔道 開会式 1．整列点呼 2．校舎主任訓辞 3．競技上の注意 4．応援歌 5．準備運動 閉会式 1．成績発表 2．表彰 3．講評	※昭和50年度より、柔道を除く
11	41	6月24日	同上		
12	42	6月15日	同上		
13	43	6月20日	同上		
14	44	5月12日	同上		
15	45	5月7日	同上		
16	46	5月7日	同上		
17	47	5月8日	同上		
18	48	5月9日	同上		
19	48	6月14日	同上		
20	50	6月11日	同上		
21	51	5月7日	同上		
22	52	5月17日	同上		

※春季体育大会中止の理由

52年度の新学期に入って，前年度から教官会議で提案されていた，全ての学校行事の見直しという観点から，行事検討委員会が設けられた。なかでも特に修学旅行の変更についての行事委員会の話題のなかで，5月の行事（スポーツテスト，身体計測，高1合宿，春体，修学旅行等）について議論がなされた。高1合宿，春体について，公共施設を利用するため本校が理想とする日程がうまくとれない。新学期早々，もう少し落ちついた環境で学習させたい。(春体は放課後及び昼休みを利用して，予選を行っている)。高1合宿のための委員活動が不充分になる（放課後予選のため時間が取りにくい）等々の意見があり，春体そのものの意義は認めながらも，学校運営上，春体廃止が教官会議で決定された。

(4) 秋季体育大会（高校）

回	年度	実施月日	場所	主な内容	備考
1	31	10月14日	学校内	陸上競技(トラック) 団体競技 個人競技 女子ダンス	※昭和31年度～39年度までは中学との合同大会
2	32	10月13日	同上		
3	33	10月5日	同上		
4	34	10月4日	同上		
5	35	10月2日	同上		
6	36	10月8日	同上		
7	37	10月7日	同上	〈午前〉陸上競技(走)，団体競技，個人競技，女子ダンス 〈午後〉バレーボール，バスケットボール	
8	38	10月6日	同上		
9	39	10月4日	同上	陸上競技(走)・団体競技・個人競技・女子ダンス，球技(バレーボール・バスケットボール	
10	40	10月4日	長居陸上競技場		※40年度から，高校独自の大会となる。
11	41	10月3日	同上		
12	42	10月2日	同上		
13	43	9月24日	同上	トラック競技 100m走　200m走 400m走　1500m走 80mH走　1500m障害 400mR走　総力リレー	
14	44	9月29日	同上		
15	45	9月28日	同上		※45年度より，競歩2000m，1000mが加わる。
16	46	9月22日	同上		
17	47	9月25日	同上		※47年度より，女子80mHが100mHに変更
18	48	10月3日	同上		
19	49	11月14日	同上	フィールド競技 走幅跳　三段跳（男子） 走高跳　砲丸投	
20	50	10月17日	万国博記念公園陸上競技場		※50・51年度大会は，長居競技場改装の為変更。
21	51	10月1日	同上		
22	52	10月25日	長居陸上競技		
23	53	10月7日	同上		
24	54	10月2日	同上		※55年度大会は長居競技場使用日程うまくとれず変更。 ※56年度より，女子100mHが80mHに変更。
25	55	10月2日	万国博記念公園陸上競技場		
26	56	10月20日	長居陸上競技		
27	57	10月6日	同上		
28	58	10月13日	同上		
29	59	10月11日	同上		
30	60	10月2日	同上		

秋季体育大会新記録表（高校）

（男　　子）

種目／年度	100 m 走	200 m 走	400 m 走	1500 m 走	80 m H 走	100 m H走	1500 m 障害走	400 m R	走幅跳	三段跳	走高跳	砲丸投	2000 m 競歩
40	11″ 8 山田　正夫 (30)	25″ 9 山田　忠治	57″ 5 西本　博美 (35)	4′ 49″ 5 亀屋　健司	12″ 1 飯田　勉		5′ 07″ 8 洞口　進	49″ 3 片芝・丹治 椅　・宮脇	5 m 85 片芝　賢二	12m 37 椅　　登之	1 m 70 飯田　勉	12m 64 宮脇　悦郎	
41	11″ 8 勝田　正広	23″ 5 大井　明雄 矢倉　義久	56″ 1 福田　　治					48″ 5 矢倉・藤江 石橋・勝田	6 m 10 木村　治兵	12m 42 矢倉　義久		13m 32 片山　正徳	
42		24″ 6 日村　和男		4′ 46″ 8 北浦　謙一	12″ 0 堀畑　裕一				6 m 28 勝田　政宏				
43	11″ 6 藤井　清和	24″ 5 内村　　勉		4′ 37″ 5 関　　宏	11″ 8 堀畑　裕一								
44		24″ 2 池上　博雅			11″ 5 元田　輪人					12m 46 元田　輪人	1 m 71 木村　義人		
45							5′ 06″ 2 関本　　宏			12m 69 元田　輪人	1 m 72 高木　正人		
46							5′ 00″ 0 関本　　宏	84″ 4 吉次・吉村 江見・池上			1 m 85 吉村　盛弗		12′ 29″ 橋本　泰司
47						14″ 5 吉次　良師	4′ 54″ 8 富田　大介						
48				4′ 23″ 8 関本　　力		14″ 4 吉次　良師							12′ 13″ 9 津国　清隆
49						14″ 2 岡村　哲也	4′ 45″ 1 富田　大介						11′ 31″ 8 富田　大介
50	11″ 6 白川　正道							48″ 4 安藤・　提 南部・白川					
51	11″ 6 西田　裕志	24″ 0 保田　　健	56″ 0 前　　泉裕			14″ 1 堀内　敏彦		46″ 8 島田・安森 白川・南部					
52			55″ 6 金原　克也					46″ 7 吉崎五月女 天野・西田					
53						13″ 5 相　雄一郎						13m 72 三浦　信幸	
54	11″ 6 境　　信輔		53″ 0 泉岡　利雄							12m 99 田中一二三			10′ 47″ 7 笹井　教夫
55		24″ 0 小林　　亮											
56	11″ 5 藤田　幸久							46″ 6 春日井、小林 藤田、若林	6 m 34 多屋　貞一				
57				4′ 22″ 1 石田享太郎							1 m 95 西村　泰彦		
58				4′ 19″ 8 上堂　文也									10′ 44″ 2 上堂　文也
59		23″ 8 上坂　憲一					4′ 44″ 0 上堂　文也						
60			53″ 0 上坂　憲市	4′ 15″ 7 井本　貴之									

（注）1．昭和47年度より，80m ハードルが100m ハードルに変更。

2．昭和46年度より競歩2000m を加える。

(女　　子)

種目 年度	100 m走	200 m走	80mH走	100mH走	400 mR	走幅跳	走高跳	砲丸投	1000m競歩
40	14″ 7 浜口　久代	33″ 2 平井佳代子	16″ 7 尾崎みや子		60″ 8 石黒・高橋 浜口・桝田	4 m09 新堂　育子	1 m36 藤本　博子	9 m16 坂田　留美	
41		32″ 9 辻本　咲子	16″ 6 舟川　千秋		58″ 1 吉村・二木 鉄谷・山本	4 m34 浜口　久代		9 m33 坂口　京子	
42		30″ 4 吉村　房子	15″ 4 熊谷満幸子						
43								10m64 井上　和代	
44	14″ 4 坪井　祥		14″ 4 田中美智子					11m65 井上　和代	
45			13″ 9 堀畑　淳子		57″ 7 堀畑・辻田 杉本・上野	4 m93 上野　好永			
46		30″ 00 杉本　淳子					1 m43 堀畑　淳子		6′ 39″ 0 辻仲千佳子
47				18″ 8 藤田　マリ					6′ 34″ 0 土師　加寿
48	13″ 3 山本佳以子	29″ 8 前川あおい		17″ 6 藤田　マリ	56″ 6 小林・北川 石川・前川				
49		29″ 8 山本佳以子		17″ 4 藤田　マリ	56″ 5 赤井・佐藤 松浦・山本				
50		28″ 1 山本佳以子							
51									
52					55″ 8 三輪・磯上 白井・金田				6′ 22″ 0 小野　道子
53									
54				17″ 0 森田　啓子					
55									
56									
57									
58									
59			13″ 8 宮浦　円 藤原　晴子						
60			13″ 5 藤原　晴子						

(注) 1．昭和47年度～昭和55年度までは100mハードルを実施。80mハードルはなし。
　　2．昭和46年度より競歩1000mを加える。

昭和40年度（第10回）秋季体育大会実施要項

1．日　時　　昭和40年10月４日(月)　８時40分集合完了(運動服)，出席点呼
2．場　所　　長居陸上競技場（阪和線「鶴ケ丘」駅下車）
3．競技方法　○学年別クラス対抗及び学年を通してのA・B・C・D対抗とする。
4．種目その他

種目		各組よりの出場人数						出場規定	得点
		1男	2男	3男	1女	2女	3女		
トラック種目	100m	16	12	12	10	10	8	① 全生徒は， ・リレーを除くトラック競技の中の1種目 ・総力リレー ・フィールド競技の中の1種目 の3種目に必ず出場する。 ② 1人の生徒は4種目まで出来る。	決勝競技の 1位＝8点 2位＝7点 ⋮ 8位に1点 とする 但し、リレーは 1位＝30点 2位＝25点 ⋮ 6位＝5点 とする
	200m	12	8	12	4	4	4		
	400m	8	6	4					
	1500m	10	6	4					
	80mハードル	12	12	12	8	8	6		
	1500障害	8	6	6					
	400mリレー	4	4	4	4	4	4		
	総力リレー	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム	2チーム		
フィールド種目	走幅跳	18	15	15	8	8	6		
	三段跳	18	10	10					
	走高跳	12	10	10	6	6	6		
	砲丸投	18	15	15	8	8	6		

開会式　① 入場行進
　　② 国旗・校旗掲揚
　　③ 校舎主任あいさつ
　　④ 生徒代表宣誓
　　⑤ 競技上の注意
　　⑥ 応援歌
　　⑦ 合同体操

閉会式　① 成績発表
　　② 表　彰
　　③ 講　評
　　④ 国旗・校旗降納

5．表　彰
- 団体優勝には，優勝旗を授与する。
- 学年別優勝者には，賞状を授与する。

6．その他
- 競技に参加出来ない者は，医師の診断書を提出し，審判を行う。
- 服装……体育の服装に出場のときは半パンツとする。
　　紅白ハチ巻を使用。
- スパイクの使用禁止。

昭和40年度（第10回）秋季体育大会プログラム

8時40分	集合完了（運動服），出席点呼
8：50	入場行進、開会式
9：20	（1　全）総力リレー
9：30	（2　男）1500m決勝（1組）　（3全）フィールド競技
10：10	（1・2　男）400m予選（6組）
10：25	（1・2・3　男）200m予選（10組）
10：40	（1・2・3男女）100m予選（22組）
11：00	（1・2・3男女）80mハードル予選（18組）
11：20	（1　男）1500m決勝（1組）　（2全）フィールド競技
12：00	（1・2・3　男）1500m障害決勝（3組）
12：30	昼　食
1：10	（3　全）総力リレー
1：20	（2　全）総力リレー
1：30	（3　男）1500m決勝（1組）　（1全）フィールド競技
2：20	（1・2　男）400m決勝（2組）
2：30	（1・2・3男女）200m決勝（6組）
2：45	（1・2・3男女）100m決勝（6組）
3：00	（1・2・3男女）80mハードル決勝（6組）
3：20	（1・2・3男女）400mリレー決勝（6組）
3：40	閉会式

昭和59年度　秋季体育大会

高体育大会プログラム表紙
昭和51年度

昭和60年度（第30回）秋季体育大会実施要項

1　日　　時　昭和60年10月２日（水）８：40（集合）～16：30（解散）
2　場　　所　大阪長居陸上競技場（阪和線「鶴ケ丘」又は地下鉄「長居」駅下車）
3　競技方法　☆学年別クラス対抗及び全学年を通してA・B・C・D対抗とする。
　　☆各競技は，学年別に行う。
4　種目及び出場人数

種目＼人数		各クラスの出場人数 男子	女子	出場規定	得点
トラック	100m	3名以上	2名以上	(1) 全生徒は ◆400mリレーを除くトラック競技のうち１種目 ◆フィールド競技の１種目 ◆総力リレー 上記３種目に、必ず出場すること。 (2) 400mリレー競技は(1)の種目以外に出場することができる。	後日・別紙で報告する。
	100mH	3名以上			
	80mH		3名以上		
	200m	3名以上	2名以上		
	400m	3名以上			
	1500m	3名以上			
	1500m障害	3名以上			
	400mリレー	2チーム	2チーム		
	総力リレー	2チーム	2チーム		
	競歩	希望者	希望者		
フィールド	走幅跳	3～10名	2～7名		
	走高跳	3～6名	2名以上		
	三段跳	3名以上			
	砲丸投	3～10名	2～7名		

5　表　　彰　ＡＢＣＤ対抗優勝には，優勝旗を授与する。
　　学年別クラス対抗優勝学級には、賞状を授与する。
　　学年別種目優勝者には，賞状を授与する。
　　大会新記録樹立者には，賞状とメダルを授与する。
6　その他　服　　装　体育の服装で，帽子のかわりにハチ巻を使用する。
　　競技に出場する時は，半パンツを使用する。
　　スパイクシューズの使用は禁止し，運動靴を使用する。
　　見学者　健康上の都合で，選手として参加できない者は，養護教諭の指示を受け，体育教官に申し出て，適当な指示を受けること。
　　小雨決行　６時30分現在で決行かどうかを決定する。

昭和60年度（第30回）秋季体育大会プログラム

昭和60年度（第30回）体育大会プログラム
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

8：40　集　　合（出席点呼、諸連絡）〔競技場外に集合〕
9：00　開　　門（それぞれ決められた場所で更衣する。）
9：15　開会式　(1)　校舎主任あいさつ
　　(2)　生徒代表宣誓（自治会会長）
　　(3)　競技上の注意（生徒審判長）
　　(4)　準備体操　　（自治会体育委員長）
9：40　100m走予選　（2・1・3女：2・1・3男）
10：30　400m走予選　（2・1・3男）
10：45　200m走予選　（2・3女：1・3男）　　9：50
11：00　80mハードル走予選　（2・1・3女）
11：15　100mハードル走予選　（2・1・3男）　　フィールド競技（1全）
11：30　1500m障害走決勝　（2　男）
11：40　1500m障害走決勝　（3　男）　　11：40
11：50　1500m障害走決勝　（1　男）　　フィールド競技（2全）
〈　昼　　食　〉
（11：00～1：00の間に出場時刻に合わせて適宜すませること。）
12：00　総力リレー　（3　全）
12：20　総力リレー　（1　全）
12：40　1500m走決勝　（3　男）
12：50　400m走決勝　（1・2・3男）
1：05　200m走決勝　（1・2・3女：1・2・3男）
1：20　100m走決勝　（1・2・3女：1・2・3男）
1：40　80mハードル走決勝　（1・2・3女）　　1：40
1：55　100mハードル走決勝　（1・2・3男）　　フィールド競技（3全）
2：15　総力リレー　（2　全）
2：35　1500m走決勝　（1　男）
2：45　1500m走決勝　（2　男）
3：00　400mリレー決勝　（教　官）
3：15　400mリレー決勝　（1・2・3女：1・2・3男）
3：40　競　　歩　（1・2・3男女希望者）
4：00　閉会式　(1)　成績発表（個人）
　　(2)　成績発表（団体）
　　(3)　講　　評
　　(4)　応援歌
5：00　解　　散

高体育大会プログラム表紙一覧

2　臨海訓練

臨海訓練はプールにおける水泳指導と関連して実施することにより，いっそう効果を高め、意義の深い行事になることは明白なことである。しかし残念ながら，本校においては創立以来，現在（昭和58年３月）に至るまで，諸般の事情からプール施設がなく，その早急な設置を待望している現状である。従って本校での臨海訓練は夏季に海浜を利用し，生徒の健康の維持増進を図り，水泳指導，遠泳指導，生活指導などの特別の教育計画を立てることによって実施して来たのである。

なかでも遠泳指導は泳ぎの持久力を付け，海になれると共に，疲労，寒さ，心理的単調感，恐怖心など，自分の体力，気力の限界に挑戦して，これを乗り越える頑強な精神力を養うに最も重要な核としてとらえ，３km（150分）の遠泳を実施して来た。

また，訓練期間中は各種の泳法の指導は勿論のこと，「一に監督，二に指導」といって安全管理には特に留意し，事故防止に万全の態勢をとり，教育効果を上げて来ている。なお、昭和38年からは夏季休暇中に大阪プールを２日間借り切り，飛び込み講習並びに水泳テストを実施し訓練の効果と結実を高らしめている。この大阪プールでの練習は当初において，一流選手が競技し，あまたの記録を樹立した場所でもあったこととて、生徒達は大変感激したものである。

次に臨海訓練の目的，実施状況，日課表，指導計画についてのあらましを示す。

(1)　臨海訓練（中学）

目　　的

１．水泳の技能を高め，心身を鍛練すると共に，安全に身を処する能力を養う。

２．集団生活を通じて自主的生活態度を養い社会性を身に付けさせる。

実施記録

年度	実施年月日	宿泊数	訓練場	宿泊所
22	22年７月15日～20日	５泊６日	和歌山県加太町海岸	大阪屋旅館
23	23年７月19日～23日	４泊５日	京都府天ノ橋立海岸	対橋楼、幾世勘七館
24	24年７月20日～23日	３泊４日	三重県二見ケ浦海岸	浜千代館、麻野館、松新館
25	25年７月21日～23日	２泊３日	兵庫県洲本大浜海岸	松栄館
26	26年７月20日～23日	３泊４日	泉佐野市羽倉崎海岸	羽倉崎水園
27	27年７月21日～24日	３泊４日	京都府天ノ橋立海岸	対橋楼、幾世勘七館
28	28年７月21日～24日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
29	29年７月26日～29日	３泊４日	三重県二見ケ浦海岸	松鳴館、紅葉館
30	30年７月21日～24日	３泊４日	京都府天ノ橋立海岸	対橋楼、幾世勘七館
31	31年７月23日～26日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
32	32年７月18日～21日	３泊４日	京都府天ノ橋立海岸	対橋楼、幾世勘七館
33	33年７月16日～19日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
34	34年７月20日～23日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
35	35年７月19日～22日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
36	36年７月18日～21日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
37	37年７月17日～20日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館、楽有荘
38	38年７月21日～24日	３泊４日	和歌山県白良浜海岸	三楽荘
39	39年７月17日～20日	３泊４日	福井県美浜久々子海岸	スエヒロ館
40	40年７月18日～21日	３泊４日	福井県美浜久々子海岸	スエヒロ館
41	41年７月18日～21日	３泊４日	福井県美浜久々子海岸	スエヒロ館
42	42年７月17日～20日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館
43	43年７月17日～20日	３泊４日	兵庫県洲本大浜海岸	三熊館（洲本で赤痢発生のため中止）
44	44年７月16日～19日	３泊４日	和歌山県白浜江津良浜海岸	迎賓閣
45～58	各年度 ７月16日～19日	３泊４日	和歌山県白浜江津良浜海岸	迎賓閣

昭和58年度臨海訓練日程表　1983．7．16（土）～ 7．19（火）

大阪教育大学教育学部附属天王寺中学校

時刻＼日	7月16日（土）		17日（日）	18日（月）		19日（火）	
6：30			起床	起床		起床	
7：00			朝礼	朝礼		朝礼	
7：30			朝食	朝食		朝食	
8：00	〈中1全〉	〈中3全〉					
	8：40 集合完了		8：40 集合	集合		集合	
9：00	9：00 出発（くろしお4号）	9：10 集合完了 9：30 出発（くろしお6号）	水泳訓練	水泳訓練		水泳訓練	
10：00		11：32				10：40	
11：00 07	白浜着		（移動）	（移動）		（移動）	
11：30 50	宿舎着	11：32 白浜着 12：10 宿舎着	入浴（3年→1年）	入浴（1年→3年）		入浴（1年→3年） 11：45	
12：30			昼食	昼食		12：15 昼食	
13：00	昼食・休憩		午睡	13：10 集合（遠泳組） 14：00 出発	午睡	〈中1全〉	〈中2全〉
14：10	集合		集合		集合	13：45 集合 14：20 宿舎発	14：15 集合
14：30	水泳訓練		水泳訓練	水泳訓練		15：08 白浜発（くろしお13号）	14：40 集合 15：47 白浜発（くろしお15号）
16：30	〈移動〉		（移動）	（移動）			
17：00	入浴（3年→1年）		入浴（1年→3年）	入浴（3年→1年）		17：17 天王寺着 解散	18：05 天王寺着 解散
18：20	休憩		休憩	休憩			
18：40	夕食		夕食	夕食			
19：20	休憩・自由時間		休憩・自由時間	休憩・自由時間			
21：00	夕礼		夕礼	夕礼			
21：30	就寝		就寝	就寝			

(2) 臨海訓練（高校）

目　的

1．水泳の技能を高め，心身を鍛練すると共に安全に身を処する能力を養う。

2．集団生活を通じて自主的生活態度を養い，社会性を身に付けさせる。

3．泳ぎの持久力を付け，海になれると共に疲労，寒さ，恐怖心など自分の体力気力の限界に挑戦してこれを垂り越える精神力を養う。

実施記録

回	年度	実施期日	場　所（宿　舎）	参　加　生　徒	引率教官	生徒参加費　用
1	31	7月23～26日	淡路島洲本市大浜海岸（三熊館）	高1全員（中学全員と合同）	全教官	2,100
2	32	7月18～21日	京都府天ノ橋立海岸（松影楼）	高1全員，高2希望者（中学全員と合同）	全教官	2,100
3	33	7月25～28日	淡路島一宮町江井（寒伝館）		全教官	2,500
4	34	7月20～23日	淡路島洲本市大浜海岸（三熊館）	高1全員，高2希望者（中学全員と合同）	全教官	2,600
5	35	7月19～22日	同　上	同　上	全教官	2,600
6	36	7月18～21日	同　上	同　上	全教官	2,600
7	37	7月17～20日	同　上	高1全員（中学全員と合同）	全教官	2,900
8	38	7月21～24日	和歌山県白浜温泉白良浜（三楽荘）	同　上	全教官	3,900
9	39	7月20～23日	福井県三方郡美浜町久々子海岸（スエヒロ館）	高1全員	全教官	4,300
10	40	7月21～24日	同　上	高1全員	全教官	5,800
11	41	7月21～24日	同　上	高1全員	全教官	5,800
12	42	7月23～26日	淡路島洲本市大浜海岸（淡交ホテル）	高1全員	全教官	5,800
13	43	7月22～25日	同　上	淡路島全域で集団赤痢発生のため中止		5,800
14	44	7月20～23日	和歌山県日高郡由良町衣奈海岸（黒島館，日栄別館）	高1全員	全教官	5,800
15	45	7月20～23日	同　上	高1全員	全教官	6,500
16	46	7月20～23日	和歌山県那智郡勝浦町浜ノ宮（浜ノ宮グランドホテル）	高1生徒学年合宿後，集団赤痢発生のため中止	実施要項等計画する以前に中止決定	
17	47	7月20～23日（実施7月21，22日）	同　上	台風のため現地まで行ったが1日で中止	全教官	9,600
18	48	7月20～23日	同　上	台風のため中止		11,000
19	49	7月21～24日	鳥取県気高郡浜村温泉浜村海岸（旅館たつもと）	高1全員	全教官	13,600
20	50	7月21～24日	同　上	高1全員	全教官	17,000

回	年度	実施期日	場　所（宿　泊）	参　加　生　徒	引率教官	生徒参加費　用
21	51	7月21～24日	鳥取県気高郡浜村温泉浜村海岸（旅館　たつもと）	高1全員	全教官	22,500
22	52	7月21～24日	同　　上	高1全員	全教官	24,500
23	53	7月21～24日	同　　上	高1全員	全教官	26,000
24	54	7月21～24日	三重県度会郡池の浦，池の浦海岸（ホテル，池の浦ビラ）	高1全員	全教官	31,000
25	55	7月21～24日	同　　上	高1全員	全教官	32,400
26	56	7月21～24日	同　　上	高1全員	全教官	34,300
27	57	7月21～24日	同　　上	高1全員	全教官	35,800
28	58	7月22～24日	同　　上	高1全員	全教官	36,500
29	59	中　　止		実施計画・立案したが中止		
30	60	中　　止				

水泳訓練実施上の留意事項（これは中・高とも共通した留意事項である。）

水泳指導の重点――1に監督　　2に指導

1．水泳訓練開始の際は各班毎に名簿順に旗の前に整列する。

2．人員点呼は入水，離水毎に班指導教官自ら行う。
　（班長に代行させてはいけない）
　班員の異状の有無を速かに総指揮係に連絡する。

3．班指導教官不在の時は，その班は入水させない。

4．班指導教官は，入水の場合その班の先頭に立って入水し，班員はこれに従う。離水の場合は班員の離水を見とどけてから最後に離水する。

5．水泳指導は各班員の能力を考慮して，各班毎に班指導教官が行う。
　（各班の技術指導は水泳訓練指導計画表に従って体育教官が行う）

6．班指導教官は出席カードを記入し，水泳訓練期間中保管する。

7．テストを受ける者は，班指導教官の許可を得て出席カードをそのテスト前に体育科教官に提出すること。

8．班指導教官はテストによる人員移動について特に留意する。

9．遠泳に際しては，体育科教官以外に班指導教官の援助を仰ぐ。この為班指導教官不在の班は臨時に他の班指導教官が合併して指導する。

10．教官の許可なくして，生徒の入水は厳禁する。
　練習時間外に特別練習を行う時は，体育科教官に連絡し，許可を得て後班指導教官の指導のもとに行う。

11．水泳訓練は総指揮係の指示する場所で行い，それ以外の場所で水泳してはいけない。
　ただし，遠泳の場所は別に定める。

昭和50年度（第20期生）臨海訓練日課表

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

時刻＼月日	7月21日（月）	7月22日（火）	7月23日（水）	7月24日（木）
6：00				
7：00		30分 起床 （朝　食）	起　床 （朝　食）	起　床 （朝　食）
8：00	30分　大阪駅中央コンコース北より集合 大阪駅発			8：30
9：00	まつかぜ1号 （特急）	（水　泳）	（水　泳）	（水　泳）
10：00				10：15
11：00	30分 車中昼食	30分		
12：00	10分　鳥取駅着 25分　鳥取駅発 52分　浜村駅着	（入　浴） 30分 （昼　食）	（入　浴） （昼　食）	11：45 浜村駅前集合 12：04 浜村駅発 12：36 鳥取駅着 12：44 〃 発
13：00		（昼　寝）	（昼　寝）	まつかぜ1号 （特急）
14：00		30分		
15：00	40分 浜集合完了	（水　泳）	（水　泳）	
16：00	（水　泳）			
17：00				17：00 大阪駅着 17：20 解　散 （大阪駅中央コンコース）
18：00	（入　浴）	（入　浴）	（入　浴）	（全員「まつかぜ1号」に乗車できない場合） 92名は 12：45 浜村駅前集合 13：04 浜村駅発 13：30 鳥取駅発 13：54 〃 発 （みささ2号） （急　行） 18：50 大阪駅着 19：00 解　散
19：00	（夕　食）	（夕　食）	（夕　食）	
20：00	自由時間	自由時間	自由時間	
21：00	30分　夕　礼	夕　礼	夕　礼	
22：00	就　寝	就　寝	就　寝	
23：00				

昭和57年度（第27期生）臨海訓練日課表

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

7月21日（水）		7月22日（木）		7月23日（金）		7月24日（土）	
		6：15	起　床	6：15	起　床	6：15	起　床
		6：30	朝　礼	6：30	朝　礼	6：30	朝　礼
		7：00	（朝　食）	7：00	（朝　食）	7：00	（朝　食）
		7：30		7：30		7：30	
8：50	近鉄「上本町駅」 1階コンコース 集合						（荷物を管理してそれぞれ指示のあった場所に移動してから水泳訓練に出かけること）
8：30	上本町駅㊱（近鉄特急）	9：00		9：00		9：00	
			（水泳訓練）		（水泳訓練）		（水泳訓練）
10：53	近鉄「鳥羽強」㊲						開校式
11：10	近鉄「鳥羽駅」㊳（バス）						後かたづけ
11：30	宿舎「滝の浦ビラ」㊴	11：30		11：30		11：30	
	（昼食・休憩）	12：30	（昼　食）	12：30	（昼　食）	12：45	（昼　食）
13：45	宿舎前 集合	13：00		13：00		13：10	
	（徒歩）			13：15	遠泳参加者集合（浜へ）	13：50	宿舎前 集合
14：00	開　校　式			14：00	遠泳出発	14：00	宿舎出発（バス）
14：30		14：30		14：30		14：20	近鉄「鳥羽駅」㊲
	（水泳訓練）		（水泳訓練）		（水泳訓練） （遠　泳）	14：37	近鉄「鳥羽駅」㊱ （近鉄特急）
				16：30	遠泳到着	16：42	近鉄「上本町駅」㊲
17：00		17：00		17：00		17：00	近鉄「上本町駅」 1階コンコース解散
	（入　浴）		（入　浴）		（入　浴）		
19：00	（夕　食）	19：00	（夕　食）	19：00	（夕　食）		
19：45		19：45		19：45			
			（遠泳参加申し込み） （8：00～8：45） （遠泳参別申し込み者は医師の診断を必ず受けてから申し込み書を提出する）	20：00	（救助法講習会） （遠泳合格者で明日の救助法を受ける希望等のある者） （水泳カード持参）		
21：30	夕　礼	21：30	夕　礼	21：30	夕　礼		
22：00	就寝・消灯	22：00	就寝・消灯	22：00	就寝・消灯		

水泳能力表

昭和40年度

級別	テスト種目	級別	テスト種目
7級	距離10m（泳法自由）	2級	距離100m（泳法自由）
6級	距離50m（泳法自由）		背泳　20m
5級	距離100m（泳法自由）		潜行　20m
	平泳　10m		クロール50m
	クロール10m		前　　飛
4級	距離300m（泳法自由）	1級	距離300m（泳法自由）
	横泳　10m		背泳・平泳・クロール（300個人メドレー）
	直　　飛		救　助　法
	スタート飛込	特級（三種目中一種目）	自由型100m（男）1分22秒（女）1分37秒
3級	距離500m（泳法自由）		平　泳100m（男）1分37秒（女）1分52秒
	潜行　10m		背　泳100m（男）1分32秒（女）1分47秒
	平　　飛		
	立泳30秒		

昭和50年度

級別	テスト種目	級別	テスト種目
7級	距離10m（泳法自由）	2級	距離100m（泳法自由）
6級	距離50m（泳法自由）		クロール50m
	距離100m（泳法自由）		背泳　50m
5級	クロールまたは背泳10m		潜行　男子25m女子20m
	スタート飛込		前飛込
4級	距離300m（泳法自由）	1級	距離3000m（泳法自由）
	平泳　10m		300m個人メドレー（背泳・平泳・クロール）男子8分30秒 女子9分30秒
	潜行　10m		
	直飛込		救助法
3級	距離500m（泳法自由）	特級（三種目中一種目）	自由型100m 男子1分30秒 女子1分45秒
	横泳　10m		平泳100m 男子1分45秒 女子2分00秒
	立泳　30秒		背泳100m 男子1分40秒 女子1分55秒
	順下（平飛込）		

昭和57年度

中1年	中2年	中3年	高1年	氏名	
組	組	組	組		
番	番	番	番		

合格表

級別	テスト種目	合格印		級別	テスト種目	合格印	
級別	距離10m（泳法自由）			2級	距離1000m（泳法自由）		
6級	距離50m（泳法自由）				横泳泳法		
5級	距離100m（泳法自由）				背泳　50m		
	クロール泳法				潜行男子25m，女子20m		
	スタート飛込				前飛込		
4級	距離300m（泳法自由）			1級	距離3000m（泳法自由）		
	平泳泳法				300m個人メドレー（背泳・平泳・クロール）男子8分30秒- 女子9分30秒		
	潜行　10m						
	直飛込				救助法		
3級	距離500m			特級（三種目中一種目）	自由型 100m 男子1分30秒 女子1分45秒		
	背泳泳法				平泳 100m 男子1分45秒 女子2分00秒		
	クロール50m				背泳 100m 男子1分40秒 女子1分55秒		
	立泳30秒						
	順下						

水泳訓練巡回指導計画（昭和50年度）

日(曜)	入水時間		指導教官	矢田	浦久保	風間	西浜
7月24日(月)	午後	3：00～5：00	15分				
			30分	⑱クロール・背泳	⑱クロール背泳（スタート飛込）	⑪横泳(立泳・順下)	⑫平泳・潜行
			30分	⑧横泳（立泳・順下）	⑱クロール背泳（スタート飛込）	⑨横泳(立泳・順下)	⑭平泳・潜行
			30分		⑬横泳（立泳・順下）	⑬平泳・潜行	⑱クロール背泳 スタート飛込
22日(火)	午前	9：00～11：30	15分				
			30分	③メドレー法	⑤クロール・背泳	⑥クロール・背泳	⑦横泳(立泳・順下)
			30分	⑱平泳(スタート飛込)	⑱平泳・潜行(直飛込)	②メドレー泳法	④クロール・背泳
			30分	①クロール・平泳・背泳		⑬横泳(立泳・直飛込)	⑬平泳・潜行(直飛込)
	午後	2：30～5：00	15分				
			30分	300m，500（テスト）	300m，500m（テスト）	300m，500m（テスト）	300m，500（テスト）
			30分				
			30分				
23日(水)	午前	9：30～11：30	15分	遠泳	遠泳	遠泳	遠泳
			30分				
			30分				
			30分				
	午前	2：30～5：00	15分				
			30分	①タイム測定(平、背)	⑬横泳(クロール・背泳)	⑪横泳(クロール・背泳)	⑬横泳(立泳・直飛込)
			30分	⑧横泳(クロール)	⑰平泳・潜行(直飛込)	⑨横泳(クロール・背泳)	⑬横泳(立泳・直飛込)
			30分	③メドレータイム測定		⑥潜行(前飛込・メドレー)	⑦横泳(クロール・背泳)
24日(木)	午前	8：30～10：15	15分			②メドレータイム測定	
			20分	救助法（1級受験希望者）			④潜行(前飛込・メドレー)
			20分		⑤潜行(前飛込・メドレー)		
			20分				

昭和57年度（第27期生）臨海訓練班別指導資料

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

班名	級	人数	班長氏名	班指導教官名	泳力距離	主に練習すべき種目		
1	特・1	男 10	亀岡 京二	北 講師	3キロメートル遠泳合格	特級種目		
2	2	男 11	川本 雅彦	駒井講師		個人メドレー・特級種目		
3	2・3・4	男 11	土井 健司	※宮内講師		個人メドレー・特級種目		
4	特1・2・3	女 10	渡辺 有希	東元教官		個人メドレー・特級種目		
5	2・3	女 8	岩見佳代子	◎武田教官		個人メドレー・特級種目		
6	3	男 11	高森 信岳	※木村講師		潜行・個人メドレー・特級種目		
7	3・4・5・6	男 10	柴田 哲生	河野教官		クロール50m・背泳50m・潜行・個人メドレー		
8	3・4	女 11	水谷はゆみ	網 教		クロール50m・背泳50m・潜行・個人メドレー		
9	3・6	男 11	宮田 泰裕	柴山教官		クロール50m・背泳50m・潜行・個人メドレー		
10	4・5	男 7	鍔 宣夫	※幡生講師		横泳・立泳・クロール・背泳・潜行		
11	4・6	男 8	田中 一郎	※市川講師		横泳・クロール・背泳・潜行		
12	4・5・6	男 8	近藤 信哉	※中桐講師		立泳・クロール・背泳・潜行		
13	4	女 7	東田美幸子	◎平林教官		横泳・立泳・クロール・背泳・潜行		
14	4・6	女 8	中御門洋子	横田教官		平泳・横泳・立泳・クロール・背泳		
15	5・6	男 8	南 銀次郎	琢磨教官	1000m合格	長距離泳力を身につける（平泳）	平泳・クロール・横泳の泳法を身につける	5級 4級 3級 2級 1級 特級 種目
16	2・3・4・6	8	竹中 健	高木教官				
17	3・4・5・6	8	金口 真理	田原教官	500m合格			
18	仮5・仮6	男 8	山本克克平	井野口教官	泳力距離未定			
19	仮5・仮6	男 8	溝手 弘一	井畑教官				
20	仮5・仮6	女 10	小西 美保	千種教官				
養護				楠本教官				

昭和５７年度（第27期生）臨海訓練班別練習計画表

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

班	21日(水) 午後 2：00～5：00				22日(木) 午前 9：00～11：30				22日(木) 午後 2：30～5：00			
	10分	25分	25分	25分	10分	25分	25分	25分	10分	25分	25分	25分
1		平泳		浦久保 風間 西浜			背泳	風間 西浜 田中				
2		平泳					背泳				クロール	平泳
3		平泳	300			500	背泳			500	クロール	平泳
4		平泳					背泳					
5		平泳	m			m	潜行			m	クロール	背泳
6		平泳					潜行				クロール	背泳
7		平泳					潜行				クロール	背泳
8		平泳	浦久保 西浜 田中			潜行	浦久保 西浜 田中			横泳	背泳	
9		平泳				潜行				横泳	背泳	
10		平泳		300		クロール		500		横泳	背泳	500
11		平泳				クロール				クロール	横泳	
12		平泳		m		クロール		m		クロール	横泳	m
13		平泳				クロール				立泳	横泳	
14		平泳				クロール				立泳	横泳	
15		西浜 田中	平泳	クロール		西浜 田中		横泳		西浜 田中		横泳
16			平泳	クロール			300	横泳			500	横泳
17			平泳	クロール			m	横泳			m	横泳
18		浦久保 風間	平泳	平泳		浦久保 風間	クロール	横泳		浦久保 風間	300m	500m
19			平泳	平泳			クロール	浦久保			泳力テスト	
20			平泳	平泳			クロール					

班	23日(金) 午前 9：00～11：30				23日(金) 午後 2：30～5：00				24日(土) 午前 9：00～11：00			
	10分	25分	25分	25分	10分	25分	25分	25分	10分	20分	20分	20分
1				風間 西浜 田中			背泳	個人メドレー		救助法（中・高の遠泳に合格した者のうちから希望する者）（風間・西浜・田中）		特級種目
2							背泳	個人メドレー				特級種目
3		1000				500	背泳	個人メドレー		500 m		特級種目
4							背泳	個人メドレー				特級種目
5		m				m	潜行	個人メドレー				特級種目
6							潜行	個人メドレー				特級種目
7							潜行	個人メドレー				特級種目
8		風間 西浜 田中				立泳		クロール				特級種目
9						立泳		クロール				特級種目
10			1000			立泳	500	潜行		500 m		特級種目
11						潜行		背泳				特級種目
12			m			潜行	m	背泳				特級種目
13						潜行		背泳				特級種目
14						潜行		背泳				特級種目
15		背泳		西浜 田中						300m上班指導（浦久保）		1級種目
16		背泳										1級種目
17		背泳										1級種目
18		背泳		浦久保 風間								1級種目
19		背泳										1級種目
20		背泳										1級種目

上班指導（浜久保）

3km遠泳テスト
◎遠泳テスト受験者
・1時15分浜に集合
・2時00分出泳
・4時30分上陸予定

※午前・午後の部で最初に10分の予備入水の時間をとるが、これはからだを水になれさせる為の入水である。あまり遠くに行ったりはげしく泳いだりしないこと。

昭和57年度（第27期生）臨海訓練実施要項（大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎）

1．日　　時　昭和57年７月21日（水）～24日（土）３泊４日
2．場　　所　三重県度会郡池の浦　池の浦海水浴場
3．宿　　舎　「池の浦ビラ」電話　059643－2501
4．参　加　者　高１生徒全員
5．費　　用　35,800円(交通費・宿泊費・用具費・船費・医療費・プール代等)
6．日　　程　７月21日（水）　８：20　近鉄上本町駅１階コンコース集合
　　８：50　上本町駅発
　　10：53　鳥羽駅着
　　11：10　鳥羽駅発（バス）
　　11：30　宿舎着「池の浦ビラ」
　　13：45　宿舎前集合
　　14：00　開校式
　　14：30　水泳訓練
　　７月22日（木）午前・午後
　　７月23日（金）午前・午後（遠泳）　水泳訓練
　　７月24日（土）午前・（11：30終了）
　　13：50　宿舎前集合
　　14：00　宿舎発（バス）
　　14：20　鳥羽駅着
　　14：37　鳥羽駅発
　　16：43　上本町駅着
　　17：00　上本町駅１階コンコース解散
7．携　行　品　◎水泳用品(水泳着・水泳帽・バスタオル・ビーチサンダル・白い帯－女子のみ等)
　　◎昼食（21日）◎水筒　◎筆記用具　◎洗面用具　◎着がえ
　　◎ねまき　◎洗たくばさみ　◎常備薬　◎その他
8．とびこみ講習会　８月31日（火）12：00～16：30　大阪プール（希望者のみ）
　　上級テスト受験者は必ず受講のこと。
9．泳力テスト　９月１日（水）９：00～12：00（全員）
　　300ｍ・500ｍ・遠泳は現地で行う。

以上

昭和57年度　臨海訓練（高校）

昭和57年度　水泳とび込み講習会実施要項

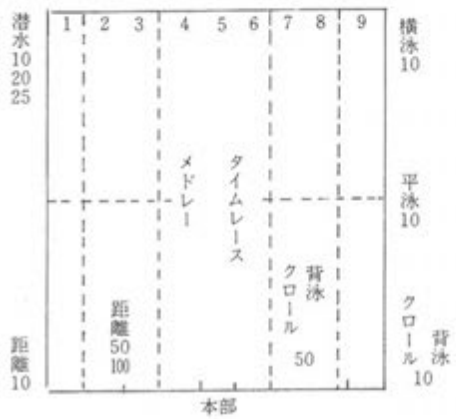
1．日　　時　昭和57年８月31日（火）
2．場　　所　大阪プール
3．集　　合　大阪プール正面入口　　午前８時50分……中１
　　午後12時30分……中２・３・高１
4．参 加 者　中１・２・３　高１（参加希望者）
5．参 加 費　200円，現地にて徴収，別にロッカー代50円が必要です。
6．指 導 者　本校教官
7．そ の 他　泳力カード持参のこと。

昭和57年度　泳力テスト実施要項

1．日　　時　昭和57年９月１日（水）集合　８時30分
2．場　　所　大阪プール（環状線・天満駅下車・扇町公園内）
3．方　　法

	テスト係								
	教官A	B	C	D	E	浦久保	田中	風間	西浜
9：20	距離 10m	潜行 10m	背泳 クロール 10m	個人メドレー タイムレース 救助法	立泳	直飛込・順下・前飛込	スタート飛込・横泳	横泳	平泳
	50m	20m（女）	50m						
12：00	100m	25m（男）							

4．注　　意　① 泳力テストは，全生徒が必ず出席する。泳げぬ者は見学する。
　　② 受験資格は，距離の合格している級までとする。
　　（例）遠泳合格者　２級まで，100ｍ合格者　５級まで
　　③ 集合は水着にかえ，タオルと水泳カードをもって集合する。
　　④ 雨天の場合でも決行する。
　　⑤ テストが終ったものは各自解散する。
　　⑥ 解散時に本部へカードを提出する。
　　⑦ ロッカー代50円が必要です。



3　耐寒訓練・マラソン大会

目　標　寒さに負けない強い心身を鍛練する。

(1)　耐寒訓練

昭和60年度　耐寒訓練実施要項

大阪教育大学附属天王寺中・高等学校

1．実施期日　・昭和61年1月16日(木)～18日(土)，20日(月)，21日(火)の5日間。

2．集合時間　・7時30分集合（各学級出席番号順に，附属高台運動場）
・更衣の時間を考慮して，早めに登校すること。

3．実施学年　・中1・中2・中3・高1・高2全生徒。

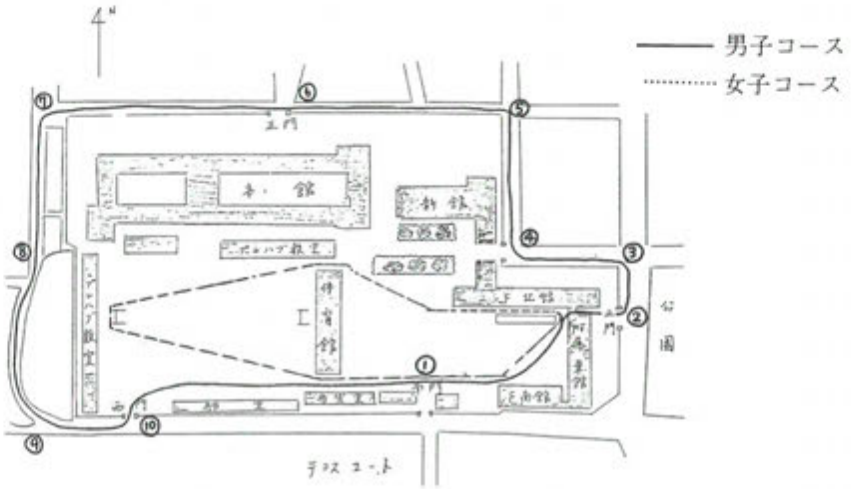
4．服　　装　・体育学習時の服装（走るときは，軽装。タオル持参）
・手袋の使用禁止（特に使用しなければならない者については，体育教官の許可を受けること。）

5．健康相談　・1月11日(土)　11時00分より，保健室で実施する。
・健康のすぐれない者は，必ず健康相談を受け，指示に従うこと。
・健康相談日以後，見学が必要となった場合は，養護教諭に相談し指示に従うこと。

6．そ の 他　・小雨決行
・遅刻をしないように，注意すること。
・朝食は，必ずとってくること。
・早めに就寝し，休養を充分にとっておくこと。

耐寒訓練コース図並びに監視一覧表

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
16日(木)	浦久保	國　方	金　井	井野口	浅　野	乾	井　畑	西　浜	田　中	風　間
17日(金)	田　中	濱　谷	高　木	井野口	西　谷	冨　田	中　西	西　浜	浦久保	風　間
18日(土)	西　浜	西　田	中村潔	井野口	平　田	中村英	高　橋	浦久保	田　中	風　間
20日(月)	田　中	濱　谷	金　藤	井野口	岡	大　仲	東　元	西　浜	浦久保	風　間
21日(火)	風　間	琢　磨	柳　本	井野口	柴　山	場　本	武田薫	西　浜	田　中	浦久保



(2) 校内マラソン大会（中学・高校）

回	年度	実施年月日	実施場所	主な内容	備考
1	24	25．2．12	浜寺小学校→小栗街道→16号線道路→高石町（墓地前)(折り返し）→浜寺小学校	男子　7km 女子　5km	※昭和24年度～昭和30年度までは，中学1年，2年，3年のみで実施
2	25	26．1．28			
3	26	27．1．27			
4	27	28．1．24			
5	28	29．2．13	附属中→大学正門前→天王寺駅前立橋→鉄道病院前→附属中運動場		
6	29	30．1．23	国分（国豊橋）↔青谷	男子　4km，女子　3.3km	
7	30	31．1．29	同　上	男子　5.2km，女子　3.2km	
8	31	32．1．27	同　上	同　上	※昭和31年度より高校1年生が参加 ※昭和32年度より高校2年生が参加
9	32	33．1．28	同　上	同　上	
10	33	34．1．28	瓜破(高野大橋)↔大正橋	不　明	
11	34	35．1．29	大和川周辺 大正橋→大井橋→明治橋→大正橋	男子　7.4km，　女子　4.2km	
12	35	36．1．27		同　上	
13	36	37．1．24		同　上	
14	37	38．1．25		同　上	
15	38	39．1．29	大和川周返 大正橋→河内橋→明治橋→大正橋	男子　7.6km，　女子　4.8km	※昭和39年度より中・高男子の走距離を分ける。
16	39	40．1．30		高校男子　9.2km 中学男子　7.2km 中・高女子　4.1km	
17	40	41．1．26	長居競技場公認競歩コース	高校男子　10km 中学男子　7km 中・高女子　4km	
18 ～ 37	41 ～ 60	各年1・24～1・29の間の1日をあてる。	同　上	同　上	※34回はインフルエンザ流行のため中学校中止 ※35回は大雪のため中止 ※36回より決勝を競技場内スタンド前に移す。

第３回マラソン大会実施要項（昭和25年度）

１．実施要項

○とき　１月27日（日）但し８時現在大雨の場合は２月３日（日）に延期。小雨決行

○集合　午前８時50分　浜寺小学校（南海線すわのもり下車，阪堺線ふなを下車）

９：00　出席点検

９：05　校長訓辞

諸注意

９：20　脱衣・準備体操

10：00　女子出発

１年より20秒おきに出る

10：15　男子出発

１年より20秒おきに出る

11：30　昼　食

12：00　表彰式

12：30　解　散

○表彰

×学級対抗の部

240人走ったとした場合１着を240点として逆算したもの，合計をもってこの級の得点とし，第３位まで表彰する。

×個人対抗の部

先着順男子30名，女子20名に賞品

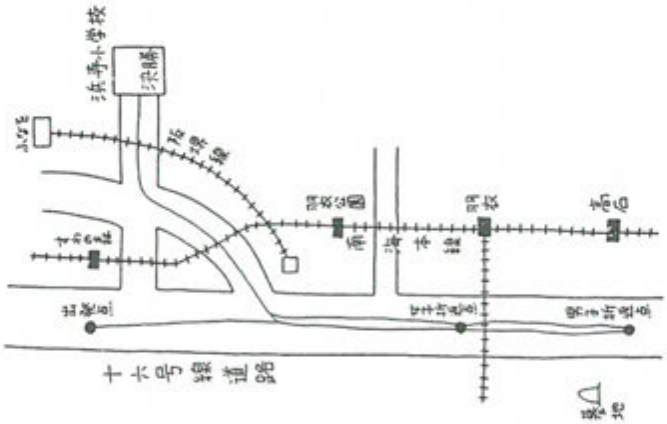
その中先着男女10名に対して表彰状を与える

・着男女各５人に対しては記録を記して一般に公開する。

○諸　注　意

① 折返点には氏名を記した荷札に必ず印を入れてもらうこと。ない場合は無効とする。

② 級担任に，生徒の健康状態には十分に注意して戴き異常のある生徒は応援及び役員に当たらしめること。 要養護の生徒は走ってはならない。



第５回マラソン大会実施要項（昭和28年度）

日　　時　昭和29年２月13日（土）

８分40分　整列，出席点検，諸注意（普通の服装のまま）

９時10分　更衣（マラソンの出来る服装に）

９時20分　準備運動

９時50分　走者人員点検

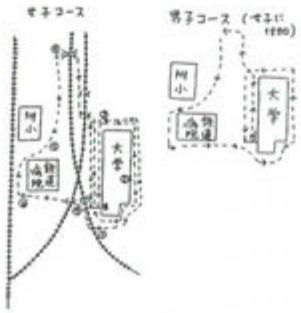
10時00分　女子出発

10時10分　男子出発

11時30分　集合（普通の服装）成績発表，表賞，諸注意

12時00分　解　　散

集合場所　　附中運動場



第７回マラソン大会実施要項（昭和30年度）

と　　き……昭和31年１月29日（日）午前９時集合

午後３時頃解散予定

予　　定……９：00　近鉄南大阪線藤井寺駅前（南出口）集合

出席調査（アベノ橋８：30発が最終，急行利用のこと）

９：10　諸注意

９：20　徒歩出発（下図参照，歩く距離約２里）

11：20　国分町武田塾着。諸注意

11：50　昼　　食

13：00　武田塾校舎集合（体操の服装）マラソンの心得。準備体操。

13：30　男子マラソン出発（約4000メートル）

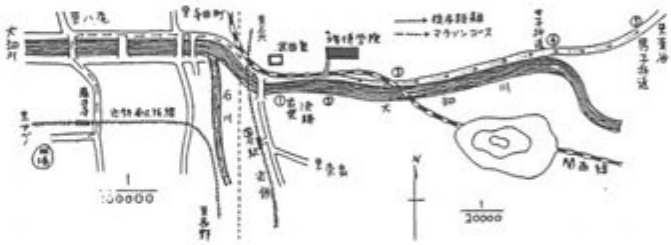
13：40　女子マラソン出発（約3200メートル）

14：10　マラソン終了

14：40　後始末。集合。表彰。

15：00　解　　散。

マラソン大会コース



第10回校内マラソン大会実施要項（昭和33年度）

日　　時　昭和34年１月28日（水）　午前８時40分～午後１時30分

８：40　校庭集合

９：00　学校出発（貸切りバス）

９：30　瓜破中学校着（準備運動・諸注意）

10：10　男子マラソン出発

10：11　女子マラソン出発

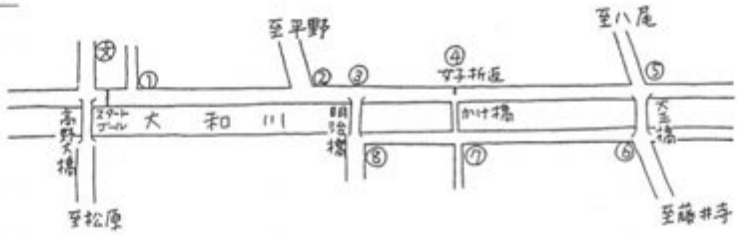
11：00　マラソン終了

11：30　瓜破中学校出発（貸切りバス）

12：00　学校着，昼食

１：20　表　　彰

コース



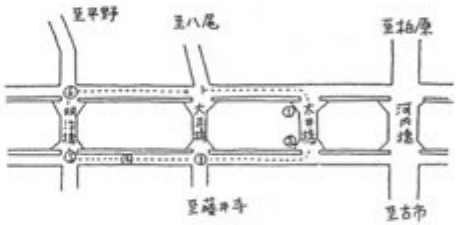
参 加 者　高校１年生全員，中学校全員
但し次の者は審判補助員とする
(1)　１月27日（月）正午までに医者の診断書を提出したもの
(2)　昨年11月以降の陽転者及び要注意者

競技方法
- 男女別，学年別，個人競技とする。
- スタートは高校，中学３年，２年，１年の順とし10秒間かくに出発する。
- 折返し点で必ずカードをもらって決勝点まで持ち帰ること。
  カードの無い時は未完走者とする。
- 道路は左側通行とする，（但し明治橋→大正橋は右側通行とする）

第11回校内マラソン大会実施要項（昭和34年度）

日　　時　昭和35年１月29日㈮午前８時40分～午後１時30分

8：40　校庭集合（準備運動，諸注意）
9：20　学校出発（貸切りバス）
10：00　大正橋北詰着（各自準備運動コース説明）
10：20　男子マラソン出発
10：21　女子マラソン出発
11：10　マラソン終了
11：30　大正橋北詰出発(貸切バス)
12：10　学校着(学年別順位決定)
12：30　解　　散



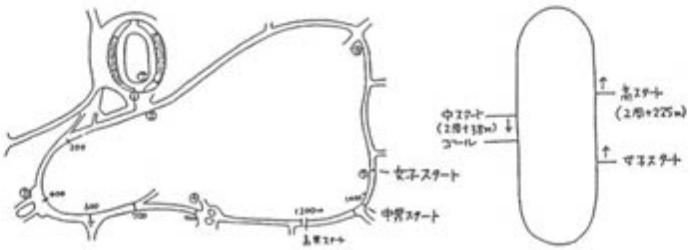
参 加 者
高校１年生，２年生全員，中学校全員
但し走れない者は，審判補助員とする。
競技方法
- 男女別，学年別，個人競技とする。
- スタートは，中学男子出発後10秒して高校男子出発とする。
- 女子は全員同時に出発する
- 道路は左側通行とする

第17回校内マラソン大会実施要項（昭和40年度）

日　　時　昭和41年１月26日㈭９時00分～13時00分

9：00　長居競技場集合（点呼・開会式）
9：30　女子　出　発
9：40　中学男子　出　発
10：30　高校男子　出　発
11：40　競技終了
11：50　昼　　食
12：30　閉 会 式

コ ー ス　長居競技場　15km競歩コース（１周　2,813m）



第26回校内マラソン大会実施要項（昭和49年度）

日　　時　　昭和50年１月24日（金）９時00分～12時00分

日　　程　　９：00　長居競技場集合（点呼・開会式）

９：40　中・高女子出発

９：50　中学男子出発

10：20　高校男子出発

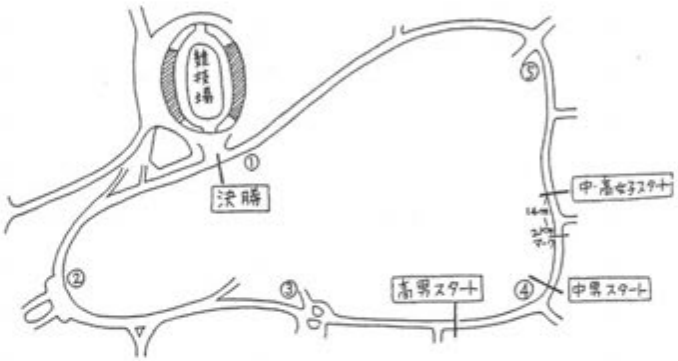
11：20　競技終了

11：30　昼　　食

12：00　閉 会 式

（雨天の場合は，８時30分までに授業と大会の両方の準備をして学校に集合）

コ ー ス　　長居競技場　15km競歩コース（１周 2,813m）



参 加 者　　中学生全員　高校１，２年生全員（走れない者は，補助役員）

競走距離　　中・高・女子　4000m（1187m＋１周）

中・男子　　7000m（1374m＋２周）

高・男子　　10000m（1561m＋３周）

競技方法　　• 中・高別・男女別の個人競技とする。

• コースは舗装路を走る

• 決勝点では，着順カードを渡す

この順位は，高男　中男　女子別の順位で学年別の順位は，後日連絡する。

第36回　マラソン大会実施要項（昭和59年度）

1．日　　時　昭和60年1月30日(水) 8時40分～12時00分
2．日　　程　8時40分　長居競技場南門前集合（出席点呼，開会式，諸連絡）
　　9時15分　中・高女子南門前集合（準備運動）
　　9時25分　中・高男子南門前集合（準備運動）
　　9時40分　中・高女子スタート
　　9時50分　中・男子スタート
　　10時00分　高・男子スタート
　　11時00分　競技終了
　　11時20分　閉会式（競技場内メインスタンドに整列）
3．実施学年　中1・中2・中3・高1・高2全生徒
4．走る距離　中・高女子　4km（1周＋1187m）
　　中　　男子　7km（2周＋1374m）
　　高　　男子　10km（3周＋1561m）
5．大会新記録　10km（高・男子）34分32秒　石田享太郎（57年度）
　　7km（中・男子）23分47秒　笹本　教夫（51年度）
　　4km（中高女子）15分45秒　岡本　光代（55年度）
6．教官役割（敬称略）

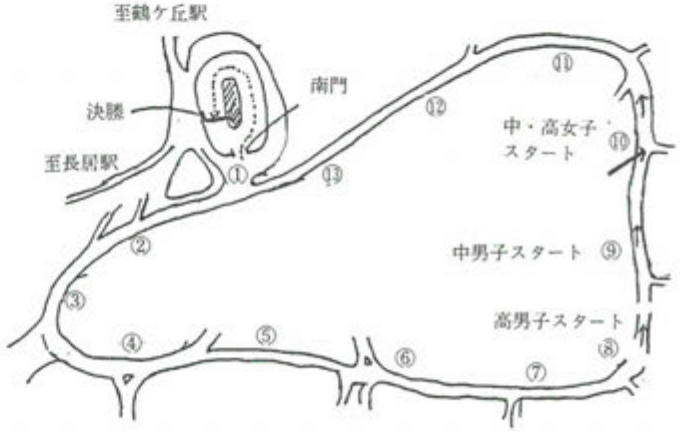
☆　総責任者（下村）
☆　会　　計（浦久保・風間）
☆　審 番 長（風間）
☆　生徒指揮（田中）
☆　準備運動（駒井・楠本）
☆　表 彰 係（武田和）

☆　決勝審判員〔全体〕（風間）
　　高男女子（横田）
　　中男女子（　岡　）

☆　高3授業関係
　　（千種・平村・本間・岩城）
☆　監 察 員〔全体〕（田中）（大仲）
　　4km（高木・篠原・中村潔・平田・金井・柳本）
　　7km（　辻　）
　　10km（奥・網・東元・浅野）
☆　途中監察員
　　1（田原）2（河野）3（中西）4（和田垣）5（井畑）6（國方）7（中村英）8（高橋）9（柴山）10（琢磨）11（場本）12（武田薫）13（越智）

☆総　　務（桜井・中田）
☆　医　　務（逸見校医・成田・楠本）
☆　見学者指導（浦久保）
☆　出発合図員（西浜）
☆　庶 務 係（事務員2名）
☆　時 計 員〔全体〕（風間）
　　中・高男子（白土・富田）
　　中・高女子（井野口・乾）
☆　記 録 員〔全体〕（浦久保）
　　高男女（浜谷）（田村）
　　中男女（西田）（藤村）

7．実施方法　☆　コースは下記の競歩コースを走る。
　　☆　中・高別，男女別の個人競走とする。
　　☆　ゴールでは，着順カードを渡す。（順位は，学年別，男女別に後日連絡する。）
8．コ ー ス　長居競技場　15km競歩コース（1周2813m）



9．　諸 注 意
★　持参品　体育の服装，タオル，ゴミ袋(自分で出したごみは自分で持ち帰る)
★　服　装　体育時の服装で，なるべく軽装。中学生は赤，高校生は白のハチマキを着用。
★　更　衣　競技場内の指定されたロッカー室で更衣する。
★　当日，見学者として認める者は，学校医及び養護教諭より禁止された者，または当日，見学が必要となり，見学届け書を提出した者。
★　競技中に身体の調子が悪くなった時には，直ちに近くの教官や，走っている教官及び生徒に連絡すること。連絡を受けた先徒は，途中監視の先生に連絡すること。
★　ゴールで渡されたカードに，学年，組，番号，氏名を記入（タイムは記入しなくてよい。）し，『着順カード箱』に提出すること。
★　マラソン後は，各自で整理運動を行い，汗をよくふいて直ちに更衣すること。
★　当日，見学する見込みの者は，1月28日(月)12時50分に体育研究室に集合すること。

マラソン大会記録表

年度	10 km	7 km	4 km
40	37′ 38″ 洞口　進		
41	37′ 05″ 雪本　寿嗣	26′ 48″ 北　克則	17′ 08″ 野村登志子
42	37′ 05″ 関関　宏宏	26′ 38″ 北　克則	16′ 33″ 辻本　慶子
43	35′ 56″ 関　宏	〃	〃
44	〃	25′ 02″ 阿南　孝也	〃
45	〃	〃	16′ 14″ 安部ゆかり
46	〃	〃	〃
47	35′ 44″ 関本　力	〃	〃
48	34′ 42″ 関　繁	〃	〃
49	〃	〃	〃
50	〃	〃	〃
51	〃	23′ 47″ 笹井　教夫	〃
52	〃	〃	〃
53	〃	〃	〃
54	〃	〃	〃
55	〃	〃	15′ 45″ 岡本　光代
56	〃	〃	〃
57	34′ 37″ 石田享太郎	〃	〃
58	〃	〃	〃
59	33′ 24″ 井本　貴之 33′ 33″ 林　幸治	〃	〃

4　遠足

遠足は体育行事の中でも最も楽しいものの一つであり，本校創立以来，文字通り「遠い道を歩くこと」を重視し，遠足の経験によって「歩くことの大切さ」や，生徒相互のまた教師との人間的触れ合いと理解をもたらすよい場であるとして実践して来ている。年間を通じて，春・秋の２回行い，教育計画の中に明確に位置付けている。なお，目的，実施方法，目的地などについては以下に示す通りである。

目　　的

1．歩くことによって，健康的で明るい心身の発達を図る。

2．集団行動，公衆道徳について望ましい体験を得させる。

3．校外の自然や文化財に接することにより，生徒の経験を豊かにする。

（中学校）

○各年度実施計画

全校遠足	新入生歓迎遠足として毎年春４月中に実施（昭和50年度より廃止）
学年別遠足（春）	３年生の修学旅行中に１，２年のみ春に実施（昭和53年度より中１合宿訓練実施のため，２年生のみ実施）
学年別遠足（秋）	１，２，３年各学年ごとに秋に実施（昭和30年以前は学級別に実施）

○候補地（下の候補地より一カ所を選択して実施）

（昭和39年度以前）

全校遠足		竜田法隆寺，枚岡生駒山，和歌浦
学年別遠足	１年	奈良，仁川，信太山和泉，磐船
	２年	飯盛山，六甲山，天野山金剛寺，宇治
	３年	笠置，再度公園，吉野山，嵐山嵯峨野

（昭和41年度以後）

全校遠足		枚岡生駒山，二上山，吉野山
学年別遠足	１年	奈良，仁川，楠妣庵観心寺，磐船，壹坂寺高取城跡
	２年	飯盛山，六甲山，竜田法隆寺，宇治，金剛葛城山
	３年	笠置山，再度公園，嵐山嵯峨野，南光寺山延命寺，泉南飯盛山

昭和48年度より新コースを開拓中。

昭和50年度より全校遠足を廃止。

○具　体　例

	35　期　生	36　期　生	37　期　生
１年秋	南光寺山延命寺	矢田丘陵	生駒縦走
２年春	岩湧山	岩城山	金剛葛城山
２年秋	笠置・布目川	六甲・ＹＭＣＡ	笠置・布目川
３年秋	金剛葛城山	六甲東おたふく山	仁川・甲山

（高等学校）

実施計画

○昭和31年～40年

春（４月～５月）―新入生歓迎全校遠足　秋（10月～11月）―学年別遠足

○昭和41年～60年

春（４月～５月）―学年別遠足　　秋（10月～11月）―学年別遠足

※１．全校遠足は交通事情，生徒数，目的地等の関係から昭和41年度より学年別遠足に変更した。

２．１年生の春の遠足は，昭和41年度より合宿訓練中に現地で行っている。

歩行距離

各学年とも15～20km

目的地　（次の候補地から一カ所を選択して実施）

○昭和31年～40年

法隆寺・薬師寺，多奈川・加太，多武峯，六甲山，金剛山，八幡洞ケ岐，京都東山南部
二上山，甲陽園・芦屋，観心寺，比叡山，奈良西ノ京，中山寺，宝塚，堺・百舌鳥，

○昭和41年～52年

１　年	多武峯，六甲山，金剛山，比良蓬莱山，岩湧山，大文字山，音羽山
２　年	側川渓，鞍馬花背峠，青山高原，京都西山，比叡山，天王山， 甲陽園・芦屋，竜王山，上ノ太子・弘川寺
３　年	生駒鳴川峠，奈良西ノ京，中山寺・宝塚，高雄・清滝，京都東山，京都，紀泉高原

○昭和53年～59年（候補地を追加する。）

２年　貝ケ平山，鳥見山

○昭和60年～　（候補地を追加する。）　※新コース開拓中

１年　砂川　２年　紀泉アルプス　３年　飯盛山

具体例

	（27 期 生）	（28 期 生）
１ 年 秋	橿原神宮～石舞台～談山神社～桜井	桜井～山ノ辺の道～天理
２ 年 春	大山崎～長岡天神	山中渓～六十谷
２ 年 秋	星田～磐船～飯盛山～四条畷	笠置～童仙房～大河原
３ 年 春	道場～鎌倉峡～道場	元山上口～鳴川峠～暗闇峠
３ 年 秋	京都散策	京都散策

5　富士登山

○登山訓練　実施記録

年　度	実施年月日	宿泊数	目的地	参　加　生　徒	引率教官
昭和25年度	昭和25年7月27日～31日	4泊5日	富士山		
26	昭和26年7月31日～8月4日	4泊5日	富士山		
27	昭和27年7月31日～8月4日	4泊5日	富士山	中1,2,3年希望者　50名｛男47名 女3名	5名
28	昭和28年 大雨のため中止		白馬岳		
29	29年8月5日～10日	5泊6日	富士山 富士五湖		
30	30年8月5日～9日	4泊5日	乗鞍岳 上高地	中1,2年希望者　63名｛男61名 女2名	6名
31	31年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中1,2,3年希望者　90名｛男75名 女15名	6名
32	32年8月3日～7日	4泊5日	乗鞍岳 上高地	中1,2年希望者　88名｛男80名 女8名	6名
33	33年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中1,2年希望者　59名｛男49名 女17名	5名
34	34年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中2希望者　57名｛男40名 女17名	5名
35	35年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中2希望者　52名｛男36名 女16名	5名
36	36年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中2希望者　75名｛男56名 女19名	6名
37	37年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中2希望者　103名｛男76名 女27名	7名
38	38年8月3日～8日	5泊6日	富士山 富士五湖	中2希望者　109名｛男90名 女19名	9名
39	39年7月28日～31日	3泊4日	富士山 富士五湖	中2希望者　115名｛男89名 女26名	9名
40	40年7月28日～31日	3泊4日	富士山 富士五湖	中2希望者　106名｛男79名 女27名	9名
41	41年7月28日～31日	3泊4日	富士山 富士五湖	中2希望者　118名｛男82名 女36名	10名

○富士登山日程表（41年の例）

7月28日 7：30　大阪駅中央団体改札口集合
8：30　大阪駅　発　（急行第一なには）
14：18　富士駅　着
14：30　出　発（貸切りバス）
17：00　富士山新5合目　着
10　〃　発
50　富士山新6合休泊所着：徒歩 0.8km
40分　宿泊

7月29日 6：30　富士山新6合休泊所　発
9：00　富士山8合目　着
（徒歩1.6km90分　荷物を預ける）
20　〃　発
12：00　山　頂　着
13：00　〃　発
15：00　8合目　着
（徒歩2.0km 120分　昼食，最高峰登頂　徒歩2.0km 60分）
30　〃　発
16：30　御殿場　7合目休泊所　着
（徒歩0.5km 40分　宿泊）

7月30日

4：00　起　床　　御来光
6：00　　休泊所　発 ｜ 徒歩 6.5km　90分
9：00　御殿場口新2合目　着 ｜
9：15　　〃　　発　（貸切りバス）
11：40　御殿場→山中湖(休けい)→河口湖　着　昼食
12：30　河口湖　発　　紅葉台→氷穴→白糸の滝
15：30　富士宮　浅間神社　着
16：00　　〃　　発
17：30　沼　津→伊豆長岡　着　宿泊

7月31日

7：30　伊豆長岡発 ｜ （貸切りバス）
8：20　沼津駅　着 ｜
9：06　　〃　　発
16：26　米原駅　着 ｜ （のりかえ）
17：09　　〃　　発 ｜
19：21　大阪駅　着
19：30　大阪駅中央団体改札口　解散

年　度	実施年月日	宿泊数	目的地	参　加　生　徒	引率教官
42	昭和42年7月28日～31日	3泊4日	富士山 富士五湖	中2希望者　121名｝男85名 女36名	8名

41,42年度の富士登山からの帰阪列車は，沼津発9時06分，途中米原での乗り換えを入れて，大阪着19時21分の普通列車。延々10時間の旅行でお尻が痛くなったことを記憶している。

43年度より，帰阪時には新幹線を利用することが出来るようになり，日程を1日短縮した。

年　度	実施年月日	宿泊数	目的地	参　加　生　徒	引率教官
43	昭和43年7月30日～8月1日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　131名｝男82名 女49名	8名

43年度日程表

7月30日

8：30　大阪駅発（急行第一なにわ）
14：19　富士駅着
17：00　富士山新5合目着（貸切りバス）
18：00　　新6合目着（男子宿泊）
19：00　　新7合目着（女子宿泊）

7月31日

6：30　石室出発
12：00　富士山頂着
16：00　御殿場口7合目着（日ノ出館，宿泊）

8月1日

6：00　石室出発
9：00　御殿場口2合目着
11：50　河口湖着（昼食）
17：34　静岡駅発（こだま131号）
20：05　新大阪駅着

44年度より往復とも新幹線を利用。初日に新7合目まで登り宿泊。

2日目山頂をきわめた後，一気に御殿場口2合目まで砂走りを走り，河口湖で一泊。山小屋での宿泊を1日することにした。この日程は現在の富士登山の日程の基本となっている。

年　度	実施年月日	宿泊数	目的地	参　加　生　徒	引率教官
44	昭和44年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　125名｝男82名 女43名	9名

44年度日程表

7月28日

8：25　新大阪発（こだま112号）

11：03　静岡駅着

12：14　富士駅着　（のりかえ）

15：20　富士山新5合目着

17：20　　新7合目着（夕食，宿泊）

7月29日

6：00　石室出発

10：00　富士山頂着

15：00　御殿場口2合目着

18：30　河口湖着（宿泊）

7月30日

8：00　河口湖発　五湖めぐり

15：00　静岡駅着

15：40　静岡駅発（こだま393号）

18：25　新大阪駅着

年　度	実施年月日	宿泊数	目的地	参　加　生　徒	引率教官
45	昭和45年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　124名 {男79名 女45名	10名
46	昭和46年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　112名 {男76名 女36名	11名

46年より新幹線三島駅富士山新五合目へ。

年　度	実施年月日	宿泊数	目的地	参　加　生　徒	引率教官
47	昭和47年7月26日～28日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　122名 {男 78名 女 44名	10名
48	〃 48年7月26日～28日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　126名 {男 81名 女 45名	9名
49	〃 49年7月29日～31日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　153名 {男 92名 女 62名	13名
50	〃 50年7月29日～31日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　159名 {男 91名 女 68名	12名
51	〃 51年7月29日～31日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　152名 {男 107名 女 45名	13名
52	〃 52年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　158名 {男 106名 女 52名	13名
53	〃 53年7月27日～29	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　162名 {男 111名 女 51名	13名
54	〃 54年7月26日～28日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　156名 {男 105名 女 51名	13名
55	〃 55年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　160名 {男 108名 女 52名	13名
56	〃 56年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　157名 {男 106名 女 51名	13名
57	〃 57年7月28日～30日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　157名 {男 106名 女 51名	13名
58	中　止				
59	〃 59年7月26日～28日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　156名 {男 106名 女 50名	14名
60	〃 60年7月29日～31日	2泊3日	富士山 富士五湖	中2希望者　157名 {男 107名 女 50名	14名

富士登山の栞

富士登山の栞

富士登山の栞

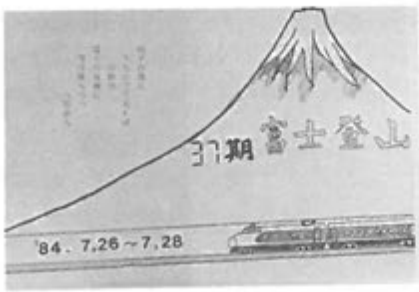
富士登山の栞

富士登山の栞

富士登山

富士登山

富士登山
大阪教育大学
附属天王寺中学校
1982.7.28~30


37期 富士登山
'84. 7.26~7.28

山小屋にて

剣ガ峰にて

宝永山にて

6　スキー訓練

正しいスキーの技術や知識を身に付けさせ，併せて社会的態度や，健康安全に対する態度を学ばせるといった教育的効果を期待して行っているものである。本校がこの行事を実施し始めた当時は，スキーそのものが上流社会の特定な人達のスポーツであったため時代に先行した行事であり，大そうめずらしいものであった。創立した昭和31年度～33年度の間は中学校と合同で，高校１年生の希望者を対象に実施していた。以後は高校１年生の希望者のみの行事として実施していたが，スキーの一般化と普及，２年生の保護者の要望等々により，昭和47年度より，高校１年生，２年生の希望者を対象に実施することになり，現在（昭和60年度）に至っている。実施の概要については以下に示す通りである。

目標

1．大自然に接しながら心身を鍛練し，健康の増進を図る。
2．望ましい団体生活を通じて社会性の向上を図る。
3．スキー技術の習得，向上と併せて安全の習慣を身に付ける。

実施記録

回	年度	実施期日	場　所（宿舎）	生徒参加者数	引率教官名	費用
1	31	32年１月 ５～10日	新潟県妙高池之平スキー場 （第１ホテル小林旅館）	高１年希望者 （男＝９　女＝４）	馬場・辻江・佐崎・保田 川野・鳥井・新堂・森口	3,000
2	32	33年１月 ５～10日	同　　上	高１・２年希望者 （男＝15　女＝８）	辻江・野村・保田・福原 川野・田村・高岡・新堂・森口	3,100
3	33	34年１月 ５～10日	同　　上	高１年希望者 （男＝７　女＝３）	辻江・保田・佐崎・田村 森口・鈴木	3,500
4	34	35年１月 ５～10日	同　　上	高１年希望者 （男＝17　女＝８）	新堂・保田・武田久 笹田	4,200
5	35	36年１月 ４～９日	同　　上		列車不通により中止	4,500
6	36	37年１月 ４～９日	同　　上	高１年希望者 （男＝16　女＝11）	保田・武田・笹田	5,500
7	37	38年１月 ４～９日	長野県白馬村細野八方尾根 スキー場（缶明館）	高１年希望者 （男＝43　女＝24）	保田・山口・武田久 武田和・岡田・上野	5,200
8	38	39年１月 ５～10日	同　　上	高１年希望者 （男＝71　女＝27）	保田・矢田・中谷・山崎・岡田 久島・笹田・芳賀・武田	5,800
9	39	40年１月 ５～10日	同　　上	高１年希望者 （男＝66　女＝16	保田・矢田・中谷・森・山口 武田・芳賀・岡田・笹田・横田	7,200
10	40	41年１月 ５～10日	新潟県妙高赤倉スキー場 （後　楽　荘）	高１年希望者 （男＝57　女＝27）	保田・矢田・中谷・山口 岡田・芳賀・武田・浅野	8,700
11	41	42年１月 ５～10日	同　　上	高１年希望者 （男＝67　女＝27）	保田・矢田・中谷・風間・高岡 片山・笹田・芳賀・浅野	8,850

回	年度	実施期日	場　所（宿舎）	生徒参加者数	引率教官名	費用
12	42	43年1月 5～10日	新潟県妙高赤倉スキー場 （後　楽　荘）	高1年希望者 （男－52　女－29）	保田・矢田・中谷・風間 岡森・浅野・石川・芳賀	8,850
13	43	44年1月 5～10日	同　　上	高1年希望者 （男－32　女－33）	保田・矢田・中谷・風間 桜井・浅野・網	9,200
14	44	45年1月 5～10日	同　　上	高1年希望者 （男－49　女－27）	保田・矢田・中谷・風間 山口・平林・横田・津崎	9,600
15	45	46年1月 5～10日	同　　上	高1年希望者 （男－44　女－34）	保田・矢田・中谷・風間 奥・本間・芳賀	9,700
16	46	47年1月 5～10日	同　　上	高1年希望者 （男－46　女－32）	矢田・中谷・風間・西浜 武田・石川・高木・逸見	11,200
17	47	48年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－41　女－26）	矢田・浦久保・風間 西浜・浅野・高木	11,200
18	48	49年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－32　女－19）	矢田・浦久保・風間 西浜・横田・田原	13,500
19	49	50年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－52　女－34）	矢田・浦久保・風間・西浜・浅野 本間・岩城・東元・上林	18,500
20	50	51年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－44　女－18）	矢田・浦久保・風間・西浜 河野・岩城	23,500
21	51	52年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－29　女－21）	矢田・浦久保・風間 西浜・浅野	27,000
22	52	53年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－46　女－24	矢田・浦久保・風間・西浜 横田・高木	28,500
23	53	54年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－49　女－37）	矢田・浦久保・風間・西浜 河野・田原・井畑・上林	30,500
24	54	55年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－63　女－15）	矢田・浦久保・風間・西浜 本間・河野・岩城・琢磨	31,500
25	55	56年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－54　女－43）	浦久保・田中・風間・西浜 奥・浅野・高木・岩城・北	33,100
26	56	57年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－55　女－23）	浦久保・田中・風間・西浜 浅野・田原・高木・上林	35,500
27	57	58年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－65　女－37）	浦久保・田中・風間・西浜・千種 横田・田原・高木・井野口・井畑・北嶋	36,500
28	58	59年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－47　女－41）	浦久保・田中・風間・西浜・ 横田・琢磨・上林	38,000
29	59	60年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－29　女－45）	浦久保・田中・風間・西浜 網・浅野・下村・楠本(嶋)	38,700
30	60	61年1月 5～10日	同　　上	高1・2年希望者 （男－45　女－36）	浦久保・田中・風間・西浜・武田 河野・高木・柴山・鎌田(嶋)	39,300

（昭和28年度～昭和30年度は中学校実施，昭和31年度～昭和33年度は中学校と合同実施，それ以後は高校のみ）

昭和30年度　スキー旅行計画要項

場　所　新潟県妙高池の平スキー場
日　程　昭和31年1月4日　大阪駅発　20：12（普通列車）
〃　5日　田口駅着　10：16　午後練習
〃　6日　7日　午前・午後練習
〃　8日　午前練習　田口駅発　16：43（普通列車）
〃　9日　大阪駅着　7：50
費　用　3,000円〔交通費 900円　宿泊費 1,900円(食費，米代，チップ等を含む)
雑費 200円(コーチ代，ワックス代等)，尚この外に貸スキー（1日80円）貸靴（1日80円）は，借用者各自負担〕
携行品　○学生服でもよい。アノラック又はジャンパー，毛糸のセーター等，服地はサージ又は，ギャバジンがよい。ズボン下（着換も）
○毛糸のシャツ，下着の交換，長目の手袋，毛糸の靴下，普通の靴下各2足
○朝食（1食分），水筒，紫外線よけ色眼鏡，洗面具，チリ紙，タオル2枚，簡単な娯楽品（トランプ等），帽子（出来れば耳のかくれるもの）
締　切　11月19日(土)厳守して下さい。
方　法　学級担任の承認を得て，第1回納金 1,500円を申込書を添え事務所に提出すること，（全額 3,000円納入してもよい）
第2回納金 1,500円は12月10日迄に納入すること。

昭和40年度　指導計画表

第　1　日
スキー用具の説明
スキーのもち方，おき方
スキーの着脱法
ストックのもち方
歩き方
方向転換
登り方
ころび方，おき方
直滑降
スタートのしかた

第　2　日
前日の復習
直滑降・斜滑降
方向転換
不整地滑降

第　3　日
不整地滑降（直，斜滑降）
斜滑降
横すべり
プフルーク
プフルークボーゲン
シュテムボーゲン
山回りクリスチャニヤ

第　4　日
前日までの各技術を反復練習する。
能力に応じて，谷回りクリスチャニヤ
ウェーデルン
その他

昭和50年度（第20回）スキー訓練募集要項

1．場　　所　新潟県中頸郡妙高高原町赤倉　赤倉スキー場
2．宿 泊 所　ホテル後楽荘（電話０２２５８－７－２１２０）
3．日　　程　昭和51年１月５日（月）～１月10日（土）

５日　集合時刻　21時15分　大阪駅中央団体集合所
大阪駅発21時46分　乗車列車「ちくま２号」

６日　早朝　妙高高原駅着７時46分（貸切バスで赤倉へ）

午後
７日　午前・午後
８日　午前・午後
９日　午前
スキー練習

後楽荘発　16時00分（貸切バスで長野駅へ）
長野駅発　22時40分「ちくま３号」

10日　早朝　大阪駅着　６時55分　　解散　７時00分

4．実施学年　高１・高２希望者
5．募集人員　80名
6．費　　用　23,500円（交通費，宿泊費，その他）
7．申 込 み　費用納入締切　12月１日（月）
但し，申込み順により定員になり次第締切る。
申込み後，不参加の場合，連帯負担金（バス代，その他）として，3,500円徴収しますから，あらかじめご了承下さい。
8．そ の 他　○身体検査，12月４日（木）３時10分から保健室で行う。
○諸連絡日時，12月16日（火）テスト終了後
9．服装・携行品
○上着はキルティング・アノラック・セーター等
○ズボンは，スキーズボン
○帽子は，耳のかくれるもの
○着換は，ズボン下，下着類，普通のくつ下２足
○スキー用具（無い者は，現地で借り得る）
○手ぶくろ，毛糸のくつ下，サングラス，ゴーグル
○日用品（チリ紙，タオル２本，洗面用具，メモ帳，筆記用具）
○弁当２食（６日の朝，昼：但し昼食は，ホテルの食堂を利用してもよい）
○小遣は，5,000円程度，予備金 3,000円，帰りの夕食代 500円程度（スキーを借りる人は，別に 7,000円程度必要）
○常用薬品類・安全ピンのついた名札（３個）・洗たくばさみの名札（３個）
○背番号（学校で準備する）

昭和50年度　スキー訓練日程表

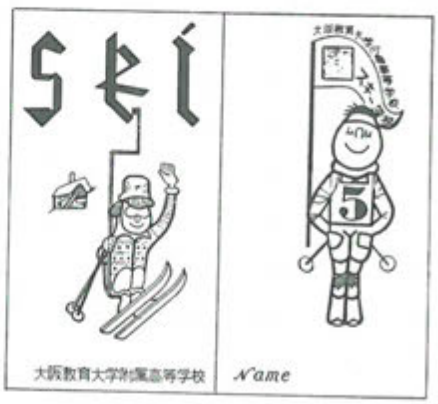
大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎

6日（火）	7日（水）	時間	8日（木）	9日（金）
5日（月） 21時15分 集合 21時46分 大阪駅発 （ちくま2号）				
	〈起　床〉	6：30	〈起　床〉	〈起　床〉
6：28 長野駅着 7：07 長野駅発	〈朝　食〉	7：30	〈朝　食〉	〈朝　食〉
7：46 妙高高原駅着 8：40 赤倉(後楽荘)着	〈集　合〉 （班別） 練　習	9：00	〈集　合〉 （班別） 練　習	〈集　合〉 （班別） 練　習
（仮眠）				
	〈終　り〉	11：30	〈終　り〉	
〈起床，昼食〉	〈昼　食〉	12：30	〈昼　食〉	〈終　り〉
1：00 準備				1：00〈昼食〉
〈集　合〉 （班別） 練　習	〈集　合〉 （班別） 練　習	2：00	〈集　合〉 （班別） 練　習	4：00 〈旅館前集合〉
〈終　り〉	〈終　り〉	5：00	〈終　り〉	5：32 妙高高原駅発
〈夕　食〉	〈夕　食〉	6：00	〈夕　食〉	6：26 長野駅着
自由時間	自由時間		自由時間	自由時間
				10：00 長野駅前集合
〈外出門限〉	〈外出門限〉	9：00	〈外出門限〉	10：40 長野駅発 （ちくま3号）
〈夕　礼〉	〈夕　礼〉	9：30	〈夕　礼〉	
〈消燈就寝〉	〈消燈就寝〉	10：00	〈消燈就寝〉	10日 6：55〈大阪駅着〉 7：00〈解　散〉
安らかにおやすみなさい	明日にそなえてグッスリ眠ろう		最後の晩だ，でも明日があるよ	明後日から楽しい学校がはじまるよ

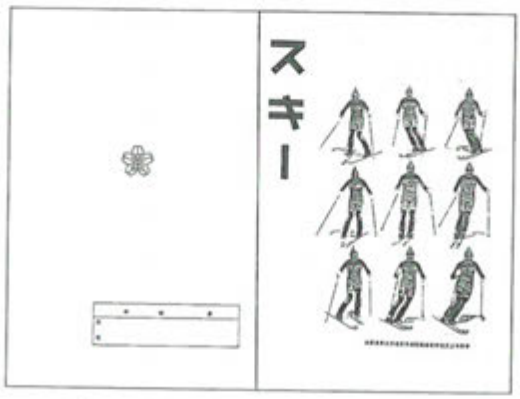
昭和60年度（第30回）スキー訓練 募集要項

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

1　日　　時　　昭和61年1月5日（日）～10日（金）　5泊6日
2　場　　所　　新潟県妙高々原　赤倉温泉スキー場
3　宿　　舎　　〔ホテル後楽荘〕　電話　０２５５８－７－２１２０
　　〔（〒）　949－21　新潟県妙高々原町34－１〕
4　日　　程　　1月5日　　21：10　大阪駅中央コンコース　集合
　　21：43　大阪駅発　乗車列車〔ちくま１号〕
　　1月6日　　5：24　長野駅着　・　5：40　長野駅発
　　6：34　妙高々原駅着　（貸切バスで赤倉へ）
　　午　後
　　1月7日　　午　前　・　午　後
　　1月8日　　午　前　・　午　後　　スキー訓練
　　1月9日　　午　前
　　16：00　「ホテル後楽荘」発（貸切バス）
　　17：40　妙高々原駅発　・　18：23　長野駅着
　　23：26　長野駅発　乗車列車〔ちくま２号〕
　　1月10日　　8：27　大阪駅着　・　8：40　解　散
5　募集学年　　高１・高２　希望者
6　募集人員　　80名
7　費　　用　　39,300円（交通費，宿泊費，等）
8　申込み方法　申込み締切　11月26日（火）
（申込み書に必要事項を記入し，費用を添えて，事務室に申込んで下さい。
但し，申込みは，定員になり次第締切ります。申込み後不参加の場合，連帯負担金として，4,000円徴収しますので，あらかじめ御了承下さい。）
9　携行品・スキー服装等について
★上着……キルティング，アノラック等　★ズボン……スキーズボン
★スキー用手袋　★スキー用くつ下（２足）　★帽子……耳のかくれるもの
★サングラス，ゴーグル　★スキー用具一式（ない者は，現地で借りうる）
★日用品（タオル，洗面用具一式，常備薬，名札のついた洗濯ばさみ）
★メモ帳　★筆記用具　★しおり
★弁当（６日の朝・昼用２食）　★小遣い（食事代，リフト代，おやつ等）
★スキー一式を借りる人は，別に 5,000円程度必要　★ゼッケン（学校で準備）
◎　スキー健康相談日　　11月30日（土）12時40分から保健室で行います。
◎　スキー訓練最終説明会　12月11日（水）テスト終了後



テキスト表紙　　テキスト裏表紙
（昭和40年度～昭和52年度）



テキスト裏表紙　　テキスト表紙
（昭和53年度～昭和60年度）

第30回（昭和60年度）スキー訓練実施要項

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

〔Ⅰ〕実施期日　昭和61年1月5日(日)～10日(金)

〔Ⅱ〕場　　所　新潟県妙高高原町赤倉温泉スキー場

〔Ⅲ〕宿 泊 所　「ホテル後楽荘」
(02558－7－2120)

〔Ⅳ〕日　　程

1月5日(日)　21時10分　大阪駅中央コンコース集合
21時43分　大阪駅発「ちくま1号」

6日(月)　5時24分　長野駅着
5時40分　長野駅発
6時34分　妙高高原駅着
(バスで宿舎へ)
午前中仮眠
2時00分　開講式・スキー訓練

7日(火)
8日(水)　｝スキー訓練

9日(木)　午前中　スキー訓練
16時00分　宿舎発
(バスで妙高高原駅へ)
17時40分　妙高高原駅発
18時23分　長野駅着（自由行動）
23時26分　長野駅発「ちくま2号」

10日(金)　8時27分　大阪駅着
8時40分　大阪駅中央出口前で解散

〔Ⅴ〕引率教官役割

○総責任者　武　田　教務主任
○総　　務　浦久保　教　官
○生徒指導　田　中　教　官
○輸 送 係　風　間　教　官
○宿舎生活係　河　野　教　官
高　木　教　官
柴　山　教　官
○用 具 係　西　浜　教　官
鎌　田　講　師
○救 護 係　体育科　教　官
○技術指導　右記の班別表による。

〔Ⅵ〕班編成表
(男子45名：女子36名：合計81名)

班	指導教官	班長	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	合計
		ゼッケン番号															
1班	田中教官	1 石田敬悟	2 菅幹生	3 古川善郎	4 村上篤矢	5 植田剛司	6 米田英生	⑦ 小川直子	⑧ 小林千恵	⑨ 巽園子	⑩ 乾真有美	⑪ 早石理江子					11名
2班	西浜教官	12 木下裕文	13 柴英隆	14 中井幹晴	15 梁井秀規	16 重栖孝	17 久保達也	18 柴田憲利	19 唐澤聡	20 中津正晴	21 藤山二郎	22 笹田秀幸	23 小谷徹				12名
3班	風間教官	㉔ 木村麻子	㉕ 辻知里	㉖ 上原昌代	㉗ 大嶽香織	㉘ 秦幸子	29 樋谷剛史	30 森田充	31 北田聖路	32 福井章	33 西村昌浩						10名
4班	浦久保教官	㉞ 北村美奈子	㉟ 八木優子	㊱ 菊地真理	㊲ 田中貴子	㊳ 星野理香	㊴ 礪波美和子	㊵ 小坂真理子	㊶ 小西由華	㊷ 藤田亜紀子							9名
5班	鎌田講師	43 貴田理臣	44 竹中敬一	45 仲剛司	46 野村雅彦	47 田中宏和	48 伊川正人	49 杉野章生	50 霜浦正宏	51 太田圭悟	52 竹本伸久	53 井川正行					11名
6班	高木教官	54 冨永大介	55 田中栄次	56 木戸口晋	57 武樋孝明	58 山口直久	59 三谷治夫	60 小川俊博	61 高田雅司	62 藤本佳克	63 川野隆一	64 森川智司					11名
7班	柴山教官	㊸ 植松直子	㊹ 近東亜紀子	㊺ 橋本文子	㊻ 中岡千聡	㊼ 帯谷英子	㊽ 安田真穂	㊾ 小松原昌子	㊿ 大和由希子								8名
8班	河野教官	(51) 粉川範子	(52) 村田法子	(53) 長谷川千晃	(54) 佐々木香織	(55) 岡本純子	(56) 山野文子	(57) 田中尚子	(58) 益澤佳子	(59) 長谷川充子							9名

○印　女子

第30回（昭和60年度）スキー訓練日程表

6日（月）	7日（火）	時間	8日（水）	9日（木）
5日（日） 21：10　大阪駅集合 21：43　大阪駅発 〔ちくま1号〕	〈起床〉	7：00	〈起床〉	〈起床〉
5：24　長野駅着 5：40　長野駅発	〈朝食〉	7：30	〈朝食〉	〈朝食〉
6：34　妙高高原駅着 7：30〔後楽荘〕着 〔貸スキー準備〕	〈集合〉 （班別　集合）	9：00	〈集合〉 （班別　集合）	（荷物・別部屋移動） 9：30　〈集合〉 （班別　集合）
（仮　眠）	練　習		練　習	練　習
	〈終了〉	11：30	〈終了〉	
〈起床・昼食〉	〈昼食〉	12：30	〈昼食〉	
				1：20　〈終了〉 1：30　《閉講式》
〈集合〉 《開講式》 （全体集合）	〈集合〉 （班別　集合）	2：00	〈集合〉 （班別　集合）	1：40　〈昼食〉
練　習	練　習		練　習	整理・整頓
〈終了〉 〈夕食〉	〈終了〉	4：45	〈終了〉	4：00　宿舎出発 4：30　バス停出発
〈夕食〉	〈夕食〉	5：30	〈夕食〉	5：40　妙高駅出発 6：23　長野駅着
自由時間	自由時間		自由時間	自由時間 11：00　集合 11：26　長野駅発 〔ちくま2号〕
〈外出・門限〉	〈外出・門限〉	9：00	〈外出・門限〉	
〈夕礼〉	〈夕礼〉	9：30	〈夕礼〉 荷物整理	10日（金） 8：27　大阪駅着 8：40　解散
〈消燈・就寝〉	〈消燈・就寝〉	10：00	〈消燈・就寝〉	

スキー訓練、指導計画表（昭和50年度～昭和60年度）

日時	級	初　級（初心者）	中　級（経験者・短）	上　級（経験者・長）
第一日（6日）	午後	▲初歩動作 スキーのもち方、おき方 スキーの着脱 ストックの握り方 ころび方、おき方 歩行、踏みかえ 推進滑走 登行 方向変換	▲基本技術 直滑降 伸ばし・プルーク 曲げ・プルーク	▲基本技術 直滑降 プルーク（伸し・曲げ） プルーク・ボーゲン
第二日（7日）	午前	▲基本技術 直滑降 伸ばし・プルーク 曲げ・プルーク	プルーク・ボーゲン 斜滑降 横すべり 山まわり（浅）	斜滑降 横すべり 山まわり（浅） シュテムギルランデ プルーク・ターン
	午後	直滑降＜伸ばしプルーク／曲げプルーク プルーク・ボーゲン（浅）	シュテムギルランデ プルーク・ターン シュテム・ターン 山まわり（深）	シュテム・ターン 山まわり（深） 谷開きターン パラレル・ターン ウェーデルン
第三日（8日）	午前	プルーク・ボーゲン（深） 斜滑降	谷開きターン パラレルターン	▲発展技術 ・ピボット・ターン シュテム・ターン／パラレル・ターン／ウェーデルン ・ジャンプターン ジャンプギルランデ／パラレルターン／ウェーデルン
	午後	プルーク・ボーゲン連続	ウェーデルン	・ステップターン スケーティング／ステップ 不整地滑降 ゲレンデ・シュプルンク
第四日（9日）	午前	既習技術の総合練習	総合滑降 既習技術の総合練習	総合滑降 既習技術の総合練習

成田五穂子・西浜　士朗・平田　達彦・井野口弘治
浦久保寿彦・金藤　行雄・楠本久美子

合宿訓練・修学旅行

§1　合宿訓練

1　中1合宿訓練

60年度も，5月23日（木）～25日（土）に，国立曽爾少年自然の家を中心に曽爾高原で中1合宿訓練が実施された。入学式から1ヶ月半程，まだまだ制服姿も板につかない時期に迎える大きな行事とあって，イメージづくりにかなりの時間が掛けられる。60年度で8回目，附属中学校の歴史の中にあってはまだ新しい行事ということになる。

昭和52年の第1回，31期生の合宿訓練へさかのぼってみると，

目的　　中学生としての自覚を持つ。
　　①友との交わりを深める。
　　②集団生活を通して中学生活の規律を身に付ける。
実施の期間　昭和52年5月23日（月）～5月25日（水）
宿泊場所　　大阪ＹＭＣＡ六甲研修センター
参加者　　第1学年（31期生）生徒　162名（男子102名　女子60名）

というように実施された。学年担当者が発表され，どんな生徒に育てるかの学年準備の話し合いをするなかで，合宿訓練話が持ち上がり，教官会議に提案された。上記の目的にあるような，中学生としての自覚を早い時点で持たせたい。そのためには，中学校というところはこんなところだということを集中的に講話したり，考えさせる時間，場を持つことが望ましいということであった。この年からさかのぼること4年，昭和48年4月に第1学年（27期）から1学級増が認められ，1学年4クラスとなった。4クラス時代に入って，生徒掌握という点で3クラス時代との違いを教官一人一人が感じ始めていた。生徒増に伴い生徒間の交流の様子にも変化が出て来て，1年間共に生活しながらもお互いに未知の部分が多く，名前すら知らないという生徒も出て来た。また以前から附属小学校からの生徒と一般入試によって入学してくる生徒との間のへだたりをうめるのに時間が掛かり過ぎて教官も生徒もかなりの精神的な負担を感じていたことなどもあって，賛同者も多くあった。

一方，高等学校にはすでに合宿訓練が高1に実施されているなかで，中学校にも同じような性格を持つ行事を加えることに異議を申したてる者もあった。賛否両論かわされるなかで，本年1度実施してみよう，次年度以後，続けるということは前提としないということで出発した。ただ，生徒の指導の中核にかかわる行事であるという性格上，目標設定には生徒指導部もかかわった方がよいであろうということを付け加え，実施案についての大方は学年に任される形で決定した。そして出された計画案は次のようなものであった。

〔昭和52年度　中一合宿訓練　計画案（S52・4・26)〕

1．合宿訓練の目的　中学生としての自覚を持たせる。

①望ましい仲間づくりを指向させる。

②集団生活を通して中学生の規律を確立させる。

2．実施の期間　昭和52年5月23日（月）～5月25日（水）

3．集合・解散の時刻と場所

集合：5月23日（月）午前9時　大阪梅田　紀伊国屋書店前

（阪急梅田駅下1階　新阪急ホテル側）

解散：5月25日（水）午後4時30分ごろ　上記同所

4．場所・宿泊所　大阪ＹＭＣＡ六甲研修センター

657-01 神戸市灘区六甲山町北六甲875　℡（078）891-0050

5．費用――1万1千円

交通費	阪　急（4割引）	往復	192円
	ケーブル（4割引）	往復	420円
	計		612円

宿泊費（1泊2食付）	3400円×2＝6800円	施設使用料	600円
昼食費	600円×2＝1200円	予備費	788円

6．日程とコース

時＼日	5/23（月）	5/24（火）	5/25（水）
6		―起　床―	―起　床―
7		朝　礼	朝　礼
		朝　食	朝　食
8		ディスカッション（テーマ……集団行動について）	教官による話
9	―集　合― 阪急梅田駅		
10	阪急六甲駅	野外活動（目的地……）	合宿生活のまとめ（作文・話し会い）
11	六甲ケーブル土橋駅 六甲ケーブル山上駅		
12	昼食（弁当）	昼食（弁当）	昼　食
1	オリエンテーション ねらいの明確化等	○フォークダンス ○歌	清掃整理 ―宿　舎　発― 六甲ケーブル山上駅
2	施設探訪		六甲ケーブル土橋駅 阪急六甲駅
3	グループ活動①（計画・準備）	自由時間	阪急梅田駅
4			―解　散―
5	入浴・整理	入浴・整理	
6	夕　食	夕　食	
7	グループ活動②（発表） ―寸劇等―	学級企画（リクレーション）	
8			
9	夕　礼 就寝準備	夕　礼 就寝準備	
10	―消　灯―	―消　灯―	

計画案についての討議がなされ，集団生活のあり方や時間的な厳しさを教官の手をどこまで出しながら指導するのがよいか，また，基本的な生活習慣を知らないので，食事の仕方や掃除，整理整頓，話し合いのエチケットなどかなりのことを指導する必要があるのではないか，など，中学生としての自覚を持たせるためにという目的が全員の認めることとなった。グループ活動①②，野外活動と多過ぎるのではないか，あるいは少し楽し過ぎる企画ではないかという意見も出され，実施に当たっては直接の指導に当たる学年に任されることとなり，幾つかの修正を加えながらの実施となった。

実施後の報告も次年からどう扱うかのこともあるので，詳細にわたり報告，反省がなされた。施設の面ではホール・研修室など十分であり，食事や入浴も予定の時間内に終えられるだけの余裕があり，まずまずであり，幾つかの活動がスムーズに進行させられた。名前と顔がほぼ覚えられた時点での実施で，友達を知るという目標は十分に達せられた。行動を通して集団を考えたり，行動様式は覚えたが，集団の本質の思考は出来る状態にまで至らなかった。スケジュールの点では，つなぎの時間の設定が無かったことが問題であった。以上のことを受け継ぐべき合宿委員会（辻，藤村，今倉，大仲，乾）が発足した。委員会の仕事としては，目的（不変的・普遍的なもの）——高校との関連，場所の手配，時期，費用等の検討ということであった。委員が分担して，他校（主として附属校）における１年生合宿の実施状況のアンケート，公営施設，寺，休暇村などの資料収集を行う一方，数回の委員会を開き目的の検討を行った。そして，約半年のまとめとして委員会報告がなされ，全教官の賛同を得て，第２回の実施へとスムーズな中１合宿の流れが生まれた。

〔合宿委員会報告〕

合宿委員会報告　　1978．3．7

1．目的　中学生としての自覚を持たせるために次のことを押さえる
　①基本的な生活習慣
　②仲間づくり　（具体的な文章化は学年でする）

2．期日　昭和53年５月22日（月）～５月24日（水）２泊３日

3．場所　和歌山県立白崎少年自然の家
　和歌山県日高郡由良町大字大引961
　TEL．07386－５－２３５１～２

4．参加者　本校中学１年生全員

5．輸送　往路５／22（月）　天王寺　　御　坊 バス→現　地
　10.30 紀州５号→12.09
　復路５／24（木）　現　地　バス→湯浅　　天王寺
　13.18 きのくに５号→ 14.44
　14.56 きのくに８号→ 16.29
　・バスの手配は自然の家に依頼可能（中紀バス）
　湯浅→現地 40人乗1.2万円（1977年12月現在）
　和歌山→現地　４万円（１時間30分）

6．プログラム　下見の結果をもとに学年中心に立案する。

7．下　　見　学年と委員会で期日（１泊２日）を決める。

8．そ　の　他　54年度以降の実施についての下準備は生活指導部でする。

5／25（木）の1年生の授業については学年で検討する。

—合宿委員会下見（12月6日）報告—　　1980.12.16

白崎少年自然の家は，小高い山の中にあって，宿舎の周辺は緑に包まれ，眺望は眼下に海がひらけ，自然環境において申し分なく，干潮時には十九島にわたることも出来，白崎の石灰岩の採掘跡はかなりの広さを持ち，野外活動場所として最適であり，自由に使用出来ることも合宿の好条件の一つとして考えられた。そして32期生の合宿は前年実施のものを参考にし，地の利を生かし，磯観察などを活動に組み入れて実施の運びとなった。

〔中1合宿訓練実施要項（昭和53年度）〕

1．目　的　中学生としての自覚を持つ

基本的な生活習慣を身に付け，仲間をよく知る

2．日　時　昭和52年5月22日（月）～5月24日（水）2泊3日

3．場　所　和歌山県立白崎少年自然の家

和歌山県日高郡由良町大字大引961

TEL（07386）5－2351

4．参加者　第1学年（32期生）全員

5．引率者　副校長他5名

日　程

月 / 時	5月22日(月)	5月23日(火)	5月24日(水)
6		起　床	起　床
7		朝　礼	朝　礼
8		朝　食	朝　食
9		清　掃	清　掃
10	集合 天王寺9:40 天王寺 10:30発 Ⅰ(紀州5号) 御坊 12:09着 Ⅱ(バス) 宿舎 入　所 開会式 オリエンテーション	グループ活動 討議2	整　理 グループ 学　級 全　体（教官）
11		野外活動 ・ハイキング （昼　食） ・フォークダンス ・合　唱 ・ハンドクラフト ・磯観察 etc.	
12			昼　食
13			陣　地 かたづけ
14	体　力　合　せ		帰　路　出　発
15	グループ活動 討議1		昼　食 Ⅱ(バス) 湯浅 14:56発 Ⅰ(きのくに8号) 天王寺 16:29着 解散 天王寺16:45
16		自由時間	
17	タベのつどい	タベのつどい	
18	夕　食 入　浴	夕　食 入　浴	
19			
20	学級企画	キャンプ ファイヤー	
21	夕　礼 就寝準備	夕　礼 就寝準備	
22	就寝・消灯	就寝・消灯	

附近見取図

イ　交通案内

ア　国鉄紀勢本線紀伊由良駅下車

イ　中紀バス小引行終点下車　徒歩3Km

ウ　中紀バス，白崎行バス大引下車　徒歩3.7Km

中1合宿訓練候補地——合宿委員会下見(12月6日)報告——

1980.12.16

施設名称 場　所	宿泊室	研修室 集会室	食堂	風呂		利用人員	交　通	プログラムの自由度	貸切	申し込み	備　考
和歌山県立 白崎少年　自然の家 和歌山県日高郡 由良町大安大引 961−1 Tel. 07386−5−2351	8名×25=200 リーダー室 2名×1 4名×1	研修室 50名×2 100名×1 プレイプラザ	120名	25名 25名	1 きれいさ 2 環境 (活動面) 3 グラウンド	206名	紀勢本線 天王寺ー御坊 100分 バス 御坊ー自然の家 30分			14日前までに	使用料 食費(3食) 救急 御坊
YMCA 六甲研修センター 神戸市灘区 六甲山北六甲875 Tel. 078−891−0050	○8名×13=104 6名×2=12 4名×1=1 和6名×3=18 和14名×1=14 本館15室 和40(建)	○研修室 60名×4 大ホール 160〜200名	○ 160名	△ 25名 15名	1 ○ 2 ○ 3 ○	○本館・別館 192名 (最大235名)	○阪急 梅田ー六甲 バス 阪急六甲ーセンター20 20分	○自由	△	○6ケ月前〜	㊒ 2400円 ㊓ 2300円 救急 六甲20分
国立 曽爾少年　自然の家 奈良県宇陀郡 曽爾村太良路亀山 1170 Tel. 07459−6−2121	♂8名×32=256 4名×8=32	△研修室 150名×1 60名×1 50名×1 オリエンテーション室 120名 プレイホール 200名	○ 200名	○ 60名 60名	1 ○ 2 ○ 3 ○	△ 300名 (最大312名)	△近鉄大阪線 上六ー名張(特)55分 バス(定)430円 名張ー太良路 45分 徒歩3km　22500円 バス(貸切)1台22,500 名張ー自然の家 30分	○朝の集い (入所者全員) ラジオ体操(1) 団体紹介	×	△	利用可能な日 5/6〜16　5/26〜30 5/26〜28(小学生136名) 5/7〜 ✕ ✕ ✕ ✕ ✕ ㊒無料　㊓1200円 救急 名張市
大阪市立 伊賀青少年 野外活動センター 三重県阿山郡 伊賀町霊山地区 Tel. 05954−5−2380	△5名×18=90 和10名×6=60	○研修室 120名 和40名×2 ホール建設中	○ 150名	△ 10名 15名	1 ○ 2 △ 3 ○	○ 150名	△関西線 天王寺ー拓植 95分 バス 拓植ーセンター下 35分 徒歩2km	○朝の集い (時間的なことは自由	○	○60日前 〜7日前	㊒230円 ㊓1250円〜1300円 1250 救急 佐那具25分
奈良県立 青少年 野外活動センター 奈良県山辺郡 都祁村大字吐山2040 Tel. 07438−2−0508	8名×22=176 4名×3=12	研修室 50名×2 集会室 170名 大型ロッヂ 50名	170名	20名 20名		184名	近鉄大阪線 上六ー榛原 バス 榛原ー吐山 20分 徒歩10分	事前指導あり		県内優先	㊒500円 ㊓950円

この白崎少年自然の家での合宿訓練は，33，34期生までの３回を実施した。各期ともに日程は32期生に準じるもので，活動の討議①②は，テーマを人権ということや，中学校生活とはなど小グループ，学級，学年全体というように出来るだけ多くの生徒が意見を出し，友達がどんな考えを持っているのかを知るとてもよい機会となった。現地での討議だけでは深まるだけの時間的余裕がないことから，学校での学活時の事前討論などを重ねて，各生徒が心に十分な準備が持てるよう努めたことでかなりの成果をみたと思われる。また毎年ほぼ同時期の実施ということや，計画がよく検討されたものであることもあってか，施設側のスケジュールへの介入は最小限としていただけたことは合宿を続ける上でとても有難いことであった。しかしながら，施設面で食事，入浴を２班に分けてやらねばならないことによる時間的なことや入浴後すぐの食事，またその逆の健康上のこと，更に，白崎の広場が使用不可能となったことによる野外活動の実施場所など幾つかの問題をかかえ，白崎以上の環境の施設は無いものかということで検討を余儀なくされ，再び合宿委員会（中田，風間，大仲，乾）が発足した。近畿に散在する幾つかの施設を宿泊室，研修室，ホール，食堂，利用人員などの規模の面，プログラムの自由度の面などを資料収集によって検討を重ね，本年までの実施場所を含めて５つのものにしぼり，下見を行った。その結果，国立曽爾少年自然の家が最適であるということで会議に報告がなされた。

昭和56年度，35期生から本年の39期生までの５回をこの地で実施することになった。場所を変えてもプログラムの内容には大きな変化はなく，野外活動が，オリエンテーリング，遠足という形式にとってかわった。曽爾高原の中にあって，宿舎のすぐ裏手に亀山峠から二本ボソ，倶留尊山というハイキングコースも整備され，前方は鎧岳，興岳，屏風岩がのぞめるという自然環境において申し分のない地である。この施設も起床，朝のつどい，夕べのつどい，消灯まで大まかなスケジュールの中で，プログラムの調整は必要となる。

収容人員からいって，単独使用が不可能で，ホール，集会室，宿泊棟，食堂など同宿となる他団体と事前あるいは当日の朝夕に打ち合せをしなければならない。幸い本年まで，いつも運よく譲っていただけたことで，本校のプログラムはほとんど100％の消化率を上げて来た。合宿の目的にどのようなステップをふんでせまって来たのか，又合宿を終えて，学校生活の中で生かされているのかということの一端として，本年，39期生の活動の討論に焦点を当ててみよう。行事前のゆとりの時間や学活，終礼時等を使って準備を進め、生活の見直しをさせた。何が私達の目指す附中生活の中で大切な問題かを行きっ戻りつ話し合いを重ねて，１人でも多くの生徒が意見を出せるようにグループ討論の場を多く持たせた。

〔昭和60年度中学校39期生合宿訓練計画より〕

１．討論の意義　(1)39期生として，よりよい附中生活を過ごすための支柱となる生活目標を考え，今後の生活に生かしていくため。

(2)討論を通じて友の意見をしっかりと聞き，また意見をぶっつけ合うことによってお互に理解し合い，向上していくため。

２．テーマ　『39期生が実践していく生活目標とはどのようなものであるべきか。

――「私たちの生活目標」を創り上げよう――』

3．議長団　・学級企画係　A２名　B　２名　C２名　D２名

（係）　（係長１名　※サポートとして各学級の生活班班長，副班長

4．実施計画

(1)予備討論について

①予備討論Ⅰ　5/10(金)H.R 於小講堂(1:00～1:20)→各教室(1:20～2:10)

司会…学級企画係　　記録…書記

ア　討論の意義・今後の計画の説明(於小講堂，平田教官)　　《20分》

イ．各学級で，39期の目指す理想的な附中生像，附中生活形態について意見を出し合い，クラスとしてまとめてみる。(学級討論の形態……学級全体会)《50分》

ウ．討論終了後，議長団で各学級の意見を検討・整理し，次回の討論の準備を行う。

②予備討論Ⅱ　5/17(金)H.R.　於　各教室(1:20～2:10)

司会…学級企画係，生活班班長　　記録…書記，生活班副班長

ア．前回考えた「39期生の目指す附中生活」と現在の各学級の現状とを比較し，問題点，改善点を挙げる。

イ．各生活班討論《30分》→学級での報告《20分》

ウ．討論の終了後，議長団で各学級の意見を検討・整理し，全体会での報告の準備を行う。

③予備討論Ⅲ　5/20(日)道徳　於小講堂(1:10～2:10)　　《60分》

司会…議長団(学級企画係，係長を中心とする)。書記…議長団

ア．各クラスより学級企画係が予備討論の経過報告を行う。　《40分》

イ．質疑応答ののち，合宿討論の計画，方向性を確認する。　《20分》

(2)合宿討論について

①活動Ⅱ〔学級・グループ討論〕(学級単位)5/23(木)《90分》

司会…学級企画係，班長　　書記…書記，副班長

班別討論《35分》→学級討論《35分》→まとめ《20分》

②活動Ⅳ〔全体討論〕(39期生全体)5/24(金)　《90分》

司会…２名　　書記…２名

学級・グループ討論の報告《40分》→質疑応答・意見交換《30分》

(学級企画係)

→まとめ・「39期生　生活目標」原案作り　《20分》

③活動Ⅴ〔まとめの討論〕(39期生全体)5/25(土)《90分》

司会…２名　　書記…２名

「39期生　生活目標」を決議

現地でのまとめの討論時間ではまとまった生活目標を出すまでに至らず，合宿後学校で，２時間の全体討論の中で下記の生活目標を決議するに至った。

〔39期生　生活目標〕

39期生　生 活 目 標

私達39期生は，仲間として互いに協力し，明るく健康的で充実した附中生活を送るために次のような生活目標を決議する。

1．授業について

(1)忘れものをしない

(2)提出日を守る

(3)人の意見をよく聞き，自分の意見を積極的に言う

2．学年・学級生活について

(1)公共物を大切にする

(2)自分の行動に責任を持つ

(3)けじめをつける

(4)決めたことは守る

3．友人関係について

(1)人には優しく，自分には厳しくする

(2)友達の良いところを見付け，伸ばし，合い悪いところは直し合う

4．清掃について

(1)分担を決め，手際よく掃除する

(2)掃除用具を正しく扱う

5．時間について

(1)集合や登下校の時刻を守る

(2)5分前精神を身に付ける

(3)時間を有効に使う

6．礼儀について

(1)あいさつをきちんとする

(2)その場に応じた態度をとり，正しい言葉づかいをする

＜付加条件＞

39期生全員が今後の附中生活の中で，この『39期生，生活目標』を実践していくために，学級委員を含む4名からなる「生活向上委員」を各学級に置く。

毎日の生活をこの目標にてらし，各生徒が反省すると共に，クラスで今週の重点目標はこれにしようということで呼び掛けている。38期生も合宿において「合宿決議」を出し生活委員を置き，互いに生活を見直す場を持とうとしている。

ところで，合宿訓練を終えて，その反省・評価について，昭和60年度（39期生）は，次のような合宿の目標達成の自己評価をし，反省の資料とした。自己評価の全体傾向と教官側の評価とを，自己評価項目と共に挙げておく。

〔39期生中1合宿訓練〈目標達成度・自己評価〉の項目及び集計結果〕

Ⅰ．合宿訓練の目的の確認

今回の合宿訓練の大きな目的は，「中学生としての自覚を持つ」であった。

その具体的目的として掲げられた3つの項目を書け。

①仲間をよく知る。

②基本的生活習慣を身に付ける。
③39期生としての生活目標を持つ。

	全問正解	2問正解	1問正解	正答なし
人 数	50	53	32	20
%	32	36	20	12

Ⅱ．目標達成度の自己評価

次の各分野の目標について，A（よくできた）・B（普通）・C（あまりできなかった）の記号で自己評価せよ。また，右の余白にその事項に関する自分の感想や反省を書きなさい。

(1)生活面での自己評価

		生徒の評価			教官の評価		
(評価)		A	B	C	A	B	C
①常に時間を意識して遅れずに行動できたか？	人数	66	82	7	0	2	3
	%	43	53	4	0	40	60
②先生，友達や合宿中に出会った人々に気持ちよくあいさつできたか？	人数	61	79	15	1	4	0
	%	39	51	10	20	80	0
③集合したら，私語をやめて列を整え，先生や係の友達に注目できたか？	人数	23	86	46	0	0	5
	%	15	55	30	0	0	100
④各活動に必要なものを忘れずに持参できたか？	人数	130	20	5	2	3	0
	%	84	13	3	40	60	0
⑤室内で自分の荷物の整理やベッドメイキングをきちんとできたか？	人数	72	65	18	0	1	4
	%	46	42	12	0	20	80
⑥部屋や宿泊棟の清掃をすすんで行なったか？	人数	28	95	32	0	4	1
	%	18	61	21	0	80	20
⑦食事では，好き嫌いをせずに残さず食べたか？	人数	51	66	38	1	3	1
	%	33	43	24	20	60	20
⑧食事の後片付けはきちんとできたか？	人数	133	19	3	5	0	0
	%	86	12	2	100	0	0
⑨あとに入る人のことを考えて，正しいマナーで入浴できたか？（タオルを湯につけない・脱衣場をぬらさない・洗面器の片づけ等）	人数	79	62	14	4	1	0
	%	51	40	9	80	20	0
⑩就寝時刻を守り，消燈後は疲れた友達のことを考え，また翌日の活動に備えて静かに休んだか？	人数	31	67	57	1	4	0
	%	20	43	37	20	80	0

(2)オリエンテーリング・遠足での自己評価

		A	B	C		A	B	C
①自然に親しめたか，また自然の厳しさを学べたか？	人数	117	34	4		4	1	0
	%	75	22	3		80	20	0
②自分の出したゴミは残さず持ちかえったか？	人数	128	26	1		3	2	0
	%	82	17	1		60	40	0
③生活班というグループ活動で，分裂せず，まとまって行動できたか？	人数	49	30	76		0	0	5
	%	32	19	49		0	0	100
④地図やシルバーコンパスを，指導された通り有効に活用できたか？	人数	6	49	100		0	0	5
	%	4	32	64		0	0	100
⑤事前指導の時に指示されたポイントを通り，予定通りにもどることができたかか？	人数	17	28	110		0	0	5
	%	11	18	71		0	0	100

(3) 討論（班・学級/全体/まとめの各討論）での自己評価

		A	B	C		A	B	C
①真剣な態度で各討論に参加できたか？	人数	51	90	15		2	3	0
	%	33	57	10		40	60	0
②友達の意見をしっかりと聞けたか？	人数	87	68	1		1	3	1
	%	55	44	1		20	60	20
③討論の要点を整理して行事ノートにメモできたか？	人数	67	78	10		1	4	0
	%	44	50	6		20	80	0
④自分なりの考えを持てたか？	人数	77	66	13		0	4	1
	%	50	42	8		0	80	20
⑤自分の考えを積極的に挙手して発表できたか？	人数	16	19	121		0	2	3
	%	10	12	78		0	40	60

(4) 友人関係での自己評価

		A	B	C		A	B	C
①クラスの友達の名前と顔は完全に覚えたか？	人数	108	48	0		4	1	0
	%	69	31	0		80	20	0
②合宿訓練中に，他のクラスにも友達ができたか？	人数	92	41	22		2	3	0
	%	60	26	14		40	60	0
③合宿訓練を通じて，今まで気付かなかった友達のすばらしい面を発見することができたか？	人数	57	64	34		0	5	0
	%	37	41	22		0	100	0
④友達に迷惑をかけたり，いやな思いをさせずに3日間過ごすことができたか？	人数	47	90	18		1	2	2
	%	30	58	12		20	40	40
⑤友達に対して，何か良いことをしてあげることができたか？（係の仕事も含めて考えてよろしい）	人数	47	74	34		0	3	2
	%	30	48	22		0	60	40

(5) 「まとめ」としての自己評価

		A	B	C		A	B	C
①合宿訓練中「中学生としての自覚」ある行動がとれたか？	人数	12	111	32		0	3	2
	%	8	71	21		0	60	40
②合宿訓練を通じて，自分が今後意識的に努力すべき点を見つけることができたか？	人数	91	55	9		2	2	1
	%	59	35	6		40	40	20
③合宿訓練の成果や反省点をこれからの生活に生かして行こうという強い気持ちを持つことができたか？	人数	93	58	4		1	2	2
	%	60	37	3		20	40	40

Ⅲ．自分にとっての最大の収穫

合宿訓練を通じて学んだことの中で，最も強く印象づけられたことについて書きなさい。

中学校合宿訓練が入学当初の生徒に，中学校生活をどう過ごそうかという決意を持たすためには，意義のある行事として定着し，プログラムも多少の変更はあっても大すじのところは初年度から受け継がれて来てそれなりの効果が認められている。

今後は，本校単独で利用出来るような施設が現在のものに近い条件で得られるならば，また新しい方向が生まれてくる可能性も期待出来る。

2　高１合宿訓練

高校１年生に対して行われてきた合宿訓練は昭和40年度の第10期生に始まる。当時は高校１年生に対して合宿訓練を行っていた学校はほとんどなかったと思う。それが18年後の昭和57年には大阪の府立高校のほぼ半数の67校で，何らかの形で合宿訓練が行われるようになったという記録がある。(府立高等学校「ホームルームの改善・新入生宿泊オリエンテーション，校内研修」推進資料　昭和58年３月　大阪府教育委員会)

もっとも，新入生に対する合宿訓練の内容や，その目的とするところは学校によってかなり違ってはいるようであるが，教育界の流れの中で本校の合宿訓練がその先導的な役割を果たしたことを否定することは出来ないであろう。

この10年間合宿訓練行事についてみると，合宿地の変更以外はほとんど大きな変化は無いので研究集録第18集（P. 136～P. 153）の合宿訓練の項と重なる部分もあるが，本校の合宿訓練の目的，合宿地の変遷と今年度の合宿の記録をまとめておく。

(1)　合宿訓練の目的

「自分で責任を持って考え，判断し，行動する」ということは言うのは易しいが，大変に難しいことである。このことはある年令から一挙に出来るようになるというものでないことは当然のことであるし，どの程度出来るかという個人差も大きくある。それにしても最近の新入生をみているとその自主性の足りなさが目立つようになったということが教官の間でよく話題になった。自主性のある生徒に対しては特に本校の教育方針が適しているが，それが無い生徒にとってよい結果は期待しにくい。高校には「これこれをしてはいけない」という規則はほとんど無い。一方で，中学校までのように教師から「このようにやりなさい」という指示を受けることも少くなる。その

ことは，自分が責任を持って積極的にやっていけば好きなように出来る自由さがあることでもある。そのような高校に入学した生徒にとっては，自分は高校生になったんだ，何事にも自主性を発揮して当たっていかなければならないんだという自覚がより必要になる。教師にとっては，自主性についてあまりにも差のある生徒の個人個人をよく把握しておかなければ適切な対応も出来ないし，放任主義と同じになる危険がある。また，高校に入学した早い時期にはやる気も持たせやすいし，高校生になったという節目から自主性を強調して伸ばそうとすることが大切であるという考え方が底辺にあって，この合宿訓練の企画が生まれて来た。

昭和40年３月２日の教官会議に「新入生に対する集団生活指導に関する件」として，発想が述べられ，趣旨の中で合宿訓練が提案されることになった。

（発想）補導に関する教官会議における話し合いに基づいて

1．正しい意味での自主的な生活態度を養うことが必要

2．生徒をもっとよく知らねばならぬ

3．生徒としての立場を正しく理解させ向上への意欲を育てることが大切

（趣旨）以上話し合われたことを具体化するため

1．生活を共にすることにより担任教官が生徒をより積極的に把握し

2．生徒自身も己を知り友人・教官をより深く理解し高校生として集団生活のあり方を学び向上のきっかけをつかむため，合宿生活をさせたい。

このような発想・趣旨に基づいて立案された初回の合宿訓練の生徒や保護者に対する説明のとき，その目的が次のようにまとめられた。

（目的）

a．高校生活を「個人の自主性と責任感に基づいた集団生活」として把握し，合宿訓練によってこの立場を実践的に認識させる。

b．共同生活を通じて生徒相互の理解を深め，また，教官との触れ合いを密にする。

第２回目の合宿訓練実施要項のプリントからは，これら２つの目的ａ，ｂの最後にそれぞれ次のような簡潔な言葉が付けられた。

a．（自主と責任）

b．（ヒューマン・リレーション）

第２回目以来この２つの目的はほとんど字句を変えることなく，合宿訓練実施要項の冒頭を飾っている。ただし，第11回からはこれら２つの目的ａ，ｂに第３の目的ｃが付け加わった。目的ｃの内容は11，12，14，15回と順に次のように変わり現在に至っている。

（11回）　集団生活を通じて，基本的生活習慣を身に付けさせる。（基本的生活習慣）

（12回）　討論や生活を通じ，各自の既成観念を捨てて全てを新鮮な目で見つめ直し，新しい学校生活をスタートさせる。

（14回）　討論や生活のなかで全てを新鮮な目で見つめ直し，新しい学校生活の出発にする。

(15回)　討論や生活のなかで全てを見つめ直し，新しい学校生活の出発にする。(新鮮な気持)

これらの3項目a，b，cが現在も合宿訓練の目的として続いている。

この3つの幅のある目的に関連して，合宿訓練の経験を通して出てきた具体的，直接的なねらいを拾い上げてみると次のようなものになるであろう。

1．一般入学生と連絡進学生との融和。
2．友を深く知る。
3．深く討論することの重要性と楽しさを体験する。
4．自分の将来を真剣に考え，高校生活の抱負を固める。
5．偉大な自然に接しながら，人間性を豊かにする。
6．教官を身近な存在と感じられるようになる。
7．リーダーシップを養成する。
8．自分達で計画・実行していくことの難しさを体験する。
9．集団生活の中で規則の必要性と限界性を考えてみる。
10．教官の側が，生徒の実態をよく把握する。

(2)　合宿訓練地の変遷とその理由

＜白馬＞　第1，2，3，4，8回(第10，11，12，13，17期生)
長野県北安曇郡白馬村切久保
岳園荘，切久保館(雷鳥荘)，さす正館，久寿利屋，駒草荘，(宮田荘)

＜吉野＞　第5，6，7回（第14，15，16期生)
和歌山県吉野郡吉野町吉野山
東南院，喜蔵院

＜能勢＞　第9，11，12，13回(第18，20，21，22期生)
大阪府豊能郡能勢町宿野北摂高原
大阪府綜合青少年野外活動センター

＜都祁＞　第10回(第19期生)
奈良県山辺郡都祁村大字吐山2040番地
奈良県立青少年野外活動センター

＜鉢伏＞　第14，15，16，17，18，19回（第23，24，25，26，27，28期生)
兵庫県養父郡関宮町鉢高原
白樺館，青い鳥，角野山荘，谷常(15，16，17，18回)，やまなみ(15，16回)
かわらや(17，19回)，グリーンロッジ（18回)
やまとよ，ヴィ銀嶺，大福山荘，山水館(19回)

＜ハチ北＞　第20，21回（第29，30期生)
兵庫県美方郡村岡町大笹ハチ北高原
マセンジョー，あさひ，青い鳥，まつみや，野間

第1回の合宿訓練が終って，第2回目の候補地として，近江八幡国民休暇村，御在所山ユース・ホステル，富士山麓国立中央青年の家，蛭ヶ野高原，蒜山高原の実地調査がなされたが，綜合的にみて白馬に劣るということで，ここに4回続くことになる。

①白馬での合宿を中止した理由

- 物価，運賃の高騰により合宿費用が高くなって来た。
- 白馬が次第に観光地化して来た。
- 本校の合宿時期に同地へ他の修学旅行団が入ることになった。
- 往きの夜行列車で疲労が残る。
- 往復に時間が掛かり過ぎる（20時間以上）。

上のような点から，昭和43年に乗鞍高原，吉野山，能勢が実地調査された。その結果，乗鞍，能勢は施設の規模，規制，交通費の面で吉野に劣り，吉野は自然環境としてもよいということで，第5，6，7回と吉野で実施された。第7回の合宿終了後に参加生徒の中から赤痢疑似患者の集団発生事件が起こったため，第8回の合宿はとりあえず白馬へ戻すことになった。吉野が中止になった直接の原因はこの事件であったのであるが，実施した経験に基づいて，次のような不満が出ていた。

② 吉野での合宿を中止した理由

- 広場が狭くて少ない。
- 観光地のにおいが強過ぎる。
- 自然環境に感動の要素がない。
- 両宿舎（数百米離れた宿坊に分宿）が少し離れ過ぎていて不便。
- 遅くまで話す生徒がいて，教官が寺に対して気を遣う。

第9回目からの合宿地として，第8回の時に踏み切れなかった能勢と，新たに木曽の御岳の実地調査（浅野・田原）をした。これと白馬を併せて検討した結果，能勢に移ることになった。

③ 白馬を中止，能勢に変更する理由

白馬
- お客さん的になって，生活の細部にまでわたる自主的生活を行うに不十分。
- レジャー化していて，それに注意を奪われ，自主的活動の妨げになる。

能勢
- クラス活動にふさわしい施設，白馬と違った自然環境。
- 2つの区域を独占出来る。各ロッジに分かれるのでグループ活動にふさわしい。
- 費用が少くてすむ。
- 心配していた指導員の干渉はなく，合宿の運営に支障をきたすことはない。
- 生徒の管理はしにくくなるが，反面，積極的に生徒に接触する姿勢が教官に要求される。

第10回だけが奈良県立青少年野外活動センターに移ったのは能勢の同施設で食中毒が発生したため，水道施設改良工事で使用不可となったための臨時的な変更である。

④ 能勢で合宿を中止した理由

- 本校の希望する時期に施設を確保することが難しい。
- ロッジ形式の宿舎が閉鎖的で困る。一つ屋根の下で宿泊し，管理せずに掌握したい。
- センターの規則，指導員に気を遣う。
- ロッジは10名単位であるが，これは討論するための単位としては多過ぎる。
- 教官側が話し合う（畳の）部屋がない。

・上下のサイトに二分されてしまう。

・もう少し雄大な自然が欲しい。

能勢が利用しにくいということで，次の合宿地が求められていた。この頃，近畿のスキー場では冬と夏は客があるが春秋は客がなく，ほとんど自由に利用できる状態であることが分かり，神鍋・万場・氷の山・鉢伏・ハチ北の実地調査（田原，浦久保）を行った。この報告を受けて，昭和52年11月19・20日と生徒指導部中心（網・田原・浦久保・浅野・東元・石見・横田）に下見を兼ねて鉢伏高原に合宿し，新しい合宿の姿を求めて討論をした。19日はほとんど夜を徹して，合宿の目的，昔の生徒と現在の生徒の実態の変化，教師の姿勢等について話し合った。そんな議論の中から，宿舎を５つに分けることが非常に大切なことであるという結論に至った。これも参考になると思うので，ここに短く記録しておく。

「合宿の目的は各人が自分を取り繕っていたのでは決して達せられない。各個人が裸になってこそ，その目的の効果を上げることが可能なのである。寝食を共にする合宿はそれが各自の姿を赤裸々にするのに最も有効な形態だからこそするのである。生徒が自己を曝け出さなければならないのなら，その生徒に接する担任も自己の人間性を率直に出してぶつかり合わなければならないのは当然であろう。その際，隣の担任と一緒では，歩調を揃えたり，気を遣ったりする場面が多く，教師的になりやすい。従って，各担任が自分の個性を十分発揮しながらこの行事を行っていくためにはどうしても学級毎に分宿することが必要である。しかし，女子は少数でもあり男女の問題もあるので宿舎を一つ別にまとめ，活動の時点で各クラスに帰る形式がよい。」

⑤　鉢伏で合宿を中止した理由

・本校の希望する日の確保が難しくなった。（大きな定員の宿舎にもかかわらず，５つに分宿する形態）

・鉢伏に合宿に来る学校が増加し，高原で他校生と一緒になってしまう。

鉢伏にもあまり歓迎されなくなり，新しくマキノ・箱館山・伊吹（琢磨・田中），神鍋・ハチ北（田中・田原），洞川（網・浦久保・田原）を実地調査した。その結果に基づいて現在はハチ北で合宿訓練が続いている。

(3)　合宿訓練の記録――第21回（昭和60年度）

①高１（第30期生）合宿訓練実施要項

１．目　　的　(1)高校生活を「個人の自主性と責任感に基づいた集団生活」として把握し，合宿訓練によってこの立場を認識する。（自主と責任）

(2)共同生活を通じて生徒相互の理解を深め，また教官との触れ合いを密にする。（ヒューマン・リレイション）

(3)討論や生活の中で全てを見つめ直し，新しい学校生活の出発にする。（新鮮な気持）

２．日　　時　出発　５月８日（水）８時30分　学校集合　９時出発

帰着　５月11日（土）13時　現地出発　17時30分頃学校帰着　解散

３．引率教官　下村校舎主任　桜井副校長

生徒指導部　　千種　田原

学　　年　越智　河野　高木　柴山　井畑

4．宿　　舎　兵庫県美方郡村岡町大笹　ハチ北高原

マセンジョー　田渕　薫　女子全員　合宿訓練本部　℡ 07969-6-0236

ロッジあさひ　西村　栄三　1A男子　℡ 07969-6-0245

ロッジ青い鳥　西村　徹　1B男子　℡ 07969-6-0605

ロッジまつみや西村　利一　1C男子　℡ 07969-6-0303

ロッジ野間　田渕　登久代1D男子　℡ 07969-6-0718

5．持　　物　往復は制服制帽，山歩きの出来る服装，靴（山歩き用を含めて2足あると便利），雨具，着替え（下着），防寒着（セーター類），水筒，ナップザック，軍手，洗面具，筆記用具，懐中電燈，食器（皿・スプーン），各自に必要な医薬品，弁当（8日の昼食），指定図書

6．費　　用　18,000円

7．現地での日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5／8（水）			集合	出発	←バス—		—徒歩→		昼食	入舎式	H.R.	入浴	夕食	討論			夕礼 就寝
5／9（木）	起床	洗面清掃	朝礼	朝食	討論		山歩き（弁当）					入浴	夕食	討論			夕礼 就寝
5／10（金）	起床	洗面清掃	朝礼	朝食	討論		飯盒炊さん			討論		入浴	夕食	生徒行事			夕礼 就寝
5／11（土）	起床	洗面清掃	朝礼	朝食	H.R.		昼食	宿舎整理 退舎式	出発	←徒歩—バス→		学校着	解散				

② 第21回高1合宿訓練の経過

4月5～6日　下見（田原，柴山，井畑）

4月10日　始業式，合宿委員選出，学年担任打ち合わせ。

4月13日　第1回合宿委員会（合宿委員長選出），以後計7回持つ。

4月18日　指定図書選定（岩波新書「私の読書」）

4月19日　学年と生活指導部合同会議（合宿の原案決定）

4月23日　教官会議に合宿の実施要項を付けて提案，承認。

4月26日　高1生徒全員に対し，オリエンテーションで合宿訓練の説明。

5月8～11日　合宿実施，2日目と3日目の昼の行事入れ替え，参加者183名欠席なし。

5月13日　　生徒全員に感想文を書かせる。
6月7日　　高1学年担任での反省会。
6月14日　　高1学年担任と生活指導部合同の反省会。

③ 生徒の合宿訓練の係

合宿委員（合宿全般にわたり企画，決定，合宿訓練の栞も作成（各組男女1名選出）
食 事 係（食事に関する世話，進行，指示，各組男女各1名）
入 浴 係（入浴割当，進行，各組男女各1名）
遺失物係（遺失物の保管，返却，各組男女各1名）
体 操 係（朝礼時にラジオ体操を指揮，各組男女各1名）
写 真 係（合宿中のスナップ，記念写真を撮る。各組1～2名）
歌 集 係（歌集の作成，希望者，結果は1名のみ）

④ 下見で留意した点

- 全員の集合出来る場所（雨天時と晴天時）
- 5月初めの泊まり客の有無
- 食事の程度と5宿舎の統一
- 山歩きのコース，所要時間，案内の有無
- 費　用
- 最寄りの医療機関の場所，時間，科
- キャンプファイヤー，飯盒炊さんの場所，必要なものの有無
- 5月初めの現地の気温
- 危険な場所の有無

⑤ 合宿委員会（計7回の主な内容）

- 合宿委員に目的の説明をし，日程案の中の生徒行事の企画，討論テーマを考えるよう指示
- 各クラスの合宿委員はアンケートによって討論テーマと生徒行事の内容を決定
- 討論班の編成
- 部屋割の編成
- 栞の作成
- 合宿生活上の指示（宿舎のテレビ，自動販売器の使用禁止，他は特別な禁止事項なし）

⑥ 討論テーマ

- 将来についてどう考えているか。
- 現在どのようにしているか。（勉強，クラブ）
- 愛。
- 今後どのようにすべきか。

上の4つを日程の4回の討論の中で話し合う予定とする。

⑦ 生徒行事

学年全体の行事としてはオリエンテーリングとフォークダンスを計画，クラス単位のものでは，クラスで10名程度の係を決めて，室内ゲームや肝だめしをやると決まる。

⑧ 反省会のまとめ

・討論

班によって差が大きく，討論になった班と雑談に終わってしまった班もある。討論のテーマは話しやすいものなので，内容が深いとはいえないが，「自分をさらけ出した」，「相手がよく分かった」などという感想がある。中学時代は討論をしたことが無かった者が多いので，討論時間を２時間半位にし，回数も現在の４回より多くとり，６～７人の班編成で，メンバーを変化させずにじっくりと話をさせたい。指定図書は利用出来た班もある。

・飯盒炊さん

第２日目，第３日目とも晴れる予報なので，飯盒炊さんを先に行う方が討論がしやすくなるだろうということで，プログラムを入れ替えて実行。結果はあまり効果は感じられず。一般入学生に対しては効果があったようだ。この行事は無くてもよかったと思う。

・オリエンテーリング

７つのコースを作り，それぞれに３つのメッセージ（なぞなぞ）を並べ，最後にゴールに到達するように合宿委員が作った。この準備に委員が多くの時間をとられた。これをやるなら山歩きと結び付けて実行出来そう。その場合，教官が準備する方がよい。当日ポイントを真面目に辿らなかった班がみられた。

・フォーク・ダンス

中学時代にあまりやったことがなく，うまく出来なかったようだ。

・山歩き

鉢伏山を登るだけなので，昼食を含めて３時間で歩けるコース，登らなかった者７名。

・クラス行事

各クラスとも活発で大いに楽しんでいた。

・まとめ

全体的にみると，遊びが多過ぎた感があり，もう少し，しまりのある合宿でありたい。担任としては，生徒の実態の観察がよく出来た。30期生はおとなしいが，子供っぽさが強く，大変よくしゃべる。キャンプ・ファイヤーが今年は簡単に無くなったのは問題だという意見があった。合宿の日程と場所については今年について特に問題は無かった。

(4) むすび

合宿訓練の難しさはいろいろあるが，経験的に言えば次の点が特に難しいように思う。一つは教師と個人の立場の難しさ，もう一つは自主性を付ける方法の難しさである。前者では教師も一人の人間として対等の立場で話し合い，触れ合う必要があり，一方では指導する立場に立たなければならない。後者は自主性というものが一朝一夕にして効果を現すものでもなく，誰にも同じ方法で効果が出るものでもないものなので，正直言って，どう指導するのがよいのか分からないというほどに難しいことになる。

しかしながら，これまでの合宿の中で，合宿の目的に応えてくれたという感触の得られた生徒もかなりいたことは事実である。次の一人の感想文を借りて，この合宿の項のむす

びとしたい。

〔合宿の思い出〕

ごくありきたりの言葉でしか言えないけれど本当に私にとって強烈な思い出を残してくれたものだった。行く前，心ははずんでいたけれど，たいした期待をしてなかったのも，今から考えればすごく不思議に思う。

討論――今まで，こんなにマジメで，こんなに楽しく，考えさせてくれたものは無かった。決めてた議題から，何べんも何べんも横道にそれながら，話は発展していった。学校では恥ずかしくてなかなか言い出せなかったことも，あそこでは，素直に口に出すことが出来た。男女が合同で，今まで知らない子同志でグループを作ったことも成功の一つだったと思う。男子の考え方は，すごくさっぱりしてて現実的だと感じた。外部から入って来た子から見た内部生のとらえ方を聞いた時は，すごく心が動いた。今まで九年間，附小，附中という階段を登って来た私自身，今まで考えたことのなかった言葉が，次々胸にささった。歯がゆく，痛い所を突かれたという感じで，すごくとまどってしまった。

「附中生は，エリート意識が強過ぎる。ある程度以上の〝はめ〟をはずそうとしない。環境的に恵まれた子が，そういう目で世の中を見てるので何も分かっていない。」

すごく的を突いてると思った。なぜか，すごく悲しかった。それを目の前で言っている自分と同じ年の友達が，メッチャこわく見えた。

自分が歩いてきた生活は，いったい何だったんだろう。すごく考えた。今でもちゃんとした答えは出ていない。でも，附小・附中と歩んだ（他の人から甘いと見られる生活）を決して後悔していない。私は，私なりにいっしょうけんめい生きて来たから。

その他，人と人との付き合い方，男女が付き合うということ，今の私たちの生活，初恋の思い出，生きるということ，運命とは何か，ハンス（車輪の下）の生き方をどう思うか――今まで話したことのない，(いや，話したかったけど，話せなかった色々なこと)をいっしょうけんめい話したことは，すごくうれしく，悲しく，楽しかった。

そして。実際，本当に友達をもう一度考え直すことが出来た（まだまだ，ほんの少しだと思うけど……）と思っている。みんな，私に比べたら，本当にしっかりした意見を持ってるなぁとも思った。将来のことだって，今この高校へ通っているということについても。

色々な面で，本当に本当に，この合宿は，私を目覚めさせてくれたと思う。そして（負けずぎらいな私ですので……）みんなと同程度になれるよう，もっと物事を真剣に責任持って考えられるよう，いっぱい色んなことを経験したいと思う。

本当にためになった4日間だった。

3　附高ふるさと村（和歌山県周参見町上戸川地区）

昭和47年（1972年）7月，通称「上戸川合宿所」は始まった。それ以来5年間，17期生，18期生，19期生，20期生，21期生たちによって，春休み，夏休み，冬休みの長期休暇を利用して，クラス合宿，クラブ合宿，同好有志合宿などで使用されて来たが，昭和52年3月をもって，上戸川合宿所の幕を下ろさなければならないことになった。周参見町と寝屋川市との姉妹都市契約が成立し，附高に代わって寝屋川市が使用することになったのである。突然のことでもあり，誠に残念であったが，致し方の無いことであった。

開設以来５年間が経過し，当初に考えられたこの合宿所の理念・理想が，生徒達の利用状態の中から風化し初め，もう一度，初心に立ち返って考え直してみるべきであるという反省が求められた時期のことであった。

合宿所の後片付けと周参町役場への挨拶のため，浦久保，田原，卒業生の鈴木，奥村(19期生)の４人が周参見町を訪れ，「上戸川合宿所」での最後の一夜を過ごすことになった。５年間お世話になった堀さんや山本さんたちも集まってくれて，附高の先生や生徒たちを懐かしく語ってくれたことを，早や９年が過ぎ去った今，ある愛惜の念をもって思い出さざるを得ない。

以下に，昭和51年10月，金沢で行われた全附連での発表「上戸川合宿所での合宿活動について」を参照して，要点を以下に記しておくことにしたい。

(1) 上戸川合宿所の成立経過

毎年５月の初旬，新高１に対して行われる学年合宿において，この合宿に持たれている目的・夢などが場所的な問題で充分満足出来ない状態になっていた折，和歌山県下の過疎地域で廃村や廃校を「ふるさと村」と名付けて，都市との提携による利用を考えているという情報に接し，昭和47年５月４日，横田の運転する車で，浅野と田原が和歌山県庁を訪れ，その概要の説明を受けて現地調査を行うことから始まった。その結果，周参町上戸川地区にある廃校「上戸川小学校」が新高１の学年合宿の場所として考えられることになった。

しかし，200名を擁する学年合宿の場所としては，食事のこと，寝具のこと，風呂のことなど困難な問題が多くあり，その問題を解決するためには相当額の費用が必要となってくることなどもあって，結局は，学年合宿の場所として取り上げられることにはならなかった。しかし，白馬のような雄大さはないにしても，まさに都会と隔絶した谷の深い奥山の閑静な美しさ，地域の人たちの素朴な温かさ，大阪からの交通の便などが考慮され，40～50人程度の人数で使用可能な合宿所にすることが，教官会議で承認された。そして，当時の補導部長であった久島が中心となって，周参見と折衝を行い，昭和47年７月１日，周参見町長　有田良二氏と大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎校舎主任　斉藤洋との間に「ふるさと村使用契約書」が取り交わされ，正式に附高の「上戸川合宿所」が成立した。

(2) 合宿所として使用するために考えられたこと

この合宿所が成立する頃，授業における意欲のなさ，活気のなさ，夢や理想のなさ，責任感のなさ，自主性，協調性，連帯感のなさ，リーダーシップのなさなど生徒の現状についてよくボヤかれていた。そのような生徒の状況は，同時にまた教師の側にも重なり合ってくるところのものでもあった。教師の指導性の重要さが言われ，そのためには教師がもっと生徒の中に入り，生徒の実体をよく知ることの必要性が言われた。上戸川合宿所の合宿活動にそのような問題意識を含ませて考えられたことも当然のことであった。当初，この合宿活動に４つのことが考えられ，期待されていた。

(A) 人間の手の加わっていない素朴な美しい自然に接したり，その地域の人々の都会にはない生活様態を知ることにより，これまでとは異った角度から新たに自分や自分の周囲を見つめたり，社会に目を向けたり，自然のよさを知り自然を大切

にする心遣いを持てる契機が生まれる。

(B) 上戸川合宿所の不便さのため，上戸川での合宿生活は生徒達にとって未体験の仕事がある。食事の準備・後片付けはすべて自分達でしなければならない。献立，買出し，カマによる飯炊き，タキギ集め，残飯の処理，食器の用意など。付近には店屋は無いので必要なものはすべて8㎞離れた町まで買い出しに行かなければならない。長く泊まれば泊まる程，食事だけでも，その準備と後仕末は大変なものである。観光地など宿泊施設のある所なら，自分の好きなことだけに目を向けておけばよいであろうが，ここではそういう訳にはゆかない。このようななかでの合宿活動は，計画性が要求され，リーダーシップ，協調性などが必須の要件となる。また，きれいごとだけでは済まなくなってくるので，本物の個人が露呈し，厳しい衝突も起こってくることも予想される。これらのことを通じてお互いに鍛え合うことが出来る可能性が大いにある。

(C) 肉体的労働活動をすること。上戸川地区で農作業を手伝うことや休耕田を借りて自分で何か作物を育てることを考える。

(D) 合宿活動での教師の役割はどのようなものになるのだろうか。寝食を共にした生活合宿では人間個人としての密な接触が，いやが上にも生まれてくる。一人の人間としてのありかたの方がより多く問題となるこのような合宿生活では，学校における先生と生徒という関係だけでは対応出来ないものがあるから，かなりやっかいでしんどいこともあるだろうが，そこに教師の具体的な指導性を発揮する場面があるとも言えるであろう。上戸川合宿所での合宿活動は，教師の生徒に対する積極的な指導の姿勢を基礎にした上に成り立たせるのだとも言える。このことは非常に重要なことであるが，同時に危具の持たれることでもある。

(3) 上戸川合宿所の利用

上戸川合宿所を生徒が利用出来るのは，夏休み，冬休み，春休みの長期休暇時に限られることになる。利用形態は，クラス合宿，クラブ合宿，同好有志の合宿という形で行われている。その他，卒業生の使用も幾つかあった。

クラス合宿	夏　19クラス	冬　1クラス	春　23クラス
クラブ合宿	夏　8クラブ	冬　0クラブ	春　14クラブ
有志　合宿	夏　10団体	冬　5団体	春　6団体

クラス合宿合計43クラスで1105人が利用。クラブ合宿合計20クラブで198人。有志合宿合計21団体224人。利用者延べ1578人であった。

以下の5年間の年度別利用状況を表にまとめておく。

		夏休み			冬休み			春休み			合計人数
		団体数	人数	合計人数	団体数	人数	合計人数	団体数	人数	合計人数	
47年度	クラス	0			0			2	51		
	クラブ	2	26	26	0		7	4	37	101	134
	有志	0			1	7		1	13		
48年度	クラス	5	172		0			2	54		
	クラブ	0		190	0		5	4	54	99	294
	有志	1	18		1	5		0			
49年度	クラス	6	163		1	26		5	136		
	クラブ	1	12	194	0		34	2	23	177	405
	有志	1	21		1	8		2	18		
50年度	クラス	5	146		0			9	183		
	クラブ	1	7	196	0		3	2	23	221	420
	有志	3	43		1	3		1	15		
51年度	クラス	3	43		0			5	131		
	クラブ	4	51	135	0		6	2	27	184	325
	有志	5	44		1	6		2	26		
合計		37	741		5	55		43	782		1,578

(4) まとめ

最後に，クラス合宿の場合の１事例を示してまとめにする。

昭和47年度春休み　高１（17期生）

- 合宿の目的　①共同生活を営むことによって責任を感じ，やり遂げる喜びを感じる。
  ②このクラスの一年間を振り返っていろいろ考える。
- 参加人数35人，付添教官２人，２泊３日（３月21日～３月23日）
- 費用（１人当り）約2,300円
- 日課表

6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		天王寺発　周参見着			買い物	徒歩	上戸川着			夕食準備・夕食				話し合い			就寝
起床	朝食		レクレーション			昼食	ハイキング			夕食準備・夕食				話し合い			就寝
起床	朝食		自由		後片付け	上戸川発 徒歩	周参見発					解散					

- ３月22日　食事献立

朝食……飯，インスタントみそ汁，各自のかんづめ

昼食……パン（バター，ジャム），紅茶，ソーセージ・チーズ

夕食……炊き込みごはん，おすいもの

この時の生徒の感想文で次のように書かれている。「集団における個人を考えてみ

る，という目標を揚げて，個人としてもそれぞれ何か期待してやって来た。スケジュールで最も長く時間をとった討論は，誰かがしゃべっている間より沈黙の方が長いときもあったが，２日目の夜，つまり最後の夜のこのクラスとして顔を合わせて話をするのも今日限りという時，話題としては何となくまとまりがなかった。というよりいつもと違った難しいことのように思われた。話す人も大体決まっていたが，それでも普段は何も言わない人も口をはさんでいたし，一つの意見に対して激しいやりとりがあった。内容はどうであれ大変よかったと思うのである。

食事の用意などで結局やるのは女子とほんの一部の男子であるが，それが当たり前としても，今は共同生活をしているのだから少し考えなければならないと思う。何人かが集まって来るんじゃなくて，このクラス１クラスという単位で，しかも２泊３日という合宿をするということは，計画することも実行することも実に大変なことである。計画を進めていく途中で様々な問題，単に金銭的，時間的なことだけでなく，個人の心，精神的なことまではとても手に負えないという問題があって，同じ年代の人がその集団を率いて行くことの難しさがよく解かったと思う。最初の夜，消燈時間後は絶対に寝ると決めていたのに責任者自身がその後集まって遅くまで起きていたという事態も起こった（討論がうまくいかなかったので責任者が集まって遅くまで話し合ったらしい）。その事に対する皆んなの意見を聞いたり，また討論中の話を聞いたりしていると，いろいろと失敗を思い知らされ，悔いは残ったけれど，この合宿中皆んなが何か得たと思うのである。とにかくこんなことが書きたくなったのである」

研究発表冊子のしめくくりとして，発表者は，５年を経過した時点で，生徒の使用の仕方，合宿そのものに対する生徒の考え方，教官の指導性に強い疑問を投げ掛け，上戸川合宿所における合宿活動の継続に否定的な見解を示している。しかし，「上戸川合宿所はどのような使い方をしても，それを使ったものを悪くさせることは決してない」と結ばれており，教官一人一人が日々心を新たにして，よいものを求めて事にのぞむ以外にないということになるだろう。

§２　修学旅行

１　中３修学旅行

中学校の修学旅行は第24期（昭和47年度）以来，乗鞍を中心とする基地方式となり，一度も欠ける事なく現在に至っている。修学旅行の出発点は「自然に親しみ，かつ自然から学びとろう」・「よりよい集団生活を体験しよう」ということであり，毎年，修学旅行の目的を教官・生徒と共に考え，手づくりの修学旅行を目指し，現在に至っている。以下，第28期生（昭和51年度）から第37期生（昭和60年度）の10年間を概観する。

(1)第28期生から第37期生の修学旅行の活動内容

次に第28期生と第37期生の修学旅行日程を比較してみたい。

〔第28期生の修学旅行日程（昭和51年５月31日～６月５日）〕

日＼時	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5／31(月)			集合 50 大阪発 30	名古屋（しなの５号）					25 松本駅 45	乗鞍高原 20		整理・入浴	夕食 30	移動	自由 30	夕礼	就寝 消灯
6／1(火)	起床	朝礼 30	朝食 30	準備	飯ごう炊さん（一の瀬野営場）		後始末 30	野外活動(1)（テーマ活動）				整理・入浴	夕食 30	学級企画（主人紹介）		夕礼	就寝 消灯
6／2(水)	起床	朝礼 30	朝食 30	準備 30	野外活動(2)（テーマ活動）			植林作業				整理・入浴	夕食 30	キャンプ・ファイアー	30	夕礼	就寝 消灯
6／3(木)	起床	朝礼 30	朝食 30	準備 30	指定野外活動		昼食 30	野外活動(3)（テーマ活動）				整理・入浴	夕食 30	夕自由時間食		夕礼	就寝 消灯
6／4(金)	起床	朝礼 30	朝食 30	出発準備 上高地	バス → 上高地	野外活動					30	整理・入浴	夕食 30	自由時間		夕礼	就寝 消灯
6／5(土)	起床	朝礼 30	朝食 30	準備 30 出発	バス → 松本	→ 松本 昼食			松本発 51	（しなの３号）	名古屋 49	ひかり75号 15	新大阪 40	解散			

〔第37期生の修学旅行日程（昭和60年５月27日～６月１日）〕

日＼時	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5／27(月)				集合 40	新大阪発 30 ひかり340号	35 名古屋駅 00	（特）しなの9号		17 松本駅 40	バス 50	奈川渡 30 乗鞍高原着	整理・入浴 附近散策	夫・家族紹介	夕食	オリエンテーション	夕礼	消灯
5／28(火)	起床	朝礼 30	朝食 00	準備 30	清掃 00	野外活動Ⅰ（オリエンテーリング）					00	整理・入浴	夕食		学級企画	夕礼	消灯
5／29(水)	起床	朝礼	朝食	準備	清掃	野外活動Ⅱ（テーマ活動）						整理・入浴	夕食		テーマ活動 中間発表会	夕礼	消灯
5／30(木)	起床	朝礼	朝食	準備	植林作業		00 飯ごう炊さん					整理・入浴 00	夕食 30	移動	ファイヤーキャンプ	移動 30 夕礼	消灯
5／31(金)	起床	朝礼	朝食	準備	清掃 00	野外活動Ⅲ（学年ハイキング）		00	野外活動Ⅳ（テーマ活動）			整理・入浴	野外夕食		自由 00	まとめの討論 夕礼	消灯
6／1(土)	起床	朝礼	朝食	準備	清掃 清掃	乗鞍高原発 20 バス	00 松本駅	57 しなの8号		22 名古屋駅 44	ひかり143号 50	新大阪駅着 30	解散				

以上２つの修学旅行日程を見比べると，活動内容に大きな変化はない。基本的な活動として，①オリエンテーション（講師を招き，乗鞍の歴史，観光地としての発展等，現地に学ぶ方向付けを目的とする。）②植林作業（自然保護の実践を目的とする。）③飯盒炊さん・キャンプファイヤー（友を知り，友と親しむことを目的とする。）④オリエンテーション（第29期生より実践，自分達の活動場所を知ることを目的とする。）⑤テーマ活動（土地の人々との交流を図り，人と人との心の触れ合いを大切にし，自分で調べる姿勢を養うことを目的とする。）⑥学年ハイキング（第32期生まで上高地へのハイキングもされていたが第33期生より乗鞍での雪滑りになっている。）の６つの活動がなされている。これらの活動にはそれぞれの学年において，検討され実施さ

れている内容である。次に第37期生が活動内容を決定するために実施した過程を説明する。

第37期生においては，今までの修学旅行を見直すという目的で，卒業生200名を任意抽出し，アンケート調査を実施した。(回収率は35%，70名であった。) 以下にアンケート集計を報告する。

〔アンケート集計〕

1．活動内容

活動内容	印象に残った	おもしろかった	おもしろくなかった
オリエンテーリング	12（人）	34（人）	1（人）
オリエンテーション	12	5	14
飯盒炊さん	7	38	3
植　林	8	5	21
テーマ活動	26	38	9
キャンプファイヤー	25	39	3
学年ハイキング	8	23	3

2．修学旅行の意義

友人を見直す	38（人）
自　然	17
思い出	11
自己を見つめる	8
テーマ活動	6
何かを感じる	5
土地との触れ合い	1
集団生活の総決算	1

上記の修学旅行アンケートを基に決定された修学旅行の目的は「大自然の中で仲間との連帯を図り，いろいろな事に感動する。」であった。この目的に合った活動内容を選び，日程のゆるす範囲で選んだ活動内容が，オリエンテーション・オリエンテーリング・テーマ活動・植林作業・飯盒炊さん・キャンプファイヤー・学年ハイキングであった。

(2)テーマ活動

修学旅行において，沢山の活動の中で，生徒が自主的・創造的に動いているが，特にテーマ活動において，「自然に親しみ，土地の人々との心の交流」を大切にしている姿が目につく。生徒を幾つかのグループに分け，各グループ毎にテーマを決め修学旅行中だけでなく，修学旅行前，修学旅行後，多くの時間を掛けて，準備し，まとめている。以下にテーマ活動のテーマ一覧表を示しておく。

〔第28期生テーマ一覧〕

1）社会科系研究グループ	2）理科系研究グループ	3）文学芸術系グループ
乗鞍高原のつけものについて	乗鞍の地質調査	八ミリ映画の作成
乗鞍・番所における"そば"の研究		乗鞍かきあるき(絵・詩)
乗鞍の農業と農家の生活	乗鞍高原の木の植生について	
乗鞍と大阪の生活を比べて	乗鞍の植生	自　　然
	乗鞍の植物について	乗鞍の自然のスケッチ
番所と生活(建築様式)	小大野川の自然	
乗鞍高原の探索地図の製作		花のスケッチと分布
乗鞍探索地図	植物の分布	
乗鞍の人々をたずねて	乗鞍の自然	
信州の生活の知恵	乗鞍の植物と野鳥	
信州そばの研究	乗鞍の植生	

〔37期生テーマ一覧〕

Ⅰ　乗鞍に触れる	Ⅱ　乗鞍に学ぶ	Ⅲ　乗鞍に味わう
◎乗鞍の人々のくらしと考え方	◎観光開発と自然保護	◎大自然，乗鞍に飛んだ四人の天使
◎乗鞍の生活様式	◎乗鞍の農業	◎乗鞍の"そば"について
◎観光地に生きる乗鞍の人々	◎乗鞍の農業とその事業転換	◎アウトドア・ライフについて
◎乗鞍の人々の生活	◎乗鞍の交通について	◎地名について
◎乗鞍の家	◎乗鞍の水	◎乗鞍の自然と人々　～伝説から～
◎乗鞍の民宿	◎乗鞍の川の地形について	◎乗鞍の話題
◎乗鞍の道	◎川の魚と動物と昆虫	◎日本の言語をふりかえる
◎乗鞍の祭と行事	◎鳥について	(大自然と言語)
◎大阪の子供と乗鞍の子供	◎乗鞍の自然	◎乗鞍のガイドブック
(遊び方のちがい)	◎乗鞍高原における湿原について	◎乗鞍の美を未来に
◎乗鞍の子供と大阪の子供の	◎乗鞍の自然分布図～草花と木～	
運動能力のちがい	◎乗鞍の道に落ちているゴミ	

各期各々に特徴あるテーマ活動を続けている。このテーマ活動の成果として現在使用している「乗鞍高原」の地図がある。(次頁に示す)，これは第27期生のテーマ活動の一つである「地図の作成」を基にしている。この地図のおかげで，第29期よりオリエンテーリングが実施出来るようになっている。

(3)今後の課題

第28期生と第37期生の修学旅行の比較を書いて来た。活動内容等について，大きな変化はないが，環境等については大きく変化している。乗鞍高原も観光地化し，旅館

民宿等が200軒を越すようになり，スキー場のリフト建設も進んでいる。また，乗鞍高原で修学旅行を実施する学校も増えている。今後，「自然に浸り，自然に親しむ」という出発点を大切にしながら，我々に出来る「自然と人間との共存」という立場にたち，手づくりの修学旅行を作り上げていく努力が必要であると考える。

2　高Ⅲ修学旅行

本校の修学旅行を実施する目的を「学校要覧」の文で再確認してみると次の三点となる。①自然・文化・経済・産業・政治等の重要地を直接見聞することによって，教材学習や特別活動を拡充する。②健康・安全・集団行動・道徳などについて望ましい体験を得させる。③師弟や学友が生活を共にすることによってよい思い出を作り，学校生活の印象を豊かにする。この三大目標を掲げながら，各期毎の特色を盛り込んだ修学旅行を行って来た。

過去の修学旅行の実施期と目的地をみてみると次の通りである。

1～4期生：7月末～8月上旬，即ち，夏休み中に12日間を費やして，北海道方面へ出掛けている。大体，急行「日本海」を使って函館に入り，洞爺湖→昭和新山→登別→白老アイヌ部落→札幌→層雲峡→阿寒湖→摩周湖→美幌峠→原生花園からオホーツク海を見て→浅虫温泉，というコースを辿った。

5～8期生：5月末～6月中旬の12日間を費やして実施した。目的地はほとんどが，東北の十和田湖を入れて，北海道は道東網走方面まで，1～4期生と同じように，出掛けている。

9～13期生：6月中･下旬の10日間を費やして実施。これは新幹線と寝台車を使用したための短縮であった。目的地は1～4期生とほとんど変わらない所へ出掛けている。

14～22期生：5月下旬～6月初めの10日間を費して実施。目的地に変更があり，前半が東北地方で，後半が道南に限定され，初めて本格的な「自由散策」が活動に加わった。大体，新幹線・特急寝台で盛岡へ行き，八幡平・十和田湖→奥入瀬散策・十和田高原→萱野高原・(青函連絡船)・恵山岬→大沼公園・昭和新山・支笏湖→自由散策→登別→特急寝台車・新幹線，というコースであった。(これらについては「研究集録」第18集に詳述されているので，その項を参考にされたい。)

ところで，この10年間の修学旅行を振り返ってみると，1980年に実施した23期生の修学旅行では大きな変化があった。即ち，従来の修学旅行は2年生の時に行われていたのであるが，この年から3年春に改められたのである。この変更については，全附連高等学校部会の教育研究大会第20回，第23回大会で，生徒指導部の浦久保・白土，そして井畑がそれぞれ詳細な報告資料を作成し，発表しているので，詳しくはそれらを参照されたい。従って，ここでは，そこに至った経過を確認し，その意味を主に考えてみることにする。

(1)　修学旅行委員会設置の経緯

大学入試制度で共通一次テストが採用されてからの高校教育の内容は大きく変わった。とりわけ修学旅行の場合は実施期が早まったり，内容縮小の変更が多い。本校の変更はそうした時流に棹さすようなものであった。この発端は1977年2月8日の教官会議にあった。この会議で次年度の高1合宿日程の審議がなされた時，提案日程の是否論議が学期初めの学校行事の多さに留まらず，年間を通じての学校行事の再検討が必要であるとの内容に変

質し，特別委員会設置の検討の必要が提案された。即ち，高１合宿訓練と高２修学旅行が重なる問題点から論議が始まったのであるが，春季体育大会等の諸行事が接近している事などの指摘があり，各行事実施前の生徒指導が徹底しないそれまで数年間の反省が各教官に思い出された。そしてまた，文化的行事の停滞ぶりや文化系クラブの消極化などの問題も思い起こされる中で，学校行事全体の見直しの必要性が確認され，教務部と生徒指導部に特別委員会設置の検討が委託された。

３月１日の教官会議で教務部より次なる提案がなされた。

①特別委員会として学校行事委員会（仮称）を設置する。②新年度校務分掌委嘱の時点から発足する。③構成は，教務・健康教育・図書・生徒指導・研究各部から各１名，その他希望者１～２名，最大限６～７名とする。④但し，部長ばかりが集まるようなことにならないように，例えば，教務部なら行事の係とかのようにする。

以上四点を骨子とする原案が承認され，委員選出が各部に依頼された。

３月19日の教官会議で行事委員会の委員原案が提案され，審議・検討の結果，原案の一部を修正して，次の構成委員に決まった。

千種，網，浦久保，河野，篠原，白土，田原，矢田を正委員として，オブザーバーとして教務主任桜井が同席する。

この行事委員会は10月31日の教官会議で中間報告を行った。そこでは，６回の会合によって各行事を検討してきた事が報告され，その結果，修学旅行改善案が提案された。主なる理由としては，費用がかかり過ぎる，また，現行の東北・道南案は天候に良否が左右され過ぎるのと，移動距離が長く基地方式のような行動の余裕が持ちにくい，等が挙げられた。

なお，委員会の討論では，中・高６ヶ年一貫体制の中で修学旅行を考えた時，自然の中で何かを得ていく，という本校の現在のあり方は十分効果を上げていないのではないか，との問題点が指摘されていた。というのは，中１の合宿訓練，中１・３と高１の臨海訓練，中２の富士登山，中３の乗鞍への修学旅行，高１のハチ高原での合宿訓練，そして，全員ではないが希望者による赤倉でのスキー訓練等の行事の延長上では，生徒の「乗鞍への修学旅行で自然は満喫しました。あそこは最高です。」という言葉が問題を含んでいるとはいえ，教師の側には強く意識されていたのである。つまり，お膳立てされて楽しんで来た生徒は，高校では合宿訓練等でまず失敗ばかりを重ねて，高２になっても未だ自治会行事ですら満足に実行出来る自信が付いていないのだから，当然な事とは言え，修学旅行を楽しむ力は付いていないのである。その他にも，自然中心で社会的見聞の視点が欠如している，とか，最近の旅行ブームの中では，生徒の行動の小グループ化などを考えると，昔のような一生の思い出となるような修学旅行は成立しにくいのではないか，等々の問題点も指摘されていた。更に，修学旅行廃止の意見もあったが，改善案を検討する中で，その問題を話し合ったらよいという事で，委員会は次のような改善案をまとめた。即ち，①基地方式を増やすゆとりがある。②個人選択の幅が広い。③全員に見せたいところがある。④団体でないと見学の機会がない。⑤費用が現行より安くなる，という特色があるとして，山陽・北九州案，東北案，中九州案の３案が叩き台として提案される事になった。

これに対し教官会議では，（質）北海道方面への検討も可能か。（答）可能です。（質）時期の検討は十分なされましたか。（答）十分したとはいえません，等若干の質疑応答がなされて，改善案検討の提案が了承された。

これを受けて1977年12月20日の教官会議でこの提案が審議される事になった。ところが，簡単な改善案提案理由の説明から審議に入ったが，叩き台となるはずの改善案の審議とはならず，修学旅行を廃止しない理由についての質問に始まって，1977（昭和52）年度の修学旅行の体験とその数年前からの体験から，修学旅行を行う必然性をめぐる討論となってしまった。

主要な発言を会議録から採ってみる。

「現在の生徒の異性問題に関する意識からすると，修学旅行に生徒を連れていくのは疑問である。」等の発言に対し，「教育は学校のみならず学校での教育というものがあるわけで，修学旅行のような場で教えるべきものも重視しなければならない。こうした共同生活を通じて，生徒と教師が意思疎通をはかる事が大事である。とはいえ，現状ではいろいろな事から，所期の目的があいまいになって来ているので，修学旅行の精神を検討する事は意義がある。」とか，「今年（1977年度）の修学旅行に行った実感は，しんどい思いをしながら遊び人の面倒をみてきたという馬鹿らしさを初めて感じた淋しさは事実であるが，指導出来る点もあるので，（修学旅行は継続したい。）確実な原案を出してもらった方が，討論しやすいのでそうして欲しい。」という発言が続いた。

こうした討論の進行の背景には次のような問題があった事を考えねばならない。即ち，生徒の行動判断能力の幼稚化に伴う生徒の数々の不祥事の個別指導ばかりか，生徒の退学処分という最悪事態を回避すべく最後の努力を重ねていた教師側が消耗しかかっていた事があったのである。

本校の生徒指導の目標は自主性と責任感の育成に置かれている。それは，中学校までは，…はすべきである，とか，…してはいけない，との指針を与えて指導するが，高校では，それが本物になっているかどうかの試練の場として，生徒を指針から解放し，あるがままの状態にして，小さな失敗も大きな失敗も赦し，本物となるように個別指導して来た。ところが，我々教師側の個別指導のあり方が，旧習に慣れ親しみ，生徒の微妙な変化に即応出来ていなかったためか，あるいは「軽薄短小」という言葉に象徴される社会風潮の影響のためか，それとも生徒や家庭の環境や価値観の変化のためか，タガが緩んだ如く生徒の日常生活上の不祥事が多かったのである。

それもあって，会議は，行事委員会の一委員の「行事委員会では，学校行事全体の検討に充分時間を掛ける必要があるので，修学旅行だけを集中的に討議し，原案を出す能力がないと思う。修学旅行については早急に解決しなければならない事情もあるので，特別委員会を設けるしかないと思う」との発言から，沢山の意見が出尽くしたところで，多数をもって次の様な結論を下した。

修学旅行委員会を設置し，存廃についての原案を作成し，修学旅行実施の場合は具体案を提出することとする。委員については立候補者を募り，人数によっては教務主任が調整することとする。

そして，その日の内に７名が申し出て，直ちに委員会活動を開始した。委員は，浅野・浦久保・河野・柴山・白土・高木・田原の７名であった。

(2) 修学旅行委員会の活動と原案，そして教官会議の採決

委員会は，従来通り２年生春に修学旅行を実施するとすれば，存廃の結論を２月末迄に

出さなければならない時間的制約を持っていた。この条件下の委員会の活動について，浦久保・白土報告文は，「このため耐寒訓練・入学試験といった行事に忙殺されながら精力的に委員会を開いた」と記しているが，思い出してみると確かに大変な取り組みであった。

最初に委員会は修学旅行の存廃について討論をしたが，結論は初めから分かっていた。何故なら，各委員は前記会議の内容に危機感をもって，修学旅行の存続を考えた者ばかりが立候補し，委員会を構成していたからである。おそらく，7名が7名なりに，ヴェテラン教師の問題提起に応えようとしていたのであろう。察するに，修学旅行を廃止する等の考えはなく，いかに修学旅行を存続させるかのために，自分の理想の思いを考えたのであろう。とまれ，存続で合意し，現状の修学旅行の問題点の分析と克服策の検討に移る事になった。

生徒の「幼稚化」に伴う不祥事の頻発の原因分析が徹底的に行われた。その結論の主なるものは次の様な点であった。

1．附高生のほとんどが，地域の〝あそび〟世界から早く離れてしまい，教育熱心な家庭方針の下に育って来たためか，口は達者だが実行力が伴わず，また，〝ガキ大将〟の世界をくぐり抜けていないために相互信頼関係の樹立法を自然に身に付けて来ていないし，相互批判の仕方も身に付けて来ていない。そして，中学校までの行事では教師の指導がゆき届き過ぎているためか，生徒の自主性と責任感が期待する程には，十分身に付いていない。

2．2年生の春は自治会執行部の選挙と，それに続く附高祭の準備のための討論が始まり，それに修学旅行の準備が割り込むようになって，修学旅行に対する十分な話し合いをしないで出発してしまう。このため教官が旅行先で生徒の世話に追われることもある。

3．別の言い方をすれば，我々の希望は分別をわきまえた〝大人〟としての生徒を期待しているのに2年生の春では高校生活の半分しか経験していないから，とても〝大人〟になっていない。それが一番大きいのではないか，ということになって来た。

等であった。

そこで，当然の事であるが，附高生が学校行事等を通してどの様に成長しているかを点検することになった。そして，教師が期待する生徒の自主性と責任感はいつ頃身に付くようになっているかの判断をする事となった。その結果，クラス内での討論の仕方，掃除のありかた，附高祭での学級企画の内容，音楽祭での準備・練習・発表等々を比較した時，自治会活動や学校行事でやはり責任ある中心的な活動を経験したあとの3年生の落着きが我々教師側の期待するものに近いものになっているという結論となった。この結論は，共通一次テスト実施という大学入試制度の変更に伴う教育現場の動揺期であっただけに，教師側の理想のみを追求するだけではだめな事は各委員には十分意識されていた。そこで改めて修学旅行の意義というものを本校の教育理念と絡めて再検討し直す必要が痛感されたので，委員会の各委員が各自の考えをまとめて，レポートとして提出し，それを検討する事で，明文化された，しっかりしたものを作る事になった。

結果としては，受験指導，入試と多忙な中で全員がレポート作りに励んだが，時間的に間にあった4名のレポートをふまえて討論が重ねられた。（レポートに関しては，長くな

るので省略するが，浦久保・白土報告書を参照されたい。）その結果，1978（昭和53）年2月28日の会議での中間報告を経て，3月7日の教官会議で審議するための原案が作られたのである。討議資料として提出されたものは次の通りである。

討議資料Ⅰ

1．修学旅行の存廃について。

◎修学旅行は高校生にとって必要かつ不可欠なものではない。

◎だからといって廃止してしまったらという意見には同意できない。

◎いな，むしろ残しておきたい何かが修学旅行にはある。

その何かとは？→日常の学校生活は予定されたスケジュールの繰り返しであるのに対し，修学旅行の日程は予定されていても出発から帰着までの生活は一回しか経験しないものであり，しかも新しい体験であるだけに，日常生活では得られない夢があり，発見があり，感動があるだろう。これを大事にすることは本校舎の教育方針とも合致する。

2．現在の修学旅行の問題点は何か。

◎生徒の質の変化（附中3年での修学旅行の経験，自主性・社会性の未発達等）により，修学旅行が生徒にとっても教官にとっても以前のように楽しいものではなくなった。

◎東北と南北海道を旅行するため移動の時間が多く，費用が割高という印象が残る。

3．修学旅行をどう変更するか。

A．旅行の目的地を北海道東部とする。

◎日常生活の場から遠く離れている所の方が魅力的で期待が高まるし，日常生活とは異質なものに触れることは貴重。更にあまり俗化していない所。と考えると国境の海・雄大な自然ということで，北海道東部を旅行地とする。

B．3年生の5月下旬～6月上旬を実施時期とする。

◎高等学校の生徒としての生活体験が1年2ヶ月では修学旅行を楽しむ力は不十分。

◎それでは3年生ではどうだろう。

(イ)生徒は2年間の高校生活で知識が増えている。→旅行地に対する理解力が出来る。

(ロ)附高祭・100km徒歩などの自治会行事により自主性・社会性が身に付く。

(ハ)生徒は2年生に比べて大人になっている。

以上3点により修学旅行を楽しむ力が付いていると考えられる。

◎共通一次テストとの関連について。3年生で修学旅行を行うことを前提として，各教科で授業内容を検討していただき生徒の不安を解消する。更に共通一次の重圧を受けている生徒達に意図的に学校が緊張をほぐす場を作ることは意味がある。

◎生徒を育てて来た我々教官が，可能な限り生徒と対等な立場にたって生徒の成長を確かめる場としての修学旅行という視点からも3年生で行うことが望ましい。

以上

この日の審議は３月17日の教官会議に継続された。そして，共通一次テストに絡む生徒と保護者の不安と動揺，費用問題，そして長い日程問題等に若干の不安を持ちながらも，ほとんどの教官が自らの考えを発言し尽くした状態で，採決に入った。結果は圧倒的多数でもって，高３の春に道東にて修学旅行を実施することに変更する，という案が支持された。

この時の圧倒的多数をもっての変更は意外にも思えたが，それまでの数年間の生徒の問題に関する生徒指導会議等での討論からすれば，本校では当然の結論でもあった。

というのは，有名私立受験校と共に有名受験校として国立大学の附属校が注目され初めると共に，指弾されるようになっていく中で，本校は中・高６ヶ年一貫の全人教育を大目標に努力を重ねて来たのである。たまたま，修学旅行での生徒の幼稚な不祥事から検討が始まり，前記の原因等が指摘されて来た。世間は学力偏重に流されている。教師も保護者も，大人も社会も，子供がおとなしく机に向かい勉強していれば，あるいは塾や予備校に行って勉強していてくれれば，子供達が弱い者いじめをしていても大目に見て来た。品のない立居振舞いで売店をうろついたり，万引きなどがはびこったりもした。それまでの世間は，子供が平和日本を創造していく一員になるように，皆で厳しい目で子供を見つめ，子供達もそれに応えようとして来た。しかし，進学率が高まり，有名大学に入る事が，有名大企業に入れるのだ，という風潮が強まって来た時，学校も，世間も，社会の一員としての子供の成長を軽視し初めた。こうした社会風潮に対する本校の常識の挑戦であったとも言える変更であった。

(3) 修学旅行の現況

北海道東部を目的地とする修学旅行は，今年で６年目を迎え，本年度は，５月24日より６月１日までの８泊９日の日程で実施された。

修学旅行の準備は，１年前から始まる。担任間の協議のうえ，教官１名が前年の修学旅行に参加して下見を行い，下見の報告を担任間で検討し，コース，宿泊地の案を作成し，教官会議において決定する。本年度の実施コース等は，下記のものである。(次頁の表と注記を参照されたい。)

この旅行の目的は，①北海道東部を重点とした大自然に親しみ，実感としての感動を通して豊かな感性をみがく，②集団行動を通して友情を深め，望ましい人間関係，自主性及び責任感の育成を図る，③日常生活では触れることの出来ない風物に接し，人生経験を豊かにする，の３点がある。３年生になると同時に，各クラスより旅行委員を募り，教官と生徒の協同作業で旅行は具体化していく。その準備段階から，生徒の修学旅行は実質的に始まり，旅行後一冊の旅行文集が出来上がって終る。生徒達がどのような感想を述べてくれるか，そのことが私達教師にとって，目的がどれほど満たされたかを知らされる一つの機会である。以下，生徒の感想を挙げることで，この項を終えたい。

……どこまでも続く草原，雄大な山々，そして静まり返る湖など，見るもの出逢うものすべてに興奮し，感動を覚えた。中でも摩周湖と開陽台での印象が強い。……開陽台の広々とした大地に比べて一人の人間など小さいものであると感じた。また，とても爽快な気分になり，思わず草原に寝ころんべしまった程で，このまま時間が止まってほし

いという気持ちになった。

この修学旅行でメインとなったのが，網走での自由行動である。……能取岬の休憩所の二人のおばさんは，とてもきさくでいろいろな話をお聞きすることが出来た。中でも冬の厳しさには驚いた。……話を聞くうちに自然の厳しさを再度痛感させられた。こんな所で年中ほとんど毎日，働いておられる二人の苦労は計り知れないものだと思うが，笑いながら冬の話をされるのを見て，北海道の人のおおらかさと，その裏にある強さを強く感じた。……

（28期生　N君の文章より）

日次	月日	行程	宿泊
(1)	5/24（金）	ひかり352号　特急ゆうずる1号 新大阪―東京―上野―/▲ 15:30　18:46　19:50	
(2)	5/25（土）	21便　特急おおぞら7号 /―青森～函館―新得―黄金―然別湖△ 5:08　5:25　(弁)9:15　9:30　(弁)長万部10:58　16:02　16:30　17:30	然別湖温泉ホテル (01566)7－2211
(3)	5/26（日）	※自由散策 然別湖―上士幌―足寄―オンネトー―阿寒湖―弟子屈―養老牛温泉△ 8:30　10:20　10:40　11:50　12:20　12:50(食)14:30　15:40　16:00　17:00	花山荘(01537)8－2234 藤屋 8－2341
(4)	5/27（月）	・・・・・・・・・・終　日△養老生温泉を中心とした選択プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・養老牛温泉△	ホテル大一 8－2131 養老牛荘 8－2224
(5)	5/28（火）	(硫黄山コース) 養老牛温泉―斜里―オシンコシンの滝―ウトロ―ウトロ港～ウトロ―斜里―原生花園―天都山―網走△ 8:00　9:40　10:00　10:40　11:00　11:10(食)12:00　12:30　14:00　14:10　15:25　15:50　16:30　17:00　17:30	ホテル大観 (0152)48－2411
(6)	5/29（水）	・・・・・・・・・・終　日△網走を中心とした選択プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・網走△	
(7)	5/30（木）	網走―計呂地―石北●―大函・・・・・銀河流星の滝―層雲峡　※　△ 9:00　9:40　10:00　11:45　12:10　12:30(弁)　15:00　15:10　※釣者後部砂登山	ホテル大雪 (01658)5－3211
(8)	5/31（金）	(臨時)　特急はくつる4号 層雲峡―旭川―函館～青森―/▲ 9:50　11:30　12:28　(弁)長万部17:16　19:09　19:40　23:30　23:59	
(9)	6/1（土）	ひかり245号 ―上野―東京―新大阪 (弁)郡山6:23　9:18　10:17　13:30	

（注）

- 5月27日　終日，選択プランにより活動。(イ)納沙布岬方面，(ロ)霧多布岬方面，(ハ)牧場見学・野付半島方面，(ニ)野付半島方面，(ホ)養老牛温泉附近の散策，以上5コース）養老牛温泉に連泊。
- 5月28日　8時発。斜里より知床半島へ。オシンコシンの滝，ウトロに立ち寄り，知床五湖散策のあと斜里へ戻り，原生公園，天都山（オホーツク博物館）に寄り，網走湖畔へ（17時30分着）。ホテル大観泊。（予定では，ウトロより乗船し，知床半島，オホーツク海をみるはずであったが，悪天候のため変更。）
- 5月29日　早朝より，グループ活動（34グループ。旅行前に計画したコースで活動。摩周湖方面，サロマ湖方面，網走市内散策等々）。17時30分頃全員無事帰着。夜，ホテル前にてキャンプファイヤー。ホテル大観に連泊。

3　今後の課題

教官会議で修学旅行の変更を決定した後，学校の方針はＰＴＡの会合やＨ・Ｒで保護者と生徒に，繰り返し，丁寧に説明された。社会風潮からして，生徒と保護者に不安や不満が無かったと言えば，嘘になるであろうが，生徒と保護者は，よくそれらを抑えて，学校の方針を了解された。そして，前の「修学旅行の現況」で述べた如く，高３の春に修学旅行を実施することが定着しつつある。また，心配していた，今回の変更による大学合格状況の悪化という事態は生じなかった。そして，２年次に行うよりはるかに落ち着いた修学旅行が出来ている。

ところで，生徒の変化に伴って設置された行事委員会は，３年間の活動をもって，解散された。この行事検討の結果，無くなった行事は春季体育大会だけであった。そして，変更は修学旅行の実施学年の変更だけであった。この事は，本校が創設されて以来，知育・徳育・体育の各面で生徒の成長に良かれと，試行錯誤しながら創始してきた各行事の理念はやはり普遍的に守らねばならないと判断した事であった。ただし，２年生に余りに重い負担となっていた修学旅行を３年生に移す事によって，バランスを良くしたものとも言える。

とは言え，我々は1981（昭和56）年から特別委員会としてカリキュラム委員会を設置している。これは新しい教育課程実施に関したものであるが，この委員会では現在の生徒の能力をもっと自由に伸ばすカリキュラムを作れないものかと，新課程実施後も検討を続けている。最近では，研究部が中心になって，中･高合同研究部会を開いて，中・高全教官の共通理解を深める事も行っている。これらは，やはり，我々の全人教育の理想を貫くためには、学力偏重の風潮に迎合せずに，個々の生徒の能力と特性を今まで以上に伸ばしてやれる体制をしっかり作らなければならないからである。というのも，修学旅行での飲酒・喫煙・盗難・万引・異性問題等々の愚行が増加しつつあり，一般には管理を強化したために，旅行中に生徒が死亡する事件があったり，監督教官の眼を逃がれようとしてヴェランダから墜落した中学生の事故があっても，共通一次テストを口実に，高校での修学旅行は実施期を早めたり，安易なものに変更するのが，当然であるという社会風潮があるからである。子供が自然の中で伸び伸びと何かを得るべく活動するためにも，保護者の理解を得るためにも，今後はこのより困難な課題に今まで以上に真剣に取り組む必要があるだろう。

國方　太司
場本　　功
藤村　克子
高木　正喬
琢磨　昌一
横田　稔良

生　徒　会・自　治　会

はじめに

中学校生徒会は開校の翌23年より，高等学校自治会は開校の年31年に発足し，今日まで，40年，30年の歴史を重ねて来た。生徒会，自治会の活動は，生徒の日々の活動にあるのであるが，生徒達のエネルギーは，生徒会，自治会行事に集中する。生徒会行事としては，各委員会活動，三附中交歓会等があり，高等学校自治会行事は，附高祭，音楽祭，百粁徒歩等がある。10年前の，中30周年・高20周年の際には，開校以来の生徒会，自治会の活動をそれぞれの行事を通して，年を追って出来るだけ鮮明に浮び上がらせようと，行事内容だけでなく，行事計画から参加の様子，またそれらの行事の中で生徒達が，どのように考え行動したかをまとめてみた。今回，昭和50年以降の10年間の生徒会，自治会の活動をまとめるに当たり，中学校１年に入学した生徒達が，高等学校を卒業するまでの６年間に，生徒会，自治会行事にどのように参加していったかを生徒達の成長の過程を通して見ることにした。昭和18年に入学した中学校27期生は，高校21期生として昭和54年に卒業し，昭和54年に入学した中学校33期生は高校27期生として，昭和60年に卒業している。即ち，昭和48年から昭和60年まで在籍していた２組の学年を選んだ。

§１　生徒会

１　生徒議会

(1)　昭和48年４月～昭和49年３月，昭和54年４月～昭和55年３月

27期生（１年）	33期生（１年）
規律規定改定の４年目（第４期） 残された条文が少なく，新入生を含めた委員会を組織すると混乱を招くばかりなので，検討委員会を廃止し，役員会が肩がわりということに生徒議会で可決 １学期　4/19　生徒集会，「新しい規律規定の実施にあたって」の説明会 残された２つの条文について原案の相違を話し合う。 ２学期　教官側修正案を役員原案として提案。 早朝登校に関する条文 ホールの条文 生徒総会において，早朝練習の	第１回　4/6　議長及副議長の選出 議事選択委員の選出 役員会の方針発表→承認 「心のふれあう生徒会」 第２回　4/23　各委員会の方針発表→承認 第３回　諸連絡のみ 第４回　5/21　各委員会のキャンペーン発表及びその質疑応答 第５回　5/28　議会議決法について→次回へ持ち越し 第６回　6/11　各委員会のキャンペーン発表及びその質疑応答→承認 第７回　6/18　各委員会のキャンペーン

条文は可決，ホールの条文は保留
ある組より「長期休暇中は家庭の指導を受ける」といった検討委員会のもとの案，校外生活の条文に沿った代案が再び提案
役員会は現規定を実施した結果，附中生は努力目標軽視の安易な方向へ流れつつあるので規制をゆるめるべきでない，と現状重視の必要を主張。
役員会原案は生徒議会で可決
12/24 生徒総会において原案可決

規律規定改定の流れ

第１期（Ｓ.45）生徒総会において規律規定改定が決定
生徒総会において努力目標の原案可決

第２期（Ｓ.46）努力目標の字句修正
旧規律規定の条文の削除改正
前文，後文
「我々の理想的な学校生活とはどんな規定より得られるのか。どんな基準できまりを決めているのか。」という問題提議
校外生活の条文
きまりの定義
定義と条文

第３期（Ｓ.47）名称決定
「規律規定」「努力目標」「校則」
校外生活の条文
付加条文
ホール及早朝練習の問題は教官と意見対立
結論のついた条文に関し

発表及びその質疑応答の残り→承認
議会議決法について

第８回 6/25 議会議決法草案作成委員会について→作ることに決定

第９回 7/9 各委員会の反省
議長・副議長・代議員の反省

第10回 9/9 議長及副議長の選出
議事選択委員の選出

第11回 9/17 議会議決法について
体育大会の生徒会企画について

第12回 9/22 生徒会企画の種目について
各委員会の方針発表

第13回 9/26 生徒会企画の種目について

第14回 10/1 生徒会企画の種目について→玉入れに決定

第15回 10/8 体育大会の反省
生徒会企画の反省

第16回 11/12 学芸会の原案提出→承認
役員会の方針発表及びその質疑応答
具体的方針不足のため，次回改めて発表

第17回 11/19 役員会の方針発表→承認
「意欲と行動なくして事成せぬ」

第18回 12/6 生徒会主催体育的レクリエーションの原案提出及び質疑応答→承認

第19回 12/22 各委員会の反省
議長・副議長・代議員の反省
議会議決法についてのアンケート結果報告→白紙の状態に戻す。

第20回 1/19 議長及副議長の選出

生徒手帳に載せるかどうか検討→努力目標に含まれる条文は一切載せないことに決定 未解決の２つの条文を除き生徒総会において，全文承認が行われ，新規律規定誕生 実施は48年度よりと決定	議事選択委員の選出 各委員会の方針発表及びその質疑応答→承認（一部次回まで保留） 第21回　1/26　前回保留の委員会方針再発表→承認 第22回　1/18　議事選択委員会についての質疑応答 時間不足のため次回へ持ち越し 第23回　1/23　議事選択委員会についての質疑応答 放送委員会・文化委員会主催の音楽コンサートの主旨説明・その質疑応答→承認 第24回　3/10　各委員会の反省 役員会の反省 議長・副議長の反省

(2)　昭和49年4月～昭和50年3月，昭和55年4月～昭和57年3月

27期生（２年）	33期生（２年）
第１回　春体の原案発表 第２回　三附中の原案発表 委員会、役員会の方針発表 「選挙をしなかった１年生と生徒会との結び付け」 「初めて完全実施になった規律規定の運営」 「多彩な行事への工夫」 第３回　ベルマーク委員会について 第４回　春体・三附中の反省 第５回　修学旅行中の座談会について 委員長の出席について 生徒議会見学の予定発表 第６回　委員会の中間報告 月曜日の昼に議会案内の放送を 第７回　委員長の出席の義務は 月曜日の昼の放送について 第８回　委員長の出席の義務は	第１回　4/24　正副議長選出 議事選択委員選出 役員会の方針発表及びその質疑応答→承認（一部次回まで保留） 第２回　4/23　前回保留の役員会の方針質疑応答→承認 「過去を未来に生かそう」 各委員会の方針発表及びその質疑応答→承認 第３回　4/28　五月生徒集会の活用方針案提出及びそれについて協議→可決 第４回　5/19　各委員会のキャンペーン発表 第５回　6/2　六月生徒集会の活用方針提出及びそれについて協

生徒議会見学の報告
第９回　体育大会の生徒会企画について
規律規定について→分類しては
第10回　生徒会企画について→応援合戦
校内の美化について
各委員会の方針発表
第11回　規律規定の分類について
各委員会の方針発表
第12回　秋体の反省
学芸会の日程発表
第13回　新役員の方針発表
学芸会の係の分担と目標発表
第15回　学芸会の劇間の歌の代案について
委員長の挙手権について
第16回　委員会活動の中間報告
委員長の挙手権のアンケートについて
第18回　学芸会の反省
第19回　委員長の挙手権のアンケートによる原案発表
第21回　委員会活動の反省
第22回　委員長の挙手権→与えないと決議
第24回　委員会活動の方針発表
第25回　規律規定を浸透させるには
第26回　規律規定浸透についての役員会原案・対策の発表・討議
第27回　アンケート結果発表
第28回　規律規定浸透について会長説明
第29回　委員会活動の反省
生徒会活動の反省

議→可決
第６回　6/19　三附中交歓会の反省
第７回　7/3　文化的企画の原案提出及びその質疑応答→可決
第８回　7/14　各委員会の反省
生徒会企画アンケート結果発表
第９回　9/9　正副議長選出
文化的企画の反省
体育大会の原案提出→可決
議事選択委員選出
第10回　9/20　体育大会生徒会企画の原案提出及びそれについて協議→否決
第11回　9/22　各委員会の方針発表及びその質疑応答→承認
第12回　10/13　体育大会の反省
前期生徒会の反省
第13回　10/20　役員会の方針発表及びその質疑応答→承認（一部次回まで保留）
学芸会の原案提出→可決
第14回　11/4　前回保留の役員会の方針再発表及びその質疑応答→承認
第15回　11/18　球技大会の原案提出及びその質疑応答→否決
第16回　12/2　学芸会の反省
第17回　12/17　諸連絡のみ
第18回　12/22　各委員会の反省
第19回　1/20　正副議長の選出
議事選択委員の選出
委員会の方針発表
第20回　2/9　厚生委員会の方針発表
第21回　2/16　文化クラブ発表展示会について
第22回　2/19　スポーツ大会について
校内での飲料その他について

	第23回　2/23　校内での飲料その他について 第24回　3/4　校舎内での飲料購入について

(3)　昭和50年4月～昭和51年3月，昭和56年4月～昭和57年3月

27期生（3年）	33期生（3年）
第1回　役員会の方針発表 「規律規定の実践」 第2回　各委員会の方針発表 第3回　規律規定の説明会と討論会について 第4回　投書箱について 第5回　規律規定実践について 役員会側から具体的な原案提出 第6回　各委員会の中間報告 第7回　役員会の規律規定実践に関する報告 ペルマーク委員会の報告 規律委員会からの下校時刻調査の報告 第8回　役員会の規律規定実践についての報告 第9回　第一学期の各委員会の反省 生徒集会の存在についての調査報告 第10回　体育大会の種目・係→承認 生徒会企画を続けることに決定 第11回　体育大会の生徒会企画のあり方について討議→フォークダンスに決定 第13回　各委員会の出席を向上させることについて 第15回　体育大会各係の反省 前期役員会の反省 第16回　学芸会の日程発表 委員長の挙手権について討議→クラスへ持ち帰る。 第17回　学芸会の係の分担発表 委員長の挙手権について→今ま	第1回　4/20　正副議長選出 議事選択委員選出 役員会の方針発表及その質疑応答→承認 「自分自身を見つめられる生徒会」 各委員会の方針発表及びその質疑応答→承認 第3回　5/18　意見会原案について協議→可決 第4回　7/11　校則第11条の改正案について（規律委員会より）→承認 第5回　9/9　正副議長選出 各委員会の方針発表及びその質疑応答（一部次回まで保留） 体育大会生徒会企画の原案提出及びそれについての協議 第6回　9/14　正副議長の選挙についての協議→前議会の選挙及議事を有効とする。 前回保留の委員会の方針再発表及びその質疑応答→承認 体育大会生徒会企画原案についての協議→保留 原案取り下げ 第7回　9/16　体育大会生徒会企画についての協議→否決 第8回　9/28　前期役員会の反省 第9回　10/19　後期役員会の方針→承認

で通り無くなった。
第18回　各委員会の中間報告
第19回　後期役員会の方針
「生徒会の中心部を知ってもらう」
「新旧の規律規定を比較し理解を深める」
第20回　身体障害者の絵ハガキ，クリスマスカードの購入について意見交換
第21回　身障者の絵画作品購入について→生徒会として参加することに決定
第22回　学芸会の各係の反省
身障者のハガキの第一次結果発表
ペルマーク委員会の正委員会への昇格の件
第23回　ペルマーク委員会の立場について
第24回　ペルマーク委員会の立場について→現状維持
第二学期の各委員会の反省
第25回　正副議長，及び議事選択委員の選出
第26回　第三学期の各委員会の方針説明
第27回　前回承認されなかった委員会の方針を承認
第28回　文化クラブ発表会，音楽会のプログラム発表

学芸会原案発表
第10回 11/19　付加条文について
第11回 11/14　付加条文について
規制という事における昔と今の意味の取り方
第12回 11/16　付加条文について
規制しない，自由，ということについて先生に聞く
役員側改正案提出→保留
第13回 12/11　付加条文について
付加条文のもつ本来の意味
第14回 12/19　各委員会の反省
学芸会の反省
第15回 2/8　正副議長選出
委員会方針発表
音楽コンサートについて
原案提出
第16回 2/19　球技大会原案提出→承認
第17回 3/13　後期生徒会役員会反省
各委員会反省

(4)　〈生徒の作文より〉

27　期　生（3年）

今年度，附中生徒会は，大きな転期に直面していた。規律規定改定から2年，改定に直接携わった先輩はすべて卒業し，いわば「規律規定を与えられた」かたちの我々が，いかにしてその精神を理解し，実践していくか，これが我々に与えられた課題であった。　そこで前期役員会は，その大きな目標として，「規律規定の実践」

33　期　生（3年）

「みんなの生徒会」―生徒会を語る時，誰もが，一度は口にする言葉である。しかし，それらの人は，どこまで生徒会を考え，それをどこまで行動に移したであろう。「みんなの―」確かにその通りである。また，そうなくてはならない。しかし，今これを，あまりにも簡単に，

を掲げ，活動していくことに決定した。これは，それまで「規律規定の理解」ということがよく言われてきたが，頭の中で分かっていても，それを実際の生活の中で活用出来なければ規律規定の意味が無いのではないかという疑問から，「もう理解の段階は過ぎた。今こそ我々がこの精神を実行に移していかなければならない。」という結論に達したためである。

（中　略）

我々は我々なりに規定というものを考え，少しでもみんなが実践してくれるよう努力した積りである。それが功を奏さなかったのは非常に残念だ。もとより規律規定の実践には個人の自覚が最も必要なのだから，もっと深く考えてほしかった。その精神は実践しなければ死んだも同様であり，現在実践されきっていないのは事実であるからだ。今，附中には「規律規定ばなれ」とでもいうべき傾向がるようだが，このすばらしい伝統の灯は，どうか絶やさないように，そしてもっともっと明るくするようにしてもらいたいと思う。

口にはしていないだろうか。

近頃，生徒会と役員会を，同じ物として見る人が多いように思う。今，これを読むあなたも，その一人ではないだろうか。それは，完全なまちがいである。生徒会というものは，生徒全員の集合をこう呼ぶのであって、役員会というものは，その集合から，選出された者が集まって出来た，いわば代表機関なのだ。だから，ここには，少数意見を大きく拡大し，教官に，また他生徒に，広く訴えるという任務があり，逆に，生徒会には，この任務を成功させるため，働きかけ，時には，役員会の後押しをするという任務がある。このように，生徒会と役員会は，任務も異なる，全く別の物なのである。

という事は，生徒会活動が，本来どうあるべきか。

現在，生徒会活動とは，役員会のみの活動と考えられているが，本来の生徒会活動とは，つまり，生徒会と，役員会の共存による活動を，指すものではないだろうか。

（中　略）

みんなは，もっと，自分の主張を見せるべきだ。どんな形だっていい。そして，もっと生徒会に参加すべきだ。それが，本来の生徒会としての活動だから…。

2　三附中・交歓会

—1年—

〔27期〕

日時　昭和48年5月18日㈮10:00～3:30
場所　平野
日程　10:00　開会式
- 開会の辞
- 校長挨拶
- 運営説明
- 選手宣誓
- 準備運動

10:30　競技開始
- ポートボール
- バレーボール
- ドッヂボール
- ソフトボール

12:00～1:00　会食

〔33期〕

日時　昭和54年6月22日㈮　9:30～3:30
場所　天王寺
日程　9:30　集合（着替えを済ませた状態）
9:40　開会式
- 校長挨拶
- 生徒挨拶
- 宣誓
- 日程・会場説明
- 競技説明
- 体操

10:00　試合開始
- ポートボール
- バレーボール

2：00　交歓会

・各校各チームに交歓のリーダーを作り，三者協力して行う。その内容は当日までに各会場校チームの交換のリーダーが中心となって計画し，他校へ連絡する。（当日、三者でよく話し合い練っておく。）

・課題曲
「あの素晴らしい愛をもう一度」

3：30　閉会式

・成績発表
・講評
・閉会の辞

※予備日　9月14日(金)

・ドッチボール（女子）
・サッカー（男子）

12：45　試合終了

1：00　昼食

・部屋割りして3校歓談出来るようにする。

2：00　全体交歓

・学校紹介（各校20分で，スライドによる説明）
・歌ー校歌
　応援歌
　全体歌「手のひらを太陽に」

3：10　閉会式

・生徒挨拶
・講評

3：30　解散

※雨天決行

―2年―

〔27期〕

日時　昭和49年5月17日(金)　9：30～3：40

場所　天王寺

日程　9：30　開会式

9：50　座談会

・各校それぞれ20グループに分かれ，グループ毎の三校合同座談会とする。
・テーマを設定し意見を交換する。テーマは，あまり堅苦しくならぬよう配慮する。「中学生の遊びについて」

その他

・先生について
・ラジオやテレビについて
・会場校で各グループ毎の座談会の司会者を決めておく。

10：45　交歓試合（昼食も含む）

〔33期〕

日時　昭和55年6月13日(金)　9：30～3：30

場所　平野

日程　9：30　集合

9：50　開会式

・校長挨拶
・生徒挨拶
・宣誓
・日程説明
・全体交歓（校歌・応援歌）
・会場説明
・競技説明
・体操

10：50　試合開始

・バレーボール
・バスケットボール
・ドッジボール
・ソフトボール
（すべて男女別）
・昼食は12：00～13：00までに更衣場所や中庭で済ます。

・種目　バレーボール
　　ドッジボール(女子)
　　バスケットボール
　　サッカー(男子)
・昼食は，なるべく同じゾーンの三校チームが寄り集まり，歓談しながらとれるようにする。

2:30　全体交歓
・校歌・応援歌・学校紹介
・課題曲「翼を下さい」
・種目ゾーン毎の交歓

3:30　閉会式
3:40　解散

※雨天の場合の予備日　9月20日(金)

2:30　フォークダンス
　「オクラホマ・ミクサー」
3:20　閉会式
3:30　解散

(雨天時)
9:30　集合
9:50　開会式(体育館)
　　全体交歓
11:20　各クラスに分かれてゲーム
　　(15班)
12:30　昼食（グループ）
1:30　閉会式（体育館）
2:00　解散

—3年—

〔27期〕

日時　昭和50年6月19日(木)　9:00～3:00
場所　池田
日程　9:00　学校着，更衣
　　9:20　集合
　　9:　開会式
　　・校長先生ごあいさつ
　　・開会のことば
　　・日程説明
　　・諸注意
　　・選手宣誓
　　・体操
　　9:50　競技開始
　　・卓球
　　・バレーボール
　　・バスケットボール
　　・ソフトボール(女子)
　　・サッカー(男子)
　　1:50　競技終了，集合
　　座談会，リクレーション
　　・運動場にちらばって行う。
　　・男子12班，女子12班の計24班に分かれる。

〔33期〕

日時　昭和56年6月19日(金)　9:30～3:30
場所　池田
日程　9:30　集合，更衣　　9:40
　　開会式
　　・あいさつ
　　・宣誓
　　・日程，会場説明
　　・競技説明
　　・体操
　　10:00　試合開始
　　・バレーボール
　　・サッカー
　　・バスケットボール
　　・昼食は12:00～1:00までに適宜済ます。
　　2:00　全体交歓
　　・各校それぞれ20分程度
　　・校歌，生徒歌，応援歌
　　・学校紹介
　　学校の特色や近況紹介。
　　スライド使用は自由。
　　3:10　閉会式

・議題は「男女交際」について前もって，グループで話し合っておく。

2：30　全校交歓

・学校紹介

5分あまり，ユニークなものも可

・主題歌合唱

「この広い野原いっぱい」

・校歌

3：　閉会式

・成績発表

・閉会のことば

・校長先生のごあいさつ

※雨天のときは9月12日

3：30　解散

（雨天時）

9：30　集合

9：40　開会式

10：00　全体交歓

11：00　各クラスに分かれてゲームなどを行う。

12：00　昼食（グループ毎）

自由時間

1：00　閉会式

1：30　解散

三附中交歓会の魅力

体育大会関係の行事は去年まで，春季体育大会・三附中交歓会・秋季体育大会と三大行事があった。そして，前者の二つは行事の多い附中の特色を表すものであって，今年になっていろいろ討議の末，春季大会は消滅された。それはやはり交歓会の魅力によるものではなかろうか。この三附中交歓会の企画に折り込まれている前回から始められた座談会がある。今年も池田のグラウンドで20数班に分かれ行われたのだったが，司会としての僕も完全にしらけてしまったのだ。何かしゃべれ…。！といいたいけど，皆は，互に慣れない相手を前にして，終始下を向いたままだった。他の中学とは違い同じ附中生が集まっているのにこの状態では何の意味も持たれておらず，これでも交歓会かと思われた。しかし，交歓試合となるとみんなの目も輝き，互いの学校の意地をかけ我々天王寺もいつもにはない学年全体が一つとなって，他校とぶつかり合い，完全勝利を手にしたのだった。

やはりこの異色の行事は僕の脳裏に焼き付いている。（27期生の作文より）

三附中交歓会とは何なのか

僕達33期生は，今までに2回三附中を行ってきた。そのたびに僕は三附中は，いったい何の為にやるのだろうか。交歓という意味を辞書で引くと①共に楽しむ事②打ち解けて交る事となっている。しかし，実際問題として楽しめているだろうか。また，打ち解け合っているのだろうか。僕は打ち解け合っていないと思う。ただ，スポーツをやって，はしゃぎ回ってそれでうち解け合うことになるのだろうか。変に附中生であるという誇りが強過ぎてか試合中でも相手をののしり出場すると僕のように5ファールをして退場と言うことになってしまう。そして，試合が終わると何が残るかと言うと相手への怒りや憎しみ以外何も残らない。こうなると相手と打ち解けて交わるという事以前の問題である。僕のような考えをする人も中にはいると思う。僕のような考え方をする人が一人でも減るように生徒会が望むのなら，企画の段階でもう少しでも，打ち解け合えかつ楽しい三附になるようにしてほしい。（33期生の作文より）

§2　自治会

1　附高祭

附高祭の前身は文化クラブの発表会である。附高創立3年目，昭和35年より38年まで4回続いた。昭和39年には，〝みんなで楽しく遊ぼう〟というテーマで自治会祭が行われた。翌昭和40年に，両者を合わせた形で附高祭が2日の日程で幕を開いた。第3回から，3日となり，また何かを考えるためにやろうという方針が出て来た。『たとえば第3回のスローガンは，「附高と附高生を考えよう」，第5回は「自己を見つめる」これと共に講演・映画・シンポジウム・グループ別討論などがプログラムの中にはいってきた。第4回の附高祭のグループ別討論のテーマを見ると，「学校自治」「安保」「友情」「生と死」「宗教と生活」など。これからは当時の附高生の様子がしのばれる。また，この当時にはこれらの討論の基盤になる組織があったことも見逃せない。 たとえば「空想より科学へ」(エンゲルス)を読む会というのもあったそうである。

フリータイム（今の有志企画の前身と考えられる）という企画がプログラムの中に入れられたのは，第7回（昭和46年）からである。それまでの附高祭はおもに団体でまとまってやるものだった。そこで，もっと個人で好きなことをやりたいという要求が出てきたのである。中身としては映画・フルート・落語・フォークコンサートなど。

附高祭が4日間になったのは第9回（昭和48年）からである。このときからプログラムは多少の変更はありながら，一定の形をとって来た。1日目は前夜祭，2日目，3日目に学級企画・文化クラブ発表・講演・映画・体育企画など，そして4日目は，有志企画・模擬店・後夜祭・ファイヤーストーム。さて，学級企画はどうして出来たのだろうか。附高祭が4日間になった時ぐらいから附高生の〝個立分散化〟が言われるようになった。受験の影響もあって，ホームルームの話し合いがうまくいかない，みんなに連帯感が無くなった，などである。それを何とかしよう，みんなで何かをすればクラスがまとまるはずだ，という考えで学級企画は生まれた。今の大講堂企画はこの学級企画の名前が変わったものである。』（附高新聞第178号「附高祭小史」より）

21期及び27期は，4日間行われるようになった際高祭に取り組み，それぞれの状況にかかわっていたのである。以下に於て，両期生が2年の時のプログラムの概要と反省の文章を紹介することを中心として，それをたどってみよう。

〔21期〕

◎Ⅰ年（昭和51年）　第12回

大講堂企画

ⅠA　劇　「よみがえった改心」

ⅠB　劇　「青ひげ」

ⅠD　劇　「恩讐の彼方に」

有志企画

Ⅰ C学級企画　映画

Ⅰ C有志　　ロック

◎Ⅱ年（昭和52年）　第13回

プログラム

日程表

〔27期〕

◎Ⅰ年（昭和57年）　第18回

大講堂企画

Ⅰ C　劇　「友情」

Ⅰ D　報道特集

「日航機墜落事故の背景」

Ⅰ年有志　劇　「吸血鬼アミーラ」

有志企画

Ⅰ年有志　戦争展，原爆記録映画

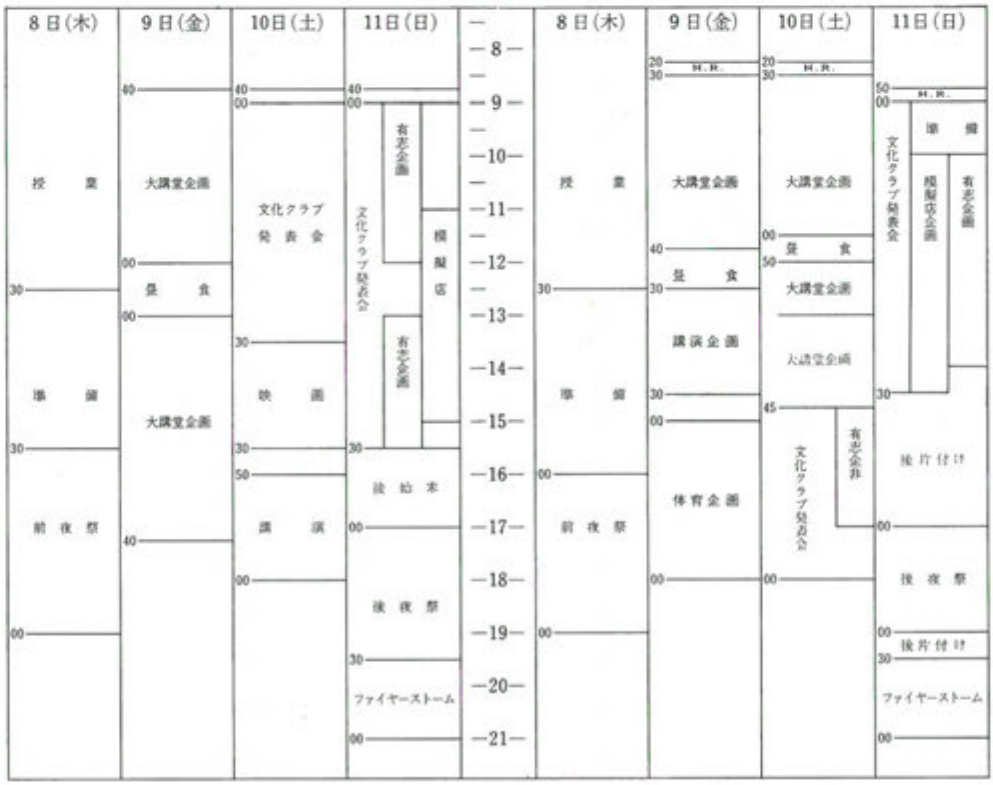
Ⅰ年有志　「松山千春の

ヒットメドレー」

◎Ⅱ年（昭和58年）　第19回

プログラム

日程表



○前夜祭

「君よ9月8日に熱くなれ」

これから4日間の附高祭が始まる。

さあこのキャッチフレーズのもと，皆で思いきり楽しもう。

- フォークダンス
- 開催の儀
- 有志演奏
- 模擬店・大講堂企画紹介
- ゲーム・カラオケ
- 花火

○大講堂企画

- Ⅰ A　「時の氏神」
- Ⅰ B　「マクベス」
- Ⅰ C　「人形の家」
- Ⅰ D　「椿姫」
- Ⅱ A　「草の指輪」
- Ⅱ B　「真夏の夜の夢」
- Ⅱ C　「歓楽の鬼」
- Ⅱ D　「屋根の上の狂人」
- Ⅲ A　「ひかりごけ」
- Ⅲ B　「守銭奴」
- Ⅲ C　「正義の人々」
- Ⅲ D　「崑崙山の人々」

今年は学級企画の劇が12並びました。どの劇も各クラスが夏休み中頑張って作り上げた努力の結晶です。

○文化クラブ発表会

とにもかくにも，半年間の各クラブの活動の結晶です。なにはともあれ，一度展示場に足を運んで下さい。きっと何かを見つけられるはずです。

- ＥＳＳ　英語劇“Hamlet”
- 音楽部　ブラスバンド演奏
- 化学部　金属イオン，大和川の水質
- 写真部　スライド上映，パネル展示
- 生物部　プランクトン，タバコの生物に与える影響
- 地学部　プラネタリウム，研究発表
- 鉄研部　レイアウト展示，研究発表

○前夜祭

さて，気になる附高祭の企画のトップバッターを紹介しましょう。皆様御存知のあの大盛り上がり大会が間違いなしといわれる前夜祭。

今年は3組のバンド演奏に加え，毎度おなじみの“ラブアタック”，そて去年よりも一段とグレードアップした内容でせまるさまざまなゲーム。その他にもカラオケ大会など，二重丸付きの企画の目白押しで，他の企画の準備をする暇など，決して与えません。

○大講堂企画

- Ⅰ A　「ポルトガリヤの皇帝さん」
- Ⅰ B　「私は貝になりたい」
- Ⅰ C　「日時計」
- Ⅰ D　「友情」
- Ⅱ A　「新撰組」
- Ⅱ B　「寿命判断」
- Ⅱ C　「闇の足音」
- Ⅱ D　「ひかりごけ」
- Ⅲ A　「その妹」
- Ⅲ B　「合牢者」
- Ⅲ C　「乞食の歌」
- Ⅲ D　「ピグマリオン」
- 有志　「シャドウ　ボイス」
- Ⅲ年有志　合奏

○文化クラブ発表会

文化系クラブの活動内容はあまり知られていません。それでこの附高祭という機会に各文クラの活動の成果を見てもらおうというのがこの企画です。是非，お越し下さい。

吹奏楽部，体操部，化学部，生物部，物理部，地学部，写真部，数理研同好会，地歴部，美術部，陶芸・七宝同好会，自治会執行部（アイヌ問題展）及び合同発表「夏」

○体育企画

体育企画は，する側と見る側に別れる

・美術部　作品展示
・園芸同好会 チューリップの球根配布
・家庭科同好会　作品展示
・書道同好会　作品展示
・物理同好会　研究発表,マイコン展示

○映画

"イチゴ白書"

－ STRAWBERRY STATEMENT

大学紛争の中で彼らはいったい何を感じ，どう生きただろうか？平穏無事に暮らす僕たちにとって，提起されている問題は大きい。大学と高校，アメリリカと日本という違いを越えて主人公は我々に訴えかける。

○講演

"リブ号の航海"

日本女性初の太平洋単独帆走横断を成し遂げた小林則子さんをお招きして，16㎜の映写も交えながらお話を聞きます。

○有志企画

今年も例年によって有志企画であります。うまく時間を使って数多くの企画に参加しましょう。

・ROCK演奏
・FOLK演奏（２グループ）
・演劇「友達」（演劇同好会）
・修学旅行写真展
・修学旅行映画（FBS）
・将棋大会

ことたく附高生全員が参加できる企画です。また文化的色彩の濃い附高祭において，思う存分身体を動かすことができるのは何といっても体育企画をおいて他にないでしょう。みなさんの積極的な参加を切望します。

・綱引き
・障害物競走
・ウルトラクイズ

○講演企画

「大学について」

講演企画は，他の企画と違い，受け身の企画といえるでしょう。しかしながら，日頃接することの出来ない人の話を聞くことによって，新鮮な知識や考え方を摂取でき，新しい方向に目を向けることが出来ます。講師の森毅先生は，現在京都大学教養部教授をされています。先日お会いして，お話をしましたところ，私達が普通持っている"教授"という堅いイメージではなく，気さくな方でした。講演も楽しい話をして頂けそうですし，みなさんも気軽に聞けるのではないかと思います。

○有志企画

・映画
・戦争展
・バンド演奏（12グループ参加希望）

○模擬店企画

・ⅠA　喫茶店
・ⅠB　クレープ屋
・ⅠC　お好み焼き屋
・ⅠD　甘党
・ⅡA　フォーク喫茶

・展示“金芝河”(新聞局)

○模擬店

スパゲッティにざるそば。ライブハウスに音楽喫茶。わらびもちにパイナップル。ゲームにレース。占い，ごはん，お化け屋敷，etc…etc…さあ，この4時間にたっぷりたべよう！。

・Ⅱ B　娯楽店
・Ⅱ C　和風喫茶
・Ⅱ D　軽食店
・Ⅲ A　軽食店
・Ⅲ B　うどん屋
・Ⅲ C　軽食店
・Ⅲ D　釜めし
・剣道部
・陸上部
・バスケ部
・有志（2グループ）

○後夜祭

後夜祭は，附高祭のフィナーレである。思いっきり楽しみ，皆でつくりあげた今年の附高祭を最高潮に高めると共に附高祭をふり返る場にしよう。

・盆踊り
・夕食会
・閉祭の儀(歌，shouting，花火)

○後夜祭

4日間の附高祭もいよいよ終わりに近づき，みんなが一堂に会して過ごすのも，この後夜祭だけとなりました。附高祭の感想も一人一人が違うと思います。良かったと思う人，悪かったと思う人，様々。でも，もうこれで最後，思いきり楽しもうではありませんか。夕食会，ゲーム，盆踊りに花火。どれもみんな楽しいものばかり。どうぞみなさん，存分に楽しんで下さい。

○ファイヤーストーム

物好きな男どもによって始められる。最初は騎馬戦。その後は例年のごとく寮歌を歌い，○歌をがなり，走り回り，大いにあばれる。

○ファイヤーストーム

「火」火はとてもすばらしい。熱い。美しい。恐ろしい。その火を囲んで熱い男達が叫び，踊る。なんと絵になる光景だろうか。燃えている男には真っ赤な炎が良く似合う。　誰も文句は言わない。みな，獣になれ。思いっきりさわげ，吠えろ。

○デコレーション企画

非常階段三階の踊り場に腰を下ろし，初めて大きくため息をついた時，後夜祭の花火は美しく舞い上がり，団扇を持った皆がそのまわりに集まっていた。過ぎ去った4日間を思い出そうとしても，頭の中は全く空っぽで何も浮んで来やしなかった。

5月になって自治会の危機が叫ばれると，僕はおもむろに恐くなってきた。ー今自治会がつぶれると今年は附高祭が出来なくなる。そしてそれは僕達21期生の責任になるーと。しかし，

○デコレーション企画

「現実は虚偽に満ちている。私達は今，精神的な貧困の中にいる。我々は喘いではいないか。私達は私として名乗りでることはできないでいる。“あんなものは附高祭じゃない”と何度叫んだことか。しかし，その叫びは，ただ暗い闇に消えていった。じっと黙って自治会室に座っていなければならなかった。余りに惨めだった。

大講堂のさなかテニスに遊び興じる人もいる一方で，校務員の方が，吹け抜けの所で，こびり付いたペンキを落していた。“一部の者が頑

H.R.ではそんなことおかまいなしにバレーボールをやっていたし，皆は〝誰かがやるに決まってるんだ〟と口をそろえて言っていた。ここに僕達の大きな欠陥があったように思う。僕は，といえば，僕達の学年に対して満足していなかったが，少なくとも〝自分の学年だ〟という意識だけは持っていたように思う。

（前年の5月，1年生であった僕の目に写った19期生や20期生は，実に驚くべきものだった。生徒総会や意見会で行われた討議はとても自分達に真似の出来ないような高度なものに見えたし，その白熱した雰囲気は1年生の僕をも酔わせたものである。

とにかく僕は，附高という所のとてつもないすばらしさをつかんだような気持ちになり，討論が続き6時7時となって一年生などほとんどいなくなってもいつも残っていた。）

そして何よりも僕達は附高の中心になって，伝統（のようなもの）を背負わねばならないと思ったのである。しかし，あまりにもなっていないように見えた。誰一人として自分が2年生であることを自覚していないように思えた。自治会の危機などどうでもいいような顔をしているようだった。〝つぶれるなら一度つぶしてしまえばいい〟と言う者も中にはいたが，僕にはそこまで自分の学年を見捨ててしまう勇気はなかった。

執行部になっても，〝学年のまとまりなんて，修学旅行や附高祭が済む迄はこんなものだ〟とたかをくくる以外にはなかったのである。僕達は，みんなで附高祭を作っていくことで学年，クラスのまとまりや人間関係の空しさ，冷たさも解消されるだろうと考えた。その為には，バラバラの状態の学年の中から立った我々執行部がどんどん動いてしまってはカラ回りをするばかりでいけない。なんとかして皆を盛り上げるように動かねばならなかったのである。しかし，もともとまとまりのない，つまり自治意識の欠けた集団においての執行部の存在そのものが矛盾の上に立っていた，といえるのである—これと酷似した内容の文章を，2年前19期の執行部の冊子の中に見付けることが出来るはずだ。その通りである。 僕達は，2年前の執行部がとっ張っているのに，後に続く者が居ない”と多くの友人が嘆いていたが，しかし，こんな附高祭のために，隠れた場所で，まさに献身的に努力している人が存在するということを，一体何人の人が知っているのか……。

高Ⅰの頃，ただ純心に“祭”の雰囲気を求めていた。何か解放的で，どこか熱狂がたちこめている，そんな祭を私は共有していたし，充分それに満足していた。高Ⅱでは，その熱狂に疑問を感じ，むしろその熱狂に浸っている附高生に対して莫然とした嫌悪感を感じた。そして，その事態を打開する術もなく，自治会室にこもっているだけの自分をも嫌悪した……。

執行部になって附高祭についていろいろと考えた。附高祭とは不可分の関係にあるという前提に立って，質の高い附高祭をどのようにしてつくりあげるのか。

その条件は

イ．附高生全員の積極的参加。

ロ．文化的に高い内容にするため充分な話し合いをし，附高祭について考えを深める。

の二点を満たすことを考えた。全員が高い理想，あるいは理念を持ち，その達成を目指して精力的に活動するようになるには，とにかく附高祭原案を作る段階から，共に考え，つくり上げてゆくという雰囲気をつくることだ。それには出発点を零にして，人を集め，討論し，執行部もそれに参加して各人の考え方を一つにまとめていくことだ。今思えば，これが最初の，そして致命的な失敗であった。何ら建設的なプラン，思想を明示しないで討論に入った時，主導権を握ることは難かしい。とりわけ考え方が異なる場合には，少数の執行部は多数の有志に圧倒されてしまった。附高祭有志は“附高祭を行うのに面倒な意義はいらないし，各人がそれぞれ好きなことができる場が附高祭なのだから，ただ一つの意義に考え方がまとまるはずがない。だいいち，あんな抽象的な言葉が並んでも何のことかわけが分からない”と主張し，“討論を通して附高祭に対する認識を深め，文化的に質の高いものを目指していこう”という執行部と対立した。結局，教回の論争の結果，執行部は折れざるを得なかった。附高祭有志とは結局，自分達の好きなことが出来る附高祭を行って，楽

た方法によって附高の伝統や附高祭を守るすべを見出そうとしたのだ。そして僕自身も，２年前の“轍”を追うことで我が21期生のポテンシャルな力を引き出すことが出来るのだ，と信じようとした。

しかし，執行部の力にも，そして学年そのものの力にも格段の差があったことは否めない。残念ながら僕達は，そのポテンシャルな力というものを爆発させることが出来なかった。僕達は２年生さえ一つにまとめることが出来ず，おまけに１年生や３年生からは２年生や僕達に対するきびしい非難を受けることになってしまった。

生徒総会の流会。そして例の事件。何もかもそうなるべくして悪い方向へ事が運んだ。１年生と３年生の板ばさみにされ，いつの間にか動き出している“附高祭”，それを背負うべき責任を認識することで２年生の１人１人が自覚を取り戻し，２年生としての意地や誇りみたいなものをもつことで団結することを願う他なかった。そして，何とか附高祭を守る為に実に体裁をたてることばかり気にする，というハメに陥ってしまった。

しかし，３年生の協力や１年生の努力，そして附高祭そのものの持つ伝統の力によって，無事附高祭はその４日間を終えた。

岡田の言い方を借りれば，それこそ僕達は〝伝統の上にあぐらをかいていた〟に過ぎなかったのだろう。けれども一方，附高祭そのものは今迄になく大規模なものとなった。各クラスの大講堂企画は年々充実したものになっていく。前夜祭や後夜祭の参加者も増える。今迄はクラスで４，５人しか参加者を数えなかったファイアーストームには１年男子のほとんどが参加する……。

附高祭の伝統を築き上げた〝昔〟とは，一体何だったのであろう？昔は，附高祭そのものに反対する者が多くて，執行部がそれを説得するのに苦労をしたという。今では，〝反対の者は反対の意志をしっかり表示したらどうなんだ〟と執行部が呼び掛けるのだ。反対の者は，総会などでさんざん意見を言ったあげく当日は家で勉強をしたり，外へ遊びに出たりしたと言う。そして，当日出てくる者はといえば，〝前夜祭しみたいと思う存在でしかなかった。何ら建設的な意見を持たないから“みんなで燃えようぜ”という単なる煽情的な言い方しかなかった。何よりも驚いたのは，代表委員会での審議の無用を主張し，クラスまわりで“附高祭をやろうぜ”という雰囲気が盛り上がればそれで充分だと主張する有志もいたという事実である。そんなフィーリングだけの行動に何の意味があろうか。こんな初歩的なところで執行部は衝突しなければならなかったのだった。“どうせ一生懸命に研究発表をしても，誰も見に来ん。そんなもんやっても無意味だ。文クラ発表には参加せん”と主張する文化クラブ部長もかなりいた。ある文クラ部長に“そんなに発表が嫌ならクラブ活動もやめればよい。発表のないクラブ活動に何の意味があるのか。そんなもんは自治会のクラブではない。やめてしまえ！”と腹立ちまぎれに言ったこともある。文化祭以前の，あの文化クラブの倦怠感……。どうしようもないまでに暗く沈んでいる。

文化クラブに限らず，およそ文化的感心を持っていると思われる相当数の人達の無気力ぶり。彼等にいくら説いても“どうせ誰もついて来ないよ”という返事ばかり。私には想像もつかない事態が起こっていた。大多数の附高生は何か逃げ腰であった。そして〝やりたいこと〟をやればよい”という附高祭有志たちもまた，彼等の心の底には虚しさを共有しているように思えた。その主要な原因は『受験』ということではないだろうか。

高Ｉから，Ｚ会の通信添削や駿台，河合塾，高進といった予備校に多数の人達が通う。夏休みも附高祭の準備に来ない人が多くいるが，予備校の夏期講習を受講しない者はほとんどない。生徒総会も予備校の開かれる日をわざわざ避けて開いた。その一方では授業の居眠りが慢性化し，試験前ともなると，コピー屋の前は附高生の長い列ができる。

附高生の無責任さにいつも悩まされてきた。人の話を聞かない。クラスまわりで何度どなりつけたことか。そして，その度に，自尊心の強い附高生から白い眼でにらまれる。にらみ返す。その繰り返し。

代表委員会ーホールや教室でたむろしている

など暇な奴が出るもの。と割りきって，その時間にはせっせと自分達の仕事をしたくらいだそうだ。

今回の生徒総会では，意見らしいもの意見はほとんど出されなかった。そしてついには，〝僕らにはそんなむずかしいことどうだっていいんですよ〟と採決だけを求めようといった声も聞かれた。

ほぼ行事化してしまった附高祭は，その技術的なもの積み重ねによって年々確実により良いものになって来ている。又，そういうことから〝ゼロから作る〟と言ったところで全く〝ゼロ〟に戻って考えることは，たとえ3学年がすっかり入れ変わったとしても不可能だと言えるのではないだろうか？

又，附高生そのものも変って来ている。次第に〝お祭り〟的要素を抜きにしては考えることが出来なくなってきた附高祭に対し，〝反対〟をとなえる者は少なくなり，賛成する者も，ただなんとなく賛成というのが多くなっているのも事実だ。そして一部の附高生にとって，今のような〝当日だけでも十分楽しめる附高祭〟は，〝見るだけの附高祭〟ということにもなっているのではないだろうか？はたして，このような〝附高祭〟は有志でやった場合の附高祭とどう違うと言えるのだろうか？ただ大規模なので生徒の手のみで出来ないから，というだけなのだろうか？一体〝自治会行事としての附高祭〟とはどういうことなのか？ここでもう一度考える必要があるように思う。

むろん，このような附高祭を通じて，人間関係をどうこうするとかいうことはかなり難しいことだ。もし少しでもそれがなされたとしても，それはあくまで結果論であってそれを目的にするのはやはり無理な話だと思う。附高祭は日常の上に立つものだから，もし，日常の問題を解決しようとするなら，クラスや学年や個人における日常そのものを考え直すべきだろう。

附高祭が済んで半年以上たった今，僕の頭の中の立候補から附高祭の終わる迄の記憶は，遠く薄らいだものとなっている。僕のまわりの友達はあいかわらず友達だし，変わったと言われる我が21期の雰囲気がどう変わったのかもさっぱりわからない。殺伐としているように見えた雰代表委員を捕まえることで定数ギリギリの代表委員会を，定刻より20～30分遅れて開く。その気のない人間の集まり（情熱のない人達の集まり）ほど堕落したものはない。“別におかしいと思えるところもないし，僕もこれに賛成だから採決動議を提出します”最も経験豊富で，しっかりしているはずの3年生が，開会後わずか15分で，こんな動議を提出し，その提案が大多数の代表委員の意見を反映したものであるという事実。一票差で否決したものの3分の2に近い代表委員が，この動議支持の意志を表したことに，どうしても附高祭の意義を問い直さずにはおれなかった。附高祭なんかやめた方がいいのではないのか？……。何故，審議されることもなく原案が通るのか。審議が始まっても，居眠りする者，私語する者。

文化的に何ら収獲のない附高祭。自分の責任を全うしたいで他人に押しつけてしまう。文化的不毛以前の問題，否，だからこそ文化的に不毛なのだ。

執行部が附高に求めたものは文化だった。よくは分らない言葉だが，人間の，附高生の知的な活動の産物が欲しかった。誰もが参加し得る場，何か出来ることのある場，それを自分達一人一人が責任をもって作り上げていくのが附高祭なのだと思った。しかし，〈意義〉といった抽象的価値と附高祭とを結び付けることは，もう出来なくなっているのだ。……。

最後に，最大の問題は執行部にあったのかも知れない。相対主義の中で，その存在意義を見失い，充分な自信を持てなかったし，勉強不足もあって，指導力を欠落させていたことである。困難な事態に直面した時，精神的に崩れることが多くあった。高Ⅰの時に，真剣なディスカッションの場をもっともっと多く持たなければならなかったのだ。クラブ活動，H・Rの活動，授業など，我々の日常生活の有り方を追求することのなかった私達の招いた当然の結果といえる。“個人の自覚に任せておけばよい”という考え方は，“どうせ言ったところでどうにもならない”ということと同じであり，そこにはお互いが共存し合う土台はなく，自治会の成立する礎はどこにもないのである。しかし，それを打破することは可能なことだと思いたい。始め

囲気が実は単なる主観による妄想のようなものだった為であろうか，それとも僕がそれを感じなくなったからだろうか。

◎Ⅲ年（昭和53年）　第14回

大講堂企画

Ⅶ A　劇「予告された心中」

Ⅶ B　劇「リヤ王」

Ⅲ C　劇「ガラスの動物園」

Ⅲ D　劇「葵上」

有志企画

Ⅲ年有志　ROCK 演奏

BAROQUE 演奏

討論会「大学入試を考える」

英語劇

大道芸人

は数人でもよい，次には数十人の人による討論会，読書会などの輪を広げてゆくこと。自分を守るのではなく，自分を主張し，より深く自分を理解しようとしてゆくことだろう。

◎Ⅲ年（昭和59年）　第20回

大講堂企画

Ⅲ A　劇　「真夜中のパーティー」

Ⅲ B　劇　「天国椅子」

Ⅲ C　劇　「市場」

デコレーション企画

Ⅲ A　オバケのQ太郎

Ⅲ B　凧

Ⅲ C　夏祭り

Ⅲ D　太陽熱気球

21期生と27期生が中心となって作り上げた２つの附高祭の記録を比較して見ると，６年間の隔たりがあるにもかかわらず，著しい類似性が認められる。それは，学級を単位とした大講堂企画を含めて４日の日程で行われるプログラムの類似性にとどまらず，附高祭の主体である附高生の状況そのものが同じ方向へ流れていることを示している。それぞれの附高祭に取り組み，なしとげた執行部の役員たちが異口同音に心情を吐露している上の文章によって，それは明らかである。

執行部の役員を中心にしたごく少数の自治会員は，自治的活動に関するやる気の少なさに対して，また単なる気転なあるいは興奮を伴う遊びへの傾向に対して疑問を感じはじめる。その起源が持ちまえのものなのか，経験なのか，指導によるものなのかは複雑な問題ではあるが，とにかく，一般の大部分の自治会員とは違った意識をもって活動を始める。

しかし，自治活動としての附高祭についての明確な理念をもつことはなかなか困難である。だが，伝統からして何らかのヒントを得ることが出来る。　①附高祭は与えられた形の定まった恒例の行事ではないのであり，実施するかしないかを決定することからはじめ，何のために何を行うかを自分たちで検討し工夫しなければならないものなのだ。だからして，そういう附高祭を実施すること自体に意味を見だすことが出来ると考える。ところが実際には，具体的な指導理念を持たず，「執行部は中立の立場に立つ」と表明してみたり，あるいは抽象的なテーマを提示することによってでは，一般の自治会員を指導しきれない。討論を組織し、一般自治会員をして意義を自確し言葉で表現出来るようになさしめることが出来ず，彼らは具体的な活動にのみ目を移し，結局，遊びに終ってしまうことになる。

②附高祭を自治活動の最適の練習問題としてとらえ，即ち手段としてとらえ，これを自分たちで作り上げることを通じて自分たちを変革していけるのではないかと考え，そこに意味を見出すこともある。ところが実際には，日常の変革を求めながら日常性に屈服せざ

るを得ず，日常生活を建て直すことこそが先決問題であるという結論に至るのである。

③最近では，附高祭は附高の文化を現すものであるという観点からの意味付けが模索されているようであるが，やはり，ある方向へ流れざるをえない。

いずれにせよ，附高祭に主体的に取り組み，そこに意味を見だしそれを実現しようとした者たちは，現実との格闘の中で，一様にある種の悲哀を感じざるをえないのが実情である。だが，この悲哀をも含めて一連の積極的な体験こそ貴重であるともいえる。ただ，こういう体験を持つ者が，自治会員全体の中であまりにも少ないということが最大の問題であるだろう。

2　百粁徒歩

1974年３月に第１回目が実施されて以来，今年(1986年)で12回目を数えるに至った。この間の報告は全附連において，1974年(第１報)，1977年(第２報)，1983年(第３報)がなされており，冊子にまとめられている。ここでは他の自治会行事同様21期生と27期生が，それぞれ中心になっておこなった２年次の百粁徒歩を記載する。

第５回

1978年３月13日(月)～14日(火)

１年生　22期生　参加者182名
２年生　21期生
３年生　20期生

○距離　68km

○コース（出発15時）(到着16時20分)

近鉄榛原駅－大神神社(夕食)－長岳寺－石上神社(夜食)－白河溜池－円照寺－奈良公園(朝食)－滝坂道－峠の茶屋－円成寺－山口神社(昼食)－南明寺－八坂神社－国鉄笠置駅

○地図

第11回

1984年３月12日(月)～13日(火)

１年生　28期生　参加者135名
２年生　27期生
３年生　26期生

○距離　80.1km

○コース(出発11時)（到着15時45分)

近鉄壺阪山駅－高松塚(昼食)－近鉄朝倉駅－大神神社(夕食)－石上神社(夜食)－奈良公園(朝食)－滝坂道－峠の茶屋－円成寺－山口神社(昼食)－南明寺－八坂神社－国鉄笠置駅

○地図

○「何故百粁徒歩をやるか」冊子より

百粁徒歩に求めるもの

①「社会」と「高校生」

どこかおかしいんじゃないか。何か狂ってはいないか。今の社会を見て思う。そしてふとまわりを見回しただけで，たとえば新聞を読んだだけで，「やはりおかしい」と確信する。—議員選挙。「あの党はおかしい」。「あの人は間違っている」，「あんな考えでやってゆけるものか」相手をけなす。じゃあ，あなたはどうするんですか。別に何があるわけでもない。ありきたりの問題，医療問題，老人問題云々云々とならべる。そして形だけの解決策を述べる。(中略)　どうしてこんな社会になってしまったんだろうか。僕は大人には全くといっていいほど〝純粋さ〟がないからだ，と考える。利害関係が常にからむ世界で，体のどこかに持っているはずの〝純粋さ〟が奥底に埋もれ，自分自身にそれがあることすら見失っているのだと思う。しかし，我々は利害関係など全く持たぬ「高校生」だ。純粋な気持ちで，求めたいものを求めることができるのだ。そして我々の求めるもの，それは我々の思う「理想社会であり，僕の呼ぶ「附高の世界」である。そんなものは無いかもしれぬ。しかし，「ある」と信じて求めることの出来る，生涯二度と訪れてこぬかもしれぬ時期に，我々はいるのだ。それは素晴しいことだ。つまり，純粋さを失わず，その状態から行動するということは，おそらく「真理」と呼ぶべきものの追求につながるのであるから。　(以下略)

(2.「附高」その現状と「附高の世界」—略す。)

③　現状打破のための「体験」

他人が勝手に「何か」をしている。その「何か」は何かわからないが，その「何か」は疑いもなくすばらしい「何か」である。だから何も干渉する必要はない。「勝手」にやらせておけばいい。—そんな世界を附高に求めたい。そのためには「疑い」があってはならない。では，どのようにして「疑い」をなくすか。

「疑い」がおこるのは，他人を一人のすばらしい人間として認めていないからではないか。

○「何故百粁徒歩をやるか」冊子より

・非日常性について

普段の私達の生活は平凡である。確かに，それが魅力的な時もあり，落ちつ着いて暮らせるといういい点もある。しかし，だからと言って，平凡な生活だけに満足してはいけない。

平凡な，繰り返しの生活において，私達は，活力を失いがちだ。その反動として，不満を持つ事がある。しかし，たいていは，それにどう対処すればよいか判らない。また，その不満を持つ事すらないのは，平凡な生活の中で，すでに自分を見失っているのだと思う。

このような状態では，自分を生かせず，可能性を埋もらせてしまうだけだ。そうでなく，私達のそれぞれの個性と可能性を発揮させ，自分を大切にする事が必要だ。なぜなら，それが自己の発展につながるからだ。

この状態から抜け出すきっかけとして，百粁徒歩を考えてみたい。百粁徒歩は，非日常的な行為であり，普段とは異った環境に自分を置く事になる。だからそこには，いつもとは別の自分が生まれるはずだ。その自分から，今までの自分と，その生活を省りみる事が，現状認識への大きな助けとなるだろう。そして，それが，日常に何らかの変化を与えるきっかけとなると考える。

・「歩く」という動作について

「歩く」という動作は，人間のすべての動作の中でも最も基本的なものであり，いつも生活の中心に置かれてきた。何かをするには，物理的また精神的意味においても「歩く」という動作が，かかわってくる。

また，「歩く」ことは，どんな用具や技術も必要でない。つまり百粁徒歩のために新しく器具買ったり，時間を割いて練習する必要もない。必要なのは，自分の二本の足のみだ。こう考えてくると，この行事に，だれでも取り組む事が出来ると言える。そして，それは多くの人が参加でき，多くの人と接する機会が出来るのだといえる。つまり，多勢の人達と意気投合する事が出来，助け合い，励し合えるのだ。

もう一つ，「歩く」という動作は，一般的に言って，日常的な動作である。私達は，そういう日常的な動作でもって，非日常性を目指している。

また理論上「すばらしい人」だと思っていても，それを確認できることがないからではないか。では，どうすればよいか。僕はこう思う。「とんでもないこと（勿論，すばらしくとんでもないこと）を皆で一緒にすればいいじゃないか。」それを終えたあと，まず自分はすごいことをしたなあ，という感激がある。それ自体すばらしいことだ。しかしそれだけではない。他の人も皆，同じことをしている。自分と同じ苦しさを味わって，そして今，自分と同じ感激を味わっている。すごいことじゃないか。仮りに，馬鹿みたいだと思っていた人がいたとしても，この体験は，そいつを「すばらしい奴」として認めるのに充分な体験じゃないだろうか。しかし，反面，その体験は「みんなで」したということを体で感じられるような，どでかいことでなくてはならない。

僕は，その「体験」を「百粁徒歩」として実行したいと思う。それは，「みんなで」したということを実感できる「どでかい」行事であり，すなわち「疑い」をなくすことのできる行事である。

この行事は過去4回行われてきた。我々は，それに乗っかっている一面もある。しかしその求めるもの，目的とするものは毎回違う。今回は「附高の世界」への引き金としてのそれをしようと言っているのである。前にも述べた通り，新しい所から出発しようと言っているのである。（4．実際の「百粁徒歩」一略す。）（第5回実施草案より）

○参加形態

原則として1・2年生全員参加としたが実際の参加者は180名であった

○実施について（実施草案の目次）

序　百粁徒歩に求めるもの
1　実施期日
2　実施コース
3　参加
4　講習
5　班

これは，普段の生活においても，自分自身の物事に対する取り組み方を考える事によって，新たな可能性を見い出せるという事を意味する。こういう事が，自分の身体を通して実感できるのは，百粁徒歩ならではであると考える。

・社会とのかかわりについて

百粁徒歩は，公の社会の中で行う行事である。

私達は，日々の生活において，なれあいで物事を済まし，身勝手な生活をしているところがある。それは，自分が附高という集団の中にのみ存在しているところから，生まれているように思う。社会に対する甘えがあるのだ。だから，そういう立場から離れ，社会との関係を認識し，自分に対する責任について考えるべきだ。

百粁徒歩は，絶えず，誰かに何らかの迷惑をかけずに実行出来ない。それは，真夜中に200人近くの人間がたてる足音や，レスト場所での付近の人々に対する迷惑であったりす。つまり，百粁徒歩を歩く時，身勝手な行動を取る事は許されない。常に，自分の行動に対する責任を考えなくてはならないのである。これから社会との関係を増してゆく，この高校時代において，附高という枠を離れ，社会の中の自分を見つめる事は，自分の存在を明確にし，より大きな視野を持つことになるだろう。

○参加形態

自由参加とした。しかし「理想は自発的な意志で，全員が百粁徒歩を歩く」とした。

○実施について（実施草案の目次）

1．実施日　1-1　実施日
　　1-2　コース
　　1-3　参加

2．実行委員会　2-1　設置及び構成
　　2-2　任務
　　2-3　説明会

6　班長下見
7　集合
8　出発
9　行進
10　チェックポイント
11　レストポイント
12　食事
13　制限速度
14　車，通信
15　前進停止
16　断念
17　奈良
18　迷うこと
19　中止
20　解散
21　帰宅後
付　予定コース地図

3．班－3－1　班
　　3－2　班長
　　3－3　区間講習
4．特別隊　4－1　特別隊
　　4－2　構成
　　4－3　P隊
　　4－4　A隊
　　4－4　A隊
　　4－5　M隊
　　4－6　通信
　　4－7　車隊
　　4－8　本部
5．集合　5－1　集合
　　5－2　出発式
　　5－3　遅刻
6．行進　6－1　行進
　　6－2　班間
　　6－3　休息
　　6－4　食事
　　6－5　人間道標
　　6－6　第2種道標
　　6－7　ルートマップ
　　6－8　コースタイム
　　6－9　コースの変更
7．中止　7－1　出発式
　　7－2　出発後
8．断念　8－1　断念
　　8－2　断念者の収容
　　8－3　奈良
9．迷った時　9－1　迷った時
　　9－2　本コースへ廻り道できなかった場合
　　9－3　連絡
　　9－4　探索
10．解散　10－1　解散
　　10－2　帰宅後
11．付記　11－1　雨具
　　11－2　火気厳禁
　　11－3　買物
　　11－4　中物品について）
　　11－5　さし入れ
　　11－6　（行動について）

上記の目次にある内容について，第11回の実施草案を例として載せる。

1　実施日

1-1 実施日

昭和59年３月12日(月)～13日(火)

- この日は月齢８で明るいので夜間道に迷いにくい。
- 実施には２日間必要であり，また次の日には休養をとる必要なある。従って試験休み中のこの日に実施する。
- この日は極力クラブの合宿，練習等は避けてもらいたい。
- この行事は教官その他の多大な協力を必要とするため予備日がとれない。よって当日悪天候等で実施不可能な場合中止する(7-1 出発後の項参照)

1-2 コース

近鉄吉野線壺阪山駅西，高取町健民グラウンド(奈良県高市郡高取町)より橿原市，桜井市，天理市，奈良市を経て国鉄関西本線笠置駅前（京都府相楽郡笠置町）に到る全長約80.1kmとする。

- このコースのうち金屋～奈良は山の辺の道，奈良～笠置は柳街（どちらも東海自然歩道）を通る。道標が多く，よく整備されているので迷いにくい為である。
- ３月上旬に参加者全員にルートマップを配布する。
- 当日の状況によりコースを変更する場合がある。変更については6-9コースの変更の項参照。
- 詳しくは折り込み地図参照。

1-3 参　加

参加資格のある者は１・２年生全員とする。

- 自治会行事であるから全員参加が望ましいが，百科徒歩は非日常性の伴う行事であるから参加には種々の障害がつきまとう。これは個人差があるので，各個人で判断してもらう外ない。
- 身体の都合上どうしても歩けない者は〔C. P〕人員として参加できる。
  それ以外は認めない。
- ２月中旬に参加申し込み用紙を配布し，参加，不参加を決定する。これ以後新たに参加することは出来ない。
- 百粁徒歩参加者は集団の中でそれぞれ責任ある行動をとらなくてはならない。これは百粁徒歩が危険を伴う行事であるからだけでなく，沿道の住民に非常に大きな迷惑を及ぼすからである。よって，各個人に対して全体と同等の重い責任と自覚が要求される。このことをよく踏まえた上で参加して頂きたい。
- 百粁徒歩は各個人が己の力で歩くことを目指す行事である。従って各個人は個々で責任の取れる行動をとらねばならない。
- 百粁徒歩参加者は後述の説明会等に参加することを当然の義務とする。
- 参加には保護者の承認を必要とする。

2　実行委員会

2-1 設置及び構成

代表委員会でこの草案が可決されてから，３日以内に百粁徒歩実行委員会を設置する。

- 各クラス男女一名以上の委員及び執行部４名により構成される。
  挙手権は各構成員一票ずつ，但し委員長の判断で議題により挙手権を変更することができる。

2-2 任　務

百粁徒歩実行委員会は，百粁徒歩実行にあたって，参加の呼び掛け及び以下に述べる仕事，その他を行う。

- 参加申し込み，ルートマップ作成，健康診断等の事務を行う。
- 参加者全員に対して，事前に説明会を行う。

2-3 説明会

重要な集会であるので無断欠席者は参加出来ないこともある。

- 当日の説明，適切な歩き方の指導及び諸注意を行う。
- 班編成もこの時行う。

3　班

3-1 班

- 班は各自自由に構成できる（男女混合は不可）行動中の会話等も百粁徒歩の大きな要素であり，気の合った者と班を作ることが望ましい。

3-2 班　長

- 各班において班長１名，副班長２名を置く。班長は百粁徒歩終了まで班を統率し，班員の健康状態に留意する。副班長は班長を補佐する。これ以後参加者への伝達は班長を通じて行う。
- 班長が断念した場合，１回以上の下見経験者が班長代理となり，もしその班に班長代理に達する者がいなければ特別隊を派遣する。

3-3 区間講習

各班代表者に事故防止の為に特別行動の区間で区間講習を行う。

- 区間は　１）壺阪山へ大和朝倉（桜井市）
  ２）大和朝倉へ石上神宮（天理市）
  ３）奈良公園へ南明寺（へ笠置）とする。
- 班長及び副班長は必ず出席しなければならない。正・副班長が出席出来ない場合・代理を出し，各班が１区間最低一名参加していなければならない。
- 事前に講習会を設ける。

4　特別隊

4-1 特別隊

当日の全体の統率，安全確保の為に特別隊を設け，実行委員会より当日の運用を委嘱され，総隊長は最終決定権を持つ。

- 特別隊は全体に対して前述のことを行う為に行動する。従って参加者はその指示に従ってほしい。

4-2 構　成

特別隊員は下見経験者の中から実行委員長が任命する。

- 特別隊には総隊長のもとにパイロット（Pilot）隊，ミドル（Middle）隊，アンカー（Anchor）隊がある。以下，Ｐ隊，Ｍ隊，Ａ隊と略す。
- 詳しい事は実行段階で決定し，実行委員会の承認を得る。

4-3 Ｐ　隊

Ｐ隊は常に全体を先導し，ペースメーカーの役割を果たす。
また，前進，停止などの指示をＰ隊より出す。

4-4 Ａ　隊

Ａ隊は常に全体の最後尾を歩き，Ｐ隊との差を一定にし，全体のペースを守る役割を果たす。また，迷った班の捜索及び出発の際にチェックポイント，レストポイント（後述）の後始末を行う。

4-5 M　隊

全体の中間に位置し，そこでペースメーカーの役割を果たす。
また各班の監視，通報の中継も行う。

4-6 通　信

特別隊は無線により連絡を保ち常に全体の状況を把握していなければならない。

4-7 車　隊

車は教官の協力により１日以上動員し，次の〔C. P.〕に待機してもらう。

4-8 本　部

本部はam７時～pm８時は高校教官室，pm８時～am７時は宿直室とする。

5　集　合

5-1 集　合

３月12日（月）10時

高取町健民グラウンド（近鉄吉野線壺阪山駅西４分）

- 詳しい集合時は実行実行委員会で決定する。
- 前日は十分に休養を取っておく。
- 当日健康が優れず，参加しない者は必ず７時30分までに班長に連絡する。それ以降は本部へ連絡する。
- 遅刻は特別な場合を除き厳禁とする（詳しくは5-3遅刻の項参照）

5-2 出発式

準備が整い次第出発式を行う。

- 点呼をとる。
- 連絡事項，諸注意等を連絡する。

5-3 遅　刻

事故等やむを得ない場合を除き，原則として遅刻は認めない。

- 遅刻者は集合時刻までに本部と連絡を取り指示を仰ぐ。
- 詳しくは当日総隊長が判断する。

6　行　進

6-1 行　進

各班は常にパイロット隊とアンカー隊の間を歩く。歩行中，他の班を故意に追い越してはいけない。

6-2 班　間

全コースを次の５区間に分ける。

１）高取町健民グラウンド～高松塚（約 2.9km）
２）高松塚～大神神社　　（約22.5km）
３）大神神社～石上神宮　　（約11.1km）
４）石上神宮～奈良公園　　（約28.8km）
５）奈良公園～笠置駅前　　（約22.8km）

1)，4)の区間では全体を４つ前後のブロックに分け，全体行進する。
2)，3)，5)の区間では班間２分30秒の班別行動とする。

- 1)の区間は百科の最初の区間であり，行進のペースを覚えてもらうために全体行進とする。
- 2)の区間は昼間であり，道標も何ヶ所かあるので，前の班が見えなくてもルートマップを見ながら班毎で歩ける。
- 3)の区間は，夜間ではあるが山の辺の道（東海自然歩道）であるので，道標も多くよく整備されている。この為，ルートマップを見ながら十分班毎で歩ける。

• 4)の区間は迷いやすい上，ちょうど真夜中から明け方となり，最も眠たくなって注意力が散漫になりやすい。よって全体行進とし，特別隊の監視の眼が行き届く様にする。

• 5)の区間は柳生街道（東海自然歩道）で道標も多く，よく整備されている上昼間なので班別行動が可能である。

6-3 休　息

安全確保の為に約1時間に1回，チェックポイント〔C.P.〕，レストポイント〔R.P.〕で休息をとる。原則として他の地点で休息をとらない。但し，天候等により，位置を変更することがある。

• チェックポイントでは，人員点呼，時間調整，休息等を行う。
1)，4)の区間では特別隊が以上の指導を行う。2)，3)，5)の区間では〔C.P.〕人員を1ヶ所につき2人以上配備し，以上の指導を行う。また非常時には，〔C.P.〕人員は適切な指示を出す。

• レストポイントでは10分間休息する。レストポイント到着時刻もペース調節の目安とする。2)，3)の区間では，レストポイントに〔R.P〕カードを置き，到着時刻，その他を記入する。P隊が後続の班に順に回していき，最後にA隊が回収する。

6-4 食　事

食事は以下の5ヶ所でとり，いずれも持参の弁当とする。

高 松 線－昼食（最低　35分間）
大神神社－夕食（45分間）
石上神社－夜食（最低　55分間）
奈良公園－朝食（最低　60分間）
山口神社－昼食（30分間）の5食とする。

6-5 人間道標

班別行動2)，3)，5)の区間において，ルートマップだけでは間違いやすい地点に人間道標を配備する。

• 人間道標はP隊が1ヶ所につき2名以上出し，最後はA隊に合流する。

• 人間道標は正しい道順を各班に指し示すと共に，班員の点呼，異常の有無の確認等を行う。

6-6 第2種道標

ルートマップを見ても間違いやすい地点で，人間道標を配布していない所には第2種道標を置く。

• 第2種道標は実行委員会で作製する。

• 第2種道標はP隊が所定の位置に置き，A隊が回収する。

6-7 ルートマップ

全コースの詳細なルートマップを参加者全員に配布する。
各自は必ずこのルートマップを見ながら歩く。

• ルートマップは受行委員会で作製する。

• 常に自分達が今，どこを歩いているのかを確認しながら歩くこと。

6-8 コースタイム

班間を一定に保つため，コースタイムを定める。〔C.P.〕，〔R.P.〕毎の到着，出発時刻，人間道標の通過時刻を目安にして，ペースを調節しながら歩く。

• 班数17班（and 特別隊3）

	㊐P隊㊏	㊐A隊㊐
壺 阪 山	11:00	11:15
高 松 塚（昼食）	11:46～12:21	12:01～13:06
大神神社（夕食）	18:36～19:21	19:21～20:06

	㊐P隊㊗	㊐A隊㊗
石上神宮(夜食)	22:34～ 0:00	23:19～ 0:15
奈良公園(朝食)	6:32～ 7:37	6:47～ 8:22
山口神社(昼食)	11:30～12:00	12:15～12:45
笠置駅前	15:00	15:45

・ペースは平均4 km/h

・詳しいコースタイムは特別隊で決定し，実行委員会の承認を得る。

6-9 コースの変更

降雨，時間の遅れ等により，コースを変更する場合がある。
変更の決定は特別隊が下す。

・特別隊は変更したコースを通る旨を全隊に連絡し，混乱，事故，事故等の起こらぬ様，留意する。

・変更後の行動は状況により特別隊が判断する。

7 中 止

7-1 出発前

前日に中止を決定した場合，前日中に参加者全員に，班長を通じて連絡し，連絡出来なかった場合，当日出発地で点呼をとり解散する。当日，降雨その他で，出発地で中止になった場合は，点呼をとり解散する。その場合，〔C.P.〕人員には，その代表者に連絡し，後は連絡網で知らせる。

・参加者は中止の連絡がない限り，当日，出発地に集合する。

7-2 出発後

途中で中止になった場合は，全体で隊を崩さず，駅またはバス停に向かい，そこで点呼をとり解散する。途中で中止の指示を出す場合，3)，4)の区間では交通機関が動いていないので，極力大神神社以前で中止の判断を下す様にする。

・中止の判断は実行委員長，特別隊総隊長，及び自治会長が協議の上，最終的に総隊長が下す。

・中止の判断基準及び中止後の行動の詳細は実行段階で検討する。

8 断 念

8-1 断 念

途中でどうしても歩行を続けることが出来なくなった場合は，断念する。自分が断念したいと思ったら，無理せずに班長にそのことを告げる。もちろん完歩することが望ましいが，体力には個人差があり，当日の体調も一様でない。従って途中で断念しても個人の限界まで歩くということは十分に意義のあることである。断念者の出た班は，その場に停止し，特別隊の到着を待つ。

・班別行動の区間(2)，3)，5))の場合，後続の班は断念者の出た班を追い抜き，断念者発生を次の人間道標または〔C.P.〕人員に連絡する。
断念者を収容したA隊はP隊に連絡し，P隊は大神神社または石上神宮で全体を停止させる。

・停止後の行動は，状況により特別隊が判断する。

8-2 断念者の収容

特別隊は断念者の氏名等をすぐ本部へ連絡する。また，断念者は帰宅後すぐ本部へ本人が連絡する。

1）断念者がまだ歩ける場合

特別隊に加わって次の〔C.P.〕まで歩く。そこから付き添い人と共に最寄りの駅またはバス停に行き，そこから1人で帰宅する。夜中で交通機関が動いていない場合，車に乗って朝まで待ち，奈良での断念者と共に帰宅する。

2）断念者がどうしても歩けない場合

あらかじめ教官と連絡して，場所を指定出来るようにしておく。

そして特別隊員がおぶって，車の通れる所まで連れていき，地点を連絡して車に来てもらう。班別行動の区間で車が来るまで30分以上かかる場合はＰ隊は次の〔C. P.〕で全体停止させる。

3）急病，負傷等で手当てが必要な場合

車で最寄りの病院へ運ぶ（車については4-6参照）。

4）断念者が一人で帰宅出来ない場合

必要に応じて班員もしくは特別隊員が付き添って自宅まで送り届ける。

8-3 奈　良

奈良の大休止の時，全員に対して検診を行う。異常のある者は断念する。

- 健康調査票を１つ手前の〔C. P.〕で配布，記入してもらう。
- 奈良以降はルートマップを見ながら慎重に歩かねばならないので，疲れ等で注意力が散漫になっている者は断念すること。
- 断念者は本部のＰ隊出発時に近鉄または国鉄奈良駅へかたまっていく。その他は8-2の項に従う。
- 断念者によって班員数にアンバランスが出た場合には，班の再編成を考える。しかし，班の人数が多くなり過ぎない様に注意する。

9　迷った時

9-1 迷った時

おかしいなと思ったらすぐその場で停止し，次の班が来るのを待つ。停止後10分たっても次の班が来なければ，迷ったと判断し，来た道を戻って確実にコースだと確認出来るところまで戻り，他の班または特別隊が来るのを待ち合流する。

9-2 本コースに復帰出来なかった場合

本コースがどこか分からなくなってしまった班は，Ａ隊が次の人間道標，あるいは〔C. P.〕に着く時間の20分後まで，コースと思われるところで待つ。それでも救助されなかった場合は，なんとかして電話を見付け，本部に10分間隔で連絡し，指示を仰ぐ。

- 各班で地図及びコンパスを最低１つ用意しておく。
- 2)の区間では，北に進めば国道165号線が，3)の区間では西へ進めば県道があり，随所に電話がある。
- 詳しくはルートマップを見れば分かるようにしておく。

9-3 連　絡

特別隊員が，人間道標または〔C. P.〕で迷った班があることを確信したら，Ａ隊へ何らかの方法で連絡する。迷ったという連絡があったら，Ｐ隊は復帰の連絡があるまで大神神社または石上神宮で全体を停止させる。

9-4 捜　索

Ａ隊は迷った班があることがわかったら，人員をさき捜索隊を編成すると同時に，Ｐ隊に連絡する。捜索隊はトランシーバーによってＡ隊との間に密接な連絡を保つ。20分間捜索しても発見出来ない場合はＡ隊に合流する。Ｐ隊の一部は捜索隊が捜索を打ち切ったら本部に連絡し，迷っている班と連絡がとれるまで上記停止地点で待つ。どうしても連絡がとれなかった場合は，停止地点で中止とする。迷った班が発見された場合の行動や中止の判断は，当日特別隊が決定する。

10　解　散

10-1 解　散

- Ａ隊到着後解散式を行い，諸連絡の後解散する。
- 相当疲れているので気をゆるめず，まっすぐに家へ帰ること。
- 途中で中止のときの解散は，７の中止の章参照。

・帰宅するまで百粁は終わらない。そのことに留意して帰宅すること。

10-2 帰宅後

帰宅したら全員がすぐ本部（学校）へ本人が電話すること。

・絶対に連絡を忘れない。

・帰宅後は十分休養をとること。

11 付 記

以下の条文を付記とする。この付加された条文は重要であり，守られなければならない。極度にこれを逸脱するものについては特別隊が適当な処分を行う。

11-1 雨 具

ポンチョ等の全身及び荷物を覆うことの出来る雨具と傘を必ず持参しなければならない。

・降雨の場合、両方が絶対必要であるので，忘れた者は参加出来ない。

11-2 火気厳禁

当日は火気厳禁

・コース周辺には人家，寺院，森林等が数多く存在し，万一出火した場合，これ等に多大な被害が出る。これを未然に防ぐ為に火気厳禁とする。

・カイロは使い捨てカイロのみとする。

11-3 買い物

当日は買い物厳禁とする。

・多くの参加者が買い物をするとその地域の住民に迷惑がかかる，またゴミ等も大量にできる，等からである。

11-4 用 具

実行委員会が指示及び適当と認めた物以外持ってきてはならない。但し，実行委員会が特別に認めた場合はこと限りでない。

11-5 さしいれ

当日さしいれは禁止する。

11-6 その他

沿道の住民に迷惑を及ぼす行為（人家の前でさわぐ，夜間，ライトを人家に向ける等）は厳禁とする。

特別隊から指摘された者は以後注意すること。(1-3参加の項参照)

・ゴミは全て持ち帰りとする。

第9回百粁徒歩実施の際の教官役割分担表

ポイント・チェック	健民グランド	高松塚古墳	小山田	御厨子観音	聖林寺	倉橋溜池	朝倉	大神神社	山田T・O	集荷場	園原町	石上神宮	名阪国道	弘仁寺	杉田街道	山村御殿	藤原町	白竜寺	奈良公園	四阿	峠の茶屋	円成寺	山口神社	南明寺	柳生陣屋跡	笠置
出発時刻（P隊）	3/12 12:34	13:50	14:42	15:39	16:48	17:59	18:47	20:19	21:36	22:20	23:01	3/13 1:00	1:58	2:58	3:47	4:34	5:19	6:17	7:59	9:09	10:09	11:24	12:26	13:09	14:00	15:59	A隊着
先頭責任者（徒歩）	浅野													田中								高木				
	本間・横田																									
	網・奥・柴山・塚磨・東元																				篠原・峰地					
	田原・平林																									
	井畑・岩城																									
車付添	浜谷							浦久保・河野・白土													千種					
宿日直	・Tel 篠原									・Tel 篠原										・Tel 武田				越智 桜井 田村	塚磨	

救護
奈良公園で，上林先正・横本先生による全員検診

緊急の場合
赤崎医院
天理整の家
天理　明城詰所
中井医院

○第5回百粁徒歩

執行部から自治会行事として提案された。その意義は「現状の附高と個人の見直し」であった。この年度より，班別行動区間が設けられるようになった。道標が多くて道に迷いにくい区間として，夜間の大神→石上間を班間2分で歩き，奈良→笠置間を班間4分とした。これは本来の自分の力で歩くという事に大きく近付いたと言えるだろう。なおこの年度より，ルートマップが作られるようになった。

○第11回百粁徒歩

執行部から自治会行事として提案された。その意義は「非日常的体験を附高生全員で共存しよう」であったが，百粁徒歩そのものが「日常化」して来たのではないだろうかと実施後反省している。第4回の68kmのコース距離は毎年すこしづつ延び，この第11回で80.1kmまでになったが，時間的にも体力的にも，そろそろこの距離も頭打ちになるだろう。新たな視点が必要である。

※なお，1985年度の百粁徒歩は，コースを大幅に変更し，平城京跡から南へ山の辺の道を通り，明日香を抜け石舞台から柏森，芋ヶ峠を経て吉野川宮滝に出て吉野山に登り近鉄吉野駅に出る約82のコースで実施された。

3　音楽祭

21期生と27期生がそれぞれ2年生の時の音楽祭を記する。

1977年12月19日（土）（於小講堂）

1年生　22期生
2年生　21期生
3年生　20期生

1983年12月3日（土）（於小講堂）

1年生　28期生
2年生　27期生
3年生　26期生

（前詞）

「年の瀬も近付いて来て，街を吹き抜ける風も冷たくなって来ました。そして，12月は音楽祭の季節です。今年は21団体（12クラスを含む）実質350人が参加して，この日を目指して練習を重ねて来ました。

さあ，今日はいよいよ音楽祭です。何もかも忘れて思いっきり歌いましょう。私たちの歌声で北風も吹き飛ばしましょう。

一つの歌声が，どんどんひろがって，学校中にひびき……素晴しい音楽祭を作ろう！　そして，あなたの心に何かがそどきますように」(委員長)

（プログラム）

1：00　開会・テーマソング(新しい友達'77)

1：10　Ⅰ－B「みんなの歌メドレー」

Ⅱ－C有志「たとえば」「塔の春」

バレー部「アヴェヴェルムコルプス」「カノンメルツエン」

演劇同会「(店頭発表)」

2：05　Ⅰ－C(有)「パチンコランランブルース」

Ⅲ－A「眠れぬ夜」「愛の賛歌」

Ⅱ－B「マイ・ウェイ」

Ⅰ－C「はるかな友に」「七つの水仙」「サイレントナイト」

3：00　唱歌集をうたう会「荒城の月」「はにゆ

（前詞）

「今年も音楽祭をやることになりました。昨年とくらべて，今年は有志段階での話しあいでもあまり積極的なものは見られず，昨年までやってきたのだから…という色合いの濃いもので，また附高生全体の音祭意識は低く特に２年生の場合，音祭実行の賛成者という人はごく少数で先行きがあやぶまれていました。それがそのままプログラムの方にもひびいて有志は３つでそのうち２つは毎年恒例のものです。委員会の方も定足数に達しないことがしばしば。委員長になった僕も責任を感じたわりにはいいかげんで，数日前となってから，うろうろしていました。そのため，いたらぬ点が多々あると思います。おわびします。毎年のことのようですが，今年も音祭実行が決定してから当日までほとんど短期間で練習も充分に出来なかったかもしれません。しかしみんなで歌を作り，歌を作っていくことの楽しさは分かってくれたと思います。よくまとまっているクラスにはグランプリを初めとする各賞がありますし，また１年生には新人賞もありますので精一杯に歌ってください。」(委員長)

（プログラム）

1：25　集合

1：30　のど自慢大会

2：05　開会のあいさつ

2：10　３年有志「走って下さい」「ダンデライオン」

Ⅰ－C「オーバードライブ」「岬めぐり」

Ⅱ－B「さらば青春」「夏色の想い出」

Ⅲ－D「Somuch in love」「安

うの宿」「旅愁」等
Ⅰ－D（有）「サウンドオブミュージック」
Ⅱ－A「かいじゅうのバラード」「鳥になった少年」
Ⅲ－B「朝陽の中を」「悲しきレイントレイン」
3：55　休けい
4：10　コーラス「水のいのち」より
ToDaバンド
「（オリジナル）」
Pushmi-pullyu「ワインカラーのときめき」「あんたのバラード」
Ⅲ－C 恋する哲学者たち
「シェリーにくちづけ」「巣立つ日まで」
「青空の絵日記」
5：05　Ⅰ－A「誰もいない海」「この広い野原いっぱい」
Ⅱ－D エンゼルズ「ケサラ」
執行部とおともだち「都ぞ弥生」
Ⅲ－D「Tombstone to the Sky」「幼想」「涙をこえて」
6：00　ブラスバンド
6：10　成績発表，表彰
6：30　終了

※21期生が3年生の時に音楽祭で歌った歌は下記の通りである。(1978年12月2日)
Ⅲ－A「灯を高くかかげて」
「素足の世代」
「グッバイモーニング」
Ⅲ－B「切手のないおくりもの」
息の日々」
カヌー部とその友達
「Sweet memon'es」
「Hey Beppin」
Ⅰ－B「モルダウ」
「Someday Somewhere」
――休けい――
3：20　Ⅱ－D「松田の子守歌」「蒼いフォトグラフ」
Ⅲ－C「Someday」「愛と青春の旅立ち」
Ⅰ－A「21世紀」「Ya Ya」
Ⅱ－C「銀輪はうたう」「恋の季節」
Ⅲ－A「めぐり逢いはすべてを越えて」「時代」
寮歌愛好会「都鍋弥生」「北辰斜に」
――休けい――
4：30　Ⅰ－D「22才の別れ」「蒲田行進曲」
Ⅱ－A「X'masメドレー」
Ⅲ－B「旅姿六人衆」「想い出がいっぱい」
5：00　ブラスバンド
5：15　表彰，閉会のあいさつ
5：45　終了

※27期生が3年生の時に音楽祭で歌った歌は下記のとうりである。(1984年12月13日)
Ⅲ－A「幕情」「歌をあなたに」
Ⅲ－B「追憶」「私の唄」
Ⅲ－C「流浪の民」「明日に架ける橋」
Ⅲ－D「思いのままに」
「シュガーはお年頃」

「チコタン」
Ⅲ－C「フィッシュ・アンド・
チップス」「私の詩」
Ⅲ－D「地球はまわるよ」
「時代」「めぐりゆく季節」

21期生と27期生がそれぞれ中心になって行った2年生の時の音楽祭をプログラムで比較してみた。21期生の時は，有志参加も多く（7組），合唱に多くの時間を費しており，音楽祭に向けた情熱がうかがわれる。27期生の時は，その盛り上がりは2年生にはあまりなく，のど自慢大会を入れるなどしてなんとか盛り上げようと苦労していることが分かる。このように最近の音楽祭は3年生が熱心で2年生はなんとなく昨年あったから今年もという程度の気持ちしか出ないようである。

おわりに

中学校の生徒会活動は，委員会活動が中心となる。27期生の場合，規律規定が実施される年に当たり，改正に直接携わった先輩達が卒業していくなかで，「与えられた規律規定」になる事を憂える声がある。また，三附中交換会では，勝負にこだわる自分達を反省する声や，非常に魅力を感じている生徒もいる。

高等学校の自治活動の実体は，附高祭の中に見ることが出来る。文化クラブの発表の場から発展した附高祭は，文化クラブの日々の活動の低調さを反映して，発表内容は年々お粗末になり，反面前夜祭，後夜祭が派手になり，遊びの傾向が強くなっている。それぞれの附高祭で，中心になって活動した執行部及び少数の自治会員達は，生徒の無気力，無関心さ，などを異口同音に述べている。高校17期生に始まった百粁徒歩は，ロマンと附高生の現状打開への夢として始められた。この精神は，ごく少数になって来たかも知れないが，今日に受継がれている。今年（昭和60年度）は新しいルートを作るという事で，熱心な有志諸君が休日を返上して下見し，3月12，13日実施にこぎつけている。また，音楽祭では，年々によって中心的2年生の盛り上がりが違うけれども，最近では3年生が熱心になっているようである。

この10年間を通した，2つの学年について，生徒会，自治会の活動の記録を整理してみた。どんな些細な内容であっても，その行事に青春をかけた，少人数生徒達の汗がにじんでおり，これらの少人数の生徒達に附中・高は支えられているといえるだろう。中学校で生徒会役員を経験した生徒達の非常に多くが，挫折感を表明する。この事も含めて，中・高一貫した指導のあり方を検討しなければならない。

岩城　一郎
岡　　博昭
柴山　元彦
武田　和生
冨田　健治
中西　一彦

クラブ活動

§1　本校クラブ活動のねらい

本校のクラブ活動の目標と実践について，昭和60年度学校要覧から引用する。

1　クラブ活動のねらい

① 自主的な，しかも，規律ある生活態度を身に付ける。

② 各自の個性や趣味に応じて活動し，自己を知り，開発につとめる。

③ クラブの一員であることを自覚し，互いに協力してクラブの発展に寄与する態度を養う。

④ （体育）強健な心身を養うと同時に，社会性や指導性を身に付け，人格陶冶につとめる。

⑤ （文化）社会性を身に付け，視野を広め，人格陶冶につとめる。

2　クラブ活動

○各クラブは有名無実にならぬよう，常に教官の適切な助言のもとに，活発に活動すよう留意する。

○活動計画を慎重に立案し，十分な効果を上げるようにつとめる。

○対外活動については，顧問教官の助言及び指導のもとに活動するようにつとめる。

中学校

○クラブは参加を希望する生徒のみで構成し，クラブの運営，活動はクラブ員で行う。

○生徒は必ず1つのクラブに入部し，活動すること。

高等学校

○全生徒はいずれかのクラブ活動をすることが望ましい。

○生徒の自発的，自治的な活動を本来の目的とする。

経費

○クラブ活動の経費は生徒会費(中)，自治会費(高)の経費の一部が当てられる。（ただし同好会は除く），不足分はクラブ員がまかなう。

○各クラブの中学校体育連盟，高等学校体育連盟その他の加入金は学校でまかなう。

○対外行事などへの参加のための交通費，ユニホーム，個人的に使用する用具などはすべて自己負担とする。

§2　中学校におけるクラブ活動

1　クラブ活動参加状況の移り変わり

体育系クラブ

		昭51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
陸上競技	男	21	23	20	14	16	21	14	23	20	28
	女	14	12	8	9	15	10	12	17	24	24
	計	35	35	28	23	31	31	26	40	44	52
剣道	男	22	19	23	13	25	21	25	19	23	20
	女	4	10	6	3	6	7	6	3	8	13
	計	26	29	29	16	31	28	31	22	31	33
柔道	男	21	16	19	11	27	31	35	28	29	27
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	21	16	19	11	27	31	35	28	29	27
サッカー	男	40	36	42	23	48	50	46	46	52	60
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	40	36	42	23	48	50	46	46	52	60
バスケットボール	男	32	47	43	24	45	46	46	39	43	46
	女	19	30	34	20	25	27	24	29	24	25
	計	51	77	77	44	70	73	70	68	67	71
バレーボール	男	8	24	27	20	13	13	15	17	20	17
	女	23	19	21	13	18	21	25	19	13	18
	計	31	43	48	33	31	34	40	36	33	35
硬式テニス	男	41	30	45	29	35	35	36	42	41	35
	女	44	33	31	23	31	28	25	31	32	30
	計	85	63	76	52	66	63	61	73	73	65
卓球	男	19	22	27	26	27	17	14	20	29	28
	女	11	5	6	1	9	12	9	8	5	3
	計	30	27	33	27	36	29	23	28	34	31

全生徒の体育系クラブの部員の占める割合について，昭和50年度と昭和60年度を比較してみると，前者が66.3%，後者が77.1%となり約10%の増加率を示している。また，この10年間の体育系クラブの部員数は全体のほぼ7割～8割を占めており，体育系クラブに生徒の人気が集中しているようである。身体の成長期である中学時代に保護者や生徒自身が体育系クラブを選択したものと考えられる。各クラブについては，部員数において，それほど大きな変動はない。強いて言えば，世間一般に人気のあるスポーツについては，入部者数に多少の影響もあるようである。クラブによっては、これ以上部員数が増加すると施設面で多少の無理が生じ，活動に影響の出るところもある。各クラブの指導に当たる顧問教官は，それぞれの場面での適切なる指導を与えるべく，指導者講習会等にも参加し，研讃を積み重ねている。

文化系クラブ

		昭51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
社会科	男	7	9	9	5	8	6	12	12	11	10
	女	1	0	0	1	1	1	2	3	2	0
	計	8	9	9	6	9	7	14	15	13	10
数学	男	0	4	6	2	(廃止)					
	女	14	12	3	1						
	計	14	16	9	3						
科学	男	46	43	22	14	17	19	14	17	12	10
	女	9	13	11	9	4	5	6	4	3	3
	計	55	56	33	23	21	24	20	21	15	13
音楽	男	7	6	6	4	7	10	11	16	11	11
	女	13	19	21	17	26	25	27	25	27	28
	計	20	25	27	21	33	35	28	41	38	39
美術	男	1	1	0	0	1	3	2	2	0	0
	女	8	6	8	6	12	7	10	10	12	10
	計	9	7	8	6	13	10	12	12	12	10
技術	男	15	9	9	9	22	25	24	24	22	25
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	15	9	9	9	22	25	24	24	22	26
英語	男	7	6	11	8	17	12	19	3	1	0
	女	13	12	18	7	18	21	20	19	18	13
	計	20	18	29	15	35	34	39	22	19	13
書道	男	0	2	0	0	(廃止)					
	女	12	7	5	4						
	計	12	9	5	4						

体育系クラブの部員の占める割合が，7～8割なのに対して，文化系クラブの方は2～3割ということになる。もう少し詳しくみると，昭和50年度では33.6%が文化系クラブ員であったものが，昭和60年度では22.9%と，かなりの人数的な落ち込みを示している。スポーツに生徒の興味，関心があるということが，一つの大きな理由になるかもしれない。更には，現代っ子の特徴として，落ち着いて，じっくりと作業をするのが苦手であるということも大きな理由となろう。後者の場合はクラブ活動だけの問題に留まらず，他方面からも論議しなければならない問題であろう。さて，各クラブについての推移をみると昭和55年度に数学クラブと書道クラブが廃止されている。クラブの部員数が7名を欠いた時点でクラブの存廃が議論される。生徒自身の気持ちが尊重されることは言うまでもない。文化系クラブの活動は地味で発表の場がそれほど多く持たれていないので，顧問教官の指導には、かなり工夫が必要となり，生徒の意欲的な活動を引き出そうと努力を重ねている。クラブの顧問には，各クラブの指導にふさわしい資質を持つ教官を配当している。特に，教科との関わりを持つクラブには，教科担当の教官が配当され，生徒により適切な指導が出来ることを目指している。

2　クラブ活動の現状

本校のクラブ活動は，生徒全員が必ずどれか1つのクラブに入部しなければならない，クラブ全入制を採っている。しかも，必修クラブと課外クラブとが一体化した形態をしている。1年生でクラブ決定をすれば，原則として3年間同一クラブに所属し，意欲的に活動するよう指導している。そのため，中1のクラブの最終決定までに，文化系クラブ，体育系クラブの紹介・見学，そして，1週間の仮入部という，大変慎重な段階を踏んでいる。生徒は，その間に，自分の希望や適性，保護者の意見や助言を考慮して，中学3年間あるいは中・高6年間のクラブ活動を決定するのである。途中でのクラブ変更は余程の事がない限り認められないので，真剣に判断を下すように指導している。クラブ活動が学校生活においてかなり大きな位置を占めることは，想像に難くないであろう。

さて，クラブ組織の変遷の流れの中で，全校クラブ制から1人1クラブ制に変わり，現在は，それが定着しているのであるが，生徒のクラブ活動に対する意識はどうであるか，また，活動の実態はどのようになっているか，について，生徒からアンケート調査を行ってみた。この調査結果を基に，クラブ活動を更に効果的な教育活動の一環として意義付けていきたい。

〔クラブ活動実態調査（昭和60年12月実施）――中学校の部――〕

調査項目	体育系クラブ（245名中）	文化系クラブ（73名中）
1．現在のクラブを選んだ動機	○やってみたかった　151名 ○心身を鍛えるため　42名 ○小学校時代からやっていてさらに続けたかった　38名 ○友人にすすめられて　24名 ○より深い知識・技能をつけるため　21名 ○親にすすめられて　12名	○やってみたかった　47名 ○より深い知識・技能を付けるため　14名 ○小学校時代からやっていて更に続けたかった　6名 ○親にすすめられて　4名 ○友人にすすめられて　2名
2．クラブの週平均活動日数	1日―11名　2日―7名 3日―10名　4日―9名 5日―36名　6日―173名	1日―3名　2日―8名 3日―27名　4日―24名 5日―10名　6日―1名
3．クラブの活動日数について	ア．多すぎる　87名 イ．ちょうどよい　125名 ウ．少なすぎる　35名	ア．多すぎる　5名 イ．ちょうどよい　48名 ウ．少なすぎる　19名
4．1日の平均活動時間	ア．30分　12名 イ．1時間　150名 ウ．1時間半　75名 エ．2時間　1名 オ．3時間　1名	ア．30分　7名 イ．1時間　36名 ウ．1時間半　22名 エ．2時間　4名 オ．3時間　0名
5．クラブの活動時間について	ア．長すぎる　21名 イ．ちょうどよい　130名 ウ．短かすぎる　93名	ア．長すぎる　3名 イ．ちょうどよい　49名 ウ．短かすぎる　19名
6．自主活動について	ア．計画的におこなっている　53名 イ．時々おこなう　114名 ウ．特におこなっていない　74名	ア．計画的におこなっている　8名 イ．時々おこなう　29名 ウ．特におこなっていない　34名
7．クラブ員同志の人間関係について	ア．うまくいっている　91名 イ．ふつう　130名 ウ．うまくいっていない　29名	ア．うまくいっている　30名 イ．ふつう　38名 ウ．うまくいっていない　5名

調査項目	体育系クラブ（245名中）	文化系クラブ（73名中）
8．クラブ活動について家庭では	ア．支持してくれている　140名 イ．無関心　83名 ウ．反対している　21名	ア．支持してくれている　30名 イ．無関心　36名 ウ．反対している　7名
9．クラブ活動で一番楽しいこと、うれしいことは	○試合に勝つこと ○技術が向上すること ○人間関係がおもしろい ○共同でプレーするとき ○先輩や先生にほめられること ○たくさん練習できる ○先輩としゃべれること ○後輩が指示どおりに動いてくれる	○作品が完成したとき ○活動しているとき ○部員全員で何がする時 ○合奏できること ○結論にたどりついたとき ○興味あることができるとき ○友達がいること ○自由なこと
10．クラブへの今後の取り組みについて	ア．積極的に取り組んでいきたい　190名 イ．あまり意欲がなく違うクラブをしてみたい　36名 ウ．クラブはしたくない　19名	ア．積極的に取り組んでいきたい　61名 イ．あまり意欲がなく違うクラブをしてみたい　11名 ウ．クラブはしたくない　1名

前回行った調査結果と今回のものを比較し，特に顕著な点について考察しておく。調査項目1のクラブ選択の動機については，前回も今回も生徒の興味・関心によるものが体育系・文化系共に過半数である。項目2については前回と今回で大きな違いが見られた。体育系クラブにおいては，前回では，4日と5日がほぼ2・3割であったのに対して，今回では6日と答えたものが実に7割弱にも達している。一方，文化系クラブにおいても，前回は，1日というのがほぼ全員なのに対して，今回は，3日，4日というのが3割強ずついる。この結果より，クラブ活動がかなり活発に行なわれており，学校としてもかなり重視した生徒の活動と捕えているのである。また，この活動日数について，約半数の生徒はちょうどよいと答えており，生徒もクラブ活動を学校生活において、かなり大切なものとして考えているということが窺える。しかし，体育系クラブの3分の1の生徒は多すぎると答えていることも見逃せない。毎日，大変忙しい学校生活を送っており，生徒が，クラブ活動を初めとして，種々の活動に追いまくられているという状況がないかどうか，懸念する。項目4については、活動時間が下校時刻との関係から，1時間程度に集中しており，項目5において，生徒もやや少ないと感じながらも，大旨満足しているようである。項目6の自主活動については，体育系で3分の2，文化系で半数の生徒が行っている。項目7のクラブ内の人間関係については，ほぼ良好である。項目8の家庭での支持は，体育系・文化系で4～5割得ている。項目9の回答では，文化系では前回も今回も差は感じられないが，体育系では、試合の勝敗にやや固執する傾向が今回の調査に見られるのが，やや気になる点でもある。項目10の回答では，大多数の生徒が，意欲的に取り組んでいこうという姿勢が感じられる。全般的に，生徒のクラブ活動への取り組みについては，かなり意欲的，積極的であると認めることが出来，充実した学校生活を送るうえで，極めて，大切な活動となっている。しかし，少数の生徒が、異なるクラブを希望したり，クラブをしたくないと答えているという事実を見過ごすことなく，適切な指導をすることが必要である。更には，中・高を通じて，クラブ生徒を系統的に育てるという考えの基に，中・高生合同での活動も行われており，顧問教官の連絡も密となり，かなり成果を上げている。

クラブ活動個人カード

＿＿＿＿＿＿クラブ　＿＿年　＿＿組　＿＿番　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿										
クラブ活動を有意義にするためにこのカードを利用しよう。結果だけでなく，原因や理由についてもくわしく書こう。										
	項　　目	1　学　期			2　学　期			3　学　期		
1	今学期の具体的な目標									
2	目標達成のため，特に努力をしたことその結果									
3	備品、用具の管理活動場所の整備									
4	そ　の　他（例対人関係など）									
事　実　の　記　録										
出席状態（部長記入）		（　/　）			（　/　）			（　/　）		
出　席　率 A 80%以上、B 60%以上 C 60%未満		顧問印	担任印	保護者印	顧問印	担任印	保護者印	顧問印	担任印	保護者印

〔カード配布手順〕

1）１学期初めに，各クラブでカード配布。

2）各自の目標を記入後，部長が一括して顧問へ。

3）学期終了10日前に部長から配布。

4）各自反省文記入後，部長が出席を記録して　顧問へ。出席状態の一覧表をクラブ係へ。（１週間前）

5）顧問から担任へ。

6）担任から保護者へ。

7）学期初めに，目標を記入して各部長へ。

8）旧カードは学校で保管。

クラブ活動における評価として，生徒自身による自己評価法を現在においても採用しており，自主的かつ主体的な活動をその主たる目的としている。部長→顧問→学級担任→本人→保護者と回覧させてゆく事により，それぞれが活動状況とその評価を知ることになるということは現在も変わりないが，自己評価用紙の修正があったので、説明を付け加えておきたい。体育系・文化系クラブの区別をなくし，同一の用紙にした。しかも，各観点における評価をA，B，C，ではなく（出席率のみＡＢＣの評価を残している），文章表現による評価を取り入れた。これにより一層幅広い評価が可能になった。

最後に，クラブ活動の現状についてであるが，最近特に体育系クラブに入部者が偏り，文化系クラブの活動がどうしても低調になりがちである。体育系クラブのような華やかさはなく，地道な活動であるため，生徒自身の意欲にかかっている点で，顧問教官の苦労があるようだ。又，体育系クラブの中にあっても，レギュラー選手とそうでないものとの取り組み方の違い等，生徒自身の自主活動と言いながらも，顧問の指導性に比重がかかってくる。様々な問題点をかかえながらも，クラブ活動が人間形成の一環として果たす役割は大きく，私たち教官もこの活動を大切にして行きたい。

§3　高校におけるクラブ活動

1　クラブ活動参加状況の移り変わり

体育系クラブ

		昭51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
陸上競技	男	14	23	22	23	13	18	19	17	15	20
	女	6	11	9	14	14	11	9	5	6	6
	計	20	34	31	37	27	29	28	22	21	26
剣道	男	5	15	22	17	18	19	20	10	9	15
	女	0	2	4	8	13	18	19	11	7	11
	計	5	17	26	25	31	37	39	21	16	26
サッカー	男	12	26	17	21	21	24	21	21	33	28
	女	0	2	2	0	2	2	0	0	5	6
	計	12	28	19	21	23	26	21	21	38	34
バレーボール	男	9	14	11	12	17	18	12	17	12	18
	女	6	13	9	14	16	8	3	15	24	25
	計	15	27	20	26	33	26	15	32	36	43
バスケットボール	男	9	9	8	17	16	11	16	17	19	15
	女	12	15	9	11	16	16	18	10	11	9
	計	21	24	17	28	32	27	34	27	30	24
柔道	男	5	15	13	9	10	7	9	11	7	20
	女	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0
	計	5	17	13	9	11	8	9	13	7	20
硬式野球	男	12	21	23	26	25	13	16	20	20	15
	女	0	3	4	0	3	2	0	0	0	4
	計	12	24	27	26	28	15	16	20	20	19
卓球	男	7	15	19	16	18	7	11	15	17	17
	女	10	17	13	8	9	2	4	5	4	6
	計	17	32	32	24	27	9	15	20	21	23
硬式テニス	男	19	22	22	21	17	24	19	17	22	21
	女	6	18	22	17	13	8	6	11	9	13
	計	25	40	44	38	30	32	25	28	31	24
ワンダーフォーゲル	男	4	9	14	10	11	20	20	17	9	10
	女	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	計	4	9	14	10	11	20	22	17	9	10
カヌー	男	6	12	12	11	15	14	(廃部)			
	女	1	2	2	0	3	4				
	計	7	14	14	11	18	18				
体操 (S.54, S.55は同好会)	男				0	2	2	2	0	0	0
	女				10	11	15	13	20	16	23
	計				10	13	17	15	20	16	23

文化系クラブ

		昭51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
化学	男	4	3	5	6	4	6	0	6	6	3
	女	4	1	2	0	3	0	0	3	0	0
	計	8	4	7	6	7	6	0	9	6	3
生物	男	4	2	10	13	10	10	8	6	2	3
	女	6	2	6	8	6	0	1	2	4	3
	計	10	4	16	21	16	10	9	8	6	6
地理・歴史	男	7	14	11	14	26	26	25	24	8	12
	女	9	9	8	3	8	5	6	12	3	3
	計	16	23	19	17	34	31	31	36	11	15
地学	男	6	7	14	22	12	10	14	15	12	11
	女	2	2	7	6	6	2	7	6	3	15
	計	8	9	21	28	18	12	21	21	15	26
E．S．S	男	2	5						0	1	3
	女	4	3						8	4	1
	計	6	8						8	5	4
美術	男	0	0	4	0	1	8	3	0	0	2
	女	4	5	12	16	6	5	1	6	7	4
	計	4	5	16	16	7	13	4	6	7	6
音楽	男	14	22	16	12	10	9	10	9	2	7
	女	19	13	19	8	11	14	17	14	10	12
(S.56から吹奏楽)	計	33	35	35	20	21	23	27	23	12	19
文芸	男	6	1	4	9		7			9	7
	女	5	4	7	5		0			2	2
	計	11	5	11	14		7			11	9
鉄道研究会	男	8	5	12	10						
	女	0	1	1	0						
	計	8	6	13	10						
園芸同好会	男	0	4								
	女	1	5								
	計	1	9								
落語研究会	男	6	3								
	女	0	0								
	計	6	3								
囲碁・将棋	男			11	14	11	19	22	24	12	8
	女			4	0	0	0	0	1	1	1
	計			15	14	11	19	22	25	13	8
写真	男	1	9	9	16	12	7	7	9	12	17
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
	計	1	9	9	16	12	7	7	9	15	25

		昭51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
物理	男	5	9	0	6	12	6	15	9	4	12
	女	0	0	0	2	3	1	0	3	0	0
	計	5	9	0	8	15	7	15	12	4	12
新聞局	男	2	2	4	11	0	8	10	2	0	0
	女	0	2	0	2	0	1	9	2	1	0
	計	2	4	4	13	0	9	19	4	1	0
放送局	男	16	10	6	10	11	17	22	22	10	22
	女	3	12	10	5	11	15	12	8	8	5
	計	19	22	16	15	22	32	34	30	18	27
陶芸版画同好会	男		8	4	1	1	3	5	1	2	2
	女		0	0	0	4	2	2	1	1	5
	計		8	4	1	5	5	7	2	3	7
数理学研究会	男								12	9	5
	女								0	0	0
	計								12	9	5

〈注1.〉斜線部は，そのクラブ，同好会の存在しないことを示す。

〈注2.〉この表に示さなかった短命の同好会，研究会を以下に示しておく。

○朝鮮語同好会（51年・52年）　○演劇同好会（52年・53年・54年）

○書道同好会（52年・53年・54年）　○映画同好会（53年・54年・55年）

○家庭科同好会（52年）

〈注3.〉新聞局の数字は有志局員のみを示してある。

2　クラブ活動実態調査　（昭和60年11月実施）

回答数

高1	87名
高2	85名
高3	88名
総計	260名

〈注〉3年生は殆どの者が調査時にはクラブを引退しているため，2年生の時のことを考えて回答させた。

調査項目

1．現在クラブに所属していますか。（人数）

	所属している（体育系・文化系）	所属していない
1年	77（56・21）	10
2年	52（42・10）	33
3年	63（49・14）	25
総計	192（147・45）	68

クラブに所属していない理由

○途中退部	18名
○入りたいクラブがない	15名
○勉強（その他）のため，時間がない	13名
○なんとなく	4名

調査項目	体育系（147名中）	文化系（45名中）
2．現在のクラブを選んだ動機	○中学校からやっていて，さらに続けたかった 60名 ○やってみたかった 58名 ○心身を鍛えるため 20名 ○友人にすすめられて 9名 ○親にすすめられて 1名 ○より深い知識を得るため 1名	○やってみたかった 30名 ○より深い知識を得るため 11名 ○友人にすすめられて 4名 ○中学校からやっていて，さらに続けたかった 1名
3．クラブの週平均活動日数	1日－　名　2日－　名 3日－4名　4日－15名 5日－19名　6日－111名	1日－7名　2日－7名 3日－4名　4日－6名 5日－6名　6日－15名
4．クラブの活動日数について	ア．多すぎる 14名 イ．ちょうどよい 119名 ウ．少なすぎる 11名	ア．多すぎる 4名 イ．ちょうどよい 36名 ウ．少なすぎる 4名
5．1日の平均活動時間	ア．1時間 3名 イ．1時間半 21名 ウ．2時間 103名 エ．3時間 8名 オ．その他 12名	ア，1時間 11名 イ．1時間半 8名 ウ．2時間 19名 エ．3時間 1名 オ．その他 3名
6．クラブの活動時間について	ア．長すぎる 6名 イ．ちょうどよい 111名 ウ．短かすぎる 31名	ア．長すぎる 2名 イ．ちょうどよい 36名 ウ．短かすぎる 1名
7．自主活動について	ア．計画的におこなっている 29名 イ．時々おこなう 69名 ウ．特におこなっていない 46名	ア．計画的におこなっている 10名 イ．時々おこなう 21名 ウ．特におこなっていない 14名
8．クラブの現状について	A）指導者について ア．今のままでよい 100名 イ．適当な指導者がほしい 49名 B）顧問について ア．今のままでよい 122名 イ．不満である 22名 C）クラブ員同志の人間関係について ア．うまくいっている 91名 イ．ふつう 50名 ウ．うまくいっていない 7名	A）指導者について ア．今のままでよい 34名 イ．適当な指導者がほしい 9名 B）顧問について ア．今のままでよい 40名 イ．不満である 4名 C）クラブ員同志の人間関係について ア．うまくいっている 13名 イ．ふつう 26名 ウ．うまくいっていない 6名
9．クラブ活動について家庭では	ア．支持してくれている 74名 イ．無関心 44名 ウ．反対している 30名	ア．支持してくれている 20名 イ．無関心 20名 ウ．反対している 6名

調査項目	体　育　系（147名中）		文　化　系（45名中）	
10．クラブ活動で一番楽しいこと。	○試合に勝った時	37名	○活動がうまくいった時	8名
	○技術が向上した時	24名	○活動している時	7名
	○練習をしている時	21名	○先輩と親しく話をすること	5名
	○皆と話をすること	10名	○皆と話をすること	4名
	○先輩と親しく話をすること	3名		
11．クラブへの今後の取り組みについて	ア．積極的に取り組んでいきたい	104名	ア．積極的に取り組んでいきたい	26名
	イ．あまり意欲がない	23名	イ．あまり意欲がない	12名
	ウ．できればやめたい	6名	ウ．できればやめたい	1名

○調査のねらいとまとめ

今回のクラブ活動調査の目的は中学，高校のアンケートの調査項目をほぼ同一のものにしていることから窺えるように，クラブ活動の中学校と高等学校の関連をみたいということにある。

結果をみると，まず生徒は自主的にクラブを選択していることが分かる。中学，高校のどちらも，また体育系，文化系を問わず，生徒は誰に強制されたわけでなく，まず自分で「やりたいからやる」とでもいう様にクラブを選んでいる。そして，選んだことを持続させたいという希望も目立っている。持続ということが大切なこととすれば，6年間は活動に十分な時間と言えるだろう。

クラブを日々の学校生活の中でみると，日常の中で大きい位置を占めているのが分かる。体育系のクラブでは活動はほぼ毎日と言ってよく，文化系でも，週3日以上という場合が多い。もっとも高校の文化系のクラブの活動日数の多少が分散しているが。

活動時間は中学は1～1.5時間，高校は2時間位が平均と言える。このことと活動の中で生徒たちが感じていることをみれば，改めてクラブの学校生活の中における意味の大きさが感じられる。

意味が大きいというのは常に求められ答えられ満たされるのを待っていると言い換えていいであろう。例えば，高校生では，現状でいいと言う生徒がいる一方，技術指導を求め顧問に対してはもっと密接なかかわりを求めている生徒たちがいる。

以上のことがアンケートから分かるのだが，次にこの全体的なクラブ像と生徒一人一人の日々の実際の活動の姿とを併せて，クラブの問題を考えていく必要があるであろう。

3　クラブ活動の研究発表（全国附属連盟高校部会教育研究会）

クラブ活動に関する研究発表が，生活指導部により，全附連・生活指導部会で，昭和45年・46年・50年・55年・60年になされている。クラブ活動の諸問題，とくにクラブと受験，リーダーシップと連帯性の欠如，生徒の個人主義的傾向，各クラブの部員数の変動，クラブの存廃，クラブ顧問のありかたなど本校におけるクラブ活動のありかたについての根本的な問題が取り上げられている。これからも継続的に発表されていくものであろう。以下は昭和55年・60年の発表内容である。

昭和55年（第22回全附連研究会）　発表者　岩城一郎・高木正喬

「クラブ活動の現状分析と検討　（第三報）」

○本校生徒のクラブ活動参加の数的変動

○クラブ顧問の眼からみたクラブ活動の現状

○十年前の顧問の考え方についての資料

この発表では，各クラブ員数の変動，クラブの盛衰について触れられ，今一度クラブ編成に関する基本的な方針について確認がなされている。また，各クラブ顧問からのクラブ活動の現状報告がなされており，クラブ顧問の生徒との日常的な触れ合いの重要性が指摘されている。

昭和60年（第27回全附連研究会）　発表者　琢磨昌一・西谷　泉

「クラブ活動の現状　（第四報）」

○本校生徒のクラブ活動参加の数的変動

○クラブ顧問の眼からみたクラブ活動の現状

○文化系クラブの現状に対する生徒達の認識

この発表では，特に文化クラブの衰退について述べられている点が注目される。後期執行部は「文化系クラブの建て直し」ということを活動方針に取り上げ，附高でよりよい高校生活を過ごすために附高文化の担い手として，文化系クラブを位置付け，低迷している文化クラブの活動を活発にさせるため，文化クラブの代表者を集めて討議を行ったり，中３生（附高30期生）への呼び掛けを行ったりしている。

あるクラブ部長は次のように言っている。「一般的に，文化クラブの衰退という問題は，部員の無自覚，部員数の減少，附高全体の文化クラブに対する無関心の３つの面があるといえるが，僕に言わせれば，後の２つに関しては仕方ないと思う。現在のように趣味が多様化・個別化してくると，地味で明確な目的に欠ける文化クラブに関して興味が薄れてくるのも無理は無い。確かに，文化クラブのプリントや冊子をすぐごみ箱に捨ててしまったりする行動については常識的に問題はあるが，その精神面に対しては，我々は何ら強制力はもっていないのである。部員の無自覚ということに関しては，ほとんど全クラブについて言えるのではないだろうか。クラブ全体として，なんとなく目的意識に欠け，部員一人一人が，今何をすればよいのかが解らず，その結果，雑談したり，遊んだり，クラブをさぼって勝手に帰ったりする。そういった情況を打破するためには，まず第一に部長がしっかり自覚をもって，無理にでも部員をひっぱっていくこと。第二に何か具体的な目標を決めること。この二点さえしっかりすれば何とかなると思う」

以上のように，中・高のクラブ活動はなされてきている。高校におけるクラブ活動は少なからぬ問題をかかえていることが分かる。この10年間のクラブ部員数の動向をみると，体育系クラブでは大きな変化はないが，文化系クラブでは，２，３のクラブを除いては，減少を示してるし，かろうじてクラブとしての位置をとどめる部員数を維持しているか，一次的に休部になったり，同好会になったりするクラブもある。また，２，３年同好会として存在し，そのまま廃部になるものも多い。元来，文化クラブはそんなに多くの部員がいるというものではないが，継続的な目標をもった活動が続くためには，

やはり一定の部員がいるということは必要な条件である。それが充分確保できない状態にあるということの要因は的確に求められなければならない問題である。そこに附中・高教育の一環としてのクラブ活動のあり方を求めることが出来るかも知れない。

金井　友厚
高橋　一幸
井畑　公男
田原悠紀男